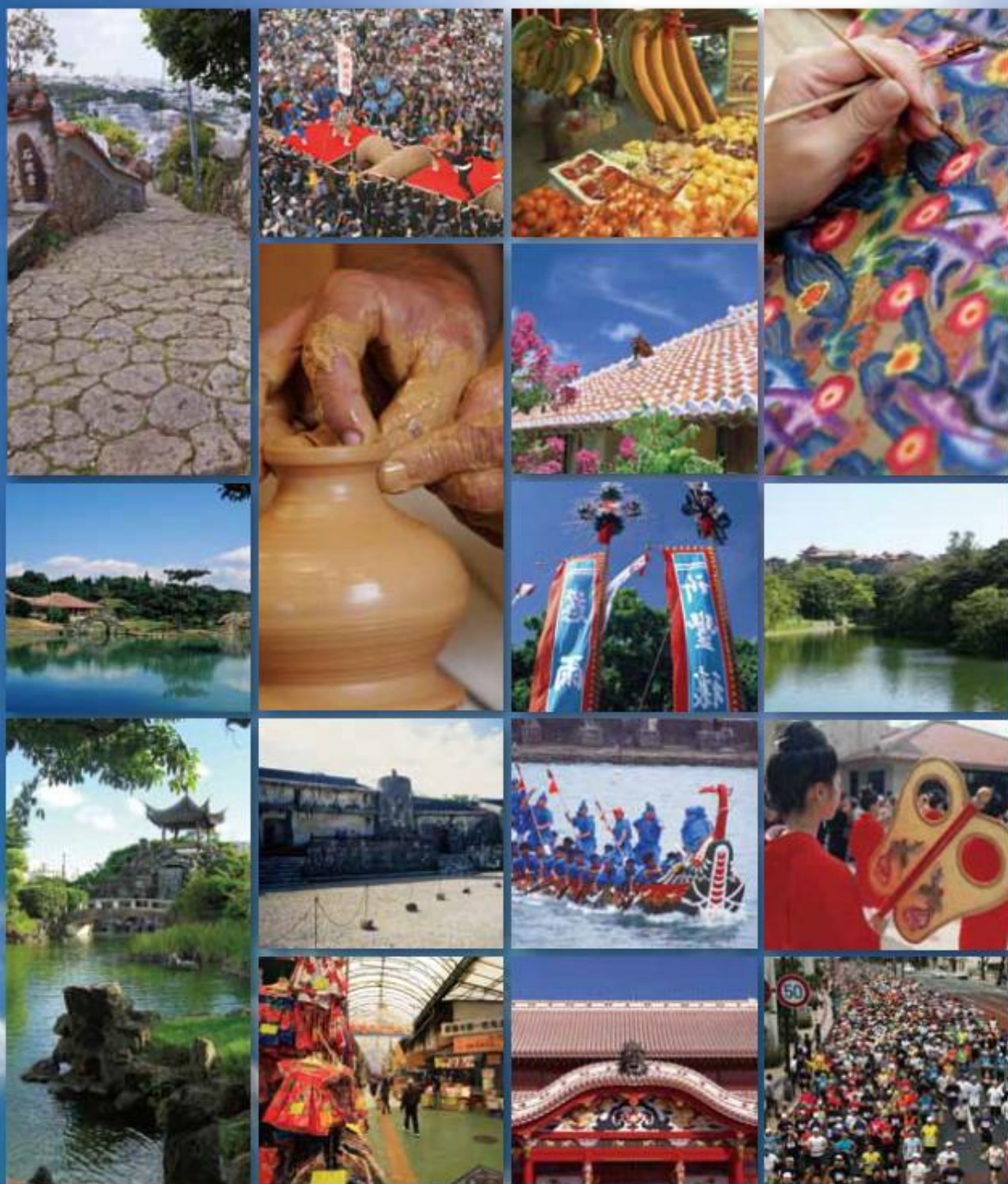


那霸市觀光基本計畫



目次

I	計画策定の趣旨	1
1	計画策定の目的	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画期間	2
II	那覇市観光の現状と課題	3
1	那覇市をとりまく状況	3
(1)	世界的情勢	3
(2)	国の観光実態	3
(3)	観光客の志向と実態	8
(4)	沖縄県の観光実態	10
2	那覇市の概要	23
3	那覇市の現状と観光特性	24
(1)	那覇市の観光資源、地域資源	24
(2)	那覇市観光利用の実態	28
(3)	県外在住者、那覇市民から見た那覇市のイメージ・評価	36
4	那覇市観光の課題	44
(1)	那覇ならではの観光魅力向上	44
(2)	観光客受入環境の整備・充実	45
(3)	受け入れ体制整備と観光産業の持続的発展・人材育成	47
III	那覇市観光基本計画	48
1	将来像と目指す方向性	48
(1)	将来像	48
(2)	目指す方向性	49
(3)	将来目標値	50
(4)	マーケット・ターゲットの想定	51
(5)	観光ゾーニング	53
2	取組の展開	56
(1)	取組の体系	57
(2)	取組の内容	59
3	推進体制	72
(1)	計画の推進体制	72
(2)	行政、市民、民間事業者の役割分担	73
(3)	取組のスケジュール	74
(4)	計画進捗評価と進捗管理手法	75
	【参考資料】	76

I 計画策定の趣旨

1 計画策定の目的

日本の観光産業は国の成長戦略に組み込まれ「国際化」を目指すとともに、「地域が主体となった着地型観光の振興」「都市づくりやまちづくりと連動した観光振興」「観光を通じた地域産業の6次産業化」などのように、地域活性化や産業振興といった幅広い分野と連動した振興策が模索されています。沖縄県でも地域の自然、文化を核とした“地域らしさの磨き上げ”により、観光を通じた地域活性化に取り組んでいるところであり、「世界水準の観光リゾート地」となることを目標に掲げ、アジアにおけるゲートウェイとなるべく、人流や物流の拡大を図っています。

那覇市は、沖縄観光のゲートウェイとして、交通結節や宿泊、飲食物販などで中核的機能を担っており、平成20年に策定された第4次那覇市総合計画では、目指すべき都市像の一つに「観光交流都市」を掲げています。また、那覇市を訪問する外国人観光客の増加や、那覇クルーズターミナルの供用開始、那覇空港滑走路増設事業など、環境の大きな変化を見据え、観光客数の更なる増加と来訪目的の多様化に伴う受入環境の充実が求められています。

こうした状況を踏まえ、本計画は、那覇市自身が持つ歴史文化や産業などの那覇らしさを磨き上げ、国内のみならず海外の観光客にも魅力的な観光交流都市を目指し、その実現に向けた観光振興を進めていくための指針となることを目的として策定します。また、それが市民にとっても魅力的なまちづくりに寄与する計画となることを目指します。

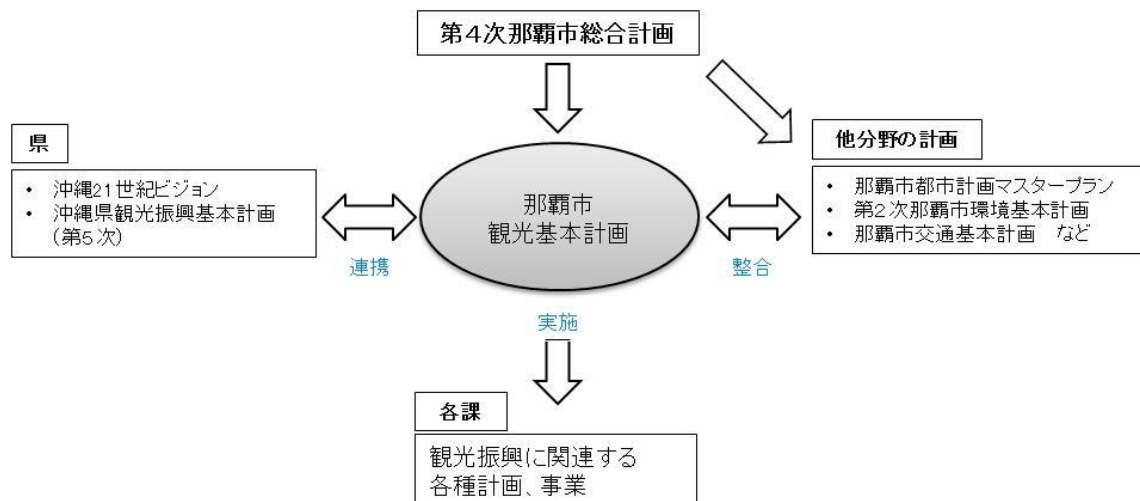
2 計画の位置づけ

本計画は、「第4次那覇市総合計画」に掲げる「人も、まちも活きいき、美ら島の観光交流都市」の実現のため、観光分野において根幹となる計画であり、関連する個別事業の総合的指針となるものです。本市の他の分野の計画である、「那覇市都市計画マスタープラン」「第2次那覇市環境基本計画」などとは並列の立場にあり、計画の整合性を図るものとします。

また、アジアにおけるゲートウェイ機能を果たす空港や港湾を有すること、琉球の歴史文化に関連する資源が集積することなどから、本市が沖縄観光に占める役割は極めて大きなものとなっています。これらの背景を踏まえ、本計画を、沖縄21世紀ビジョンを市の立場から進めていくためのものと位置付けます。

なお、本計画で示す取組は、行政、市民、民間事業者がそれぞれの役割分担を踏まえた上で連携、協働して取り組んでいく内容です。

図表 I -1 計画の位置づけ イメージ図



3 計画期間

本計画の期間は、平成 27 年度を初年度とし、平成 36 年度（2024 年度）を目標年度とする 10 年間とします。

本市の観光を巡る状況の変化や市全体に共通する基本的な施策の変更があった場合などは、必要に応じて計画の見直しを行います。

II 那覇市観光の現状と課題

1 那覇市をとりまく状況

(1) 世界的情勢

ア 国際観光市場

国際観光客数は世界的に増加傾向にあります。各国で観光への投資が積極的に行われ、インフラ開発や経済活動を通じ、観光産業は世界でも有力な産業のひとつとして成長を続けています。UNWTO（国連世界観光機関）の統計によると、昭和 55 年に 2 億 7,800 万人だった国際観光客数は、平成 25 年には 10 億 8700 万人と、約 30 年で 4 倍に増加しました。今後、平成 22 年からの 20 年間に年間約 3.3%の伸び率で拡大し、平成 42 年には 18 億人に達すると予測されています。

平成 25 年における国際観光客の受入国は、1 位がフランス、2 位が米国、3 位がスペインとなっており、日本は 27 位となっています。これを観光収入でみると 1 位が米国、2 位がスペイン、3 位がフランスとなっており、日本は 21 位となっています。

イ アジア太平洋地域における国際観光の伸長

地域別にみると、近年はアジア太平洋地域の市場拡大が目覚ましく、平成 25 年のアジア太平洋地域における国際観光客数が前年より 6%増の 2.48 億人となり、国際航空路線発着数が前年より 6%増加したことなどを受けて他地域と比較し最も大きな伸びを見せました。国際観光客の受入国では、中国が 4 位、タイが 10 位となっています。

国際観光収入でも中国（4 位）、タイ（7 位）、香港（10 位）などのアジア諸国が上位に位置し、アジア太平洋地域で 3,590 億米ドルと全体の 31%のシェアを占めます。特に、中国市場は 1,290 億米ドル相当の観光支出を行う極めて大きい観光市場へと成長しています。

なお、日本は前年比 24%増と、平成 25 年に初めて訪日外国人数が 1,000 万人に到達しました。

(2) 国の観光実態

ア 観光立国実現に向けた国の動向

平成 32（2020）年に訪日外国人数を 2,000 万人とする政府目標の達成に向けて、平成 26 年 6 月に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014」が策定されました。本プログラムでは、官民一体で施策を推進していくため、①「平成 32（2020）年オリンピック・パラリンピック」を見据えた観光振興、②インバウンドの飛躍的拡大に向けた施策、③ビザ要件の緩和など訪日旅行の容易化、④世界に通用する魅力ある観光地域づくり、⑤外国人旅行者の受入環境整備、⑥MICE の誘致・開催促進と外国人ビジネス客の取り込み、の 6 つの柱がとりまとめられています。

図表Ⅱ-1 観光行政を巡る近年の動向

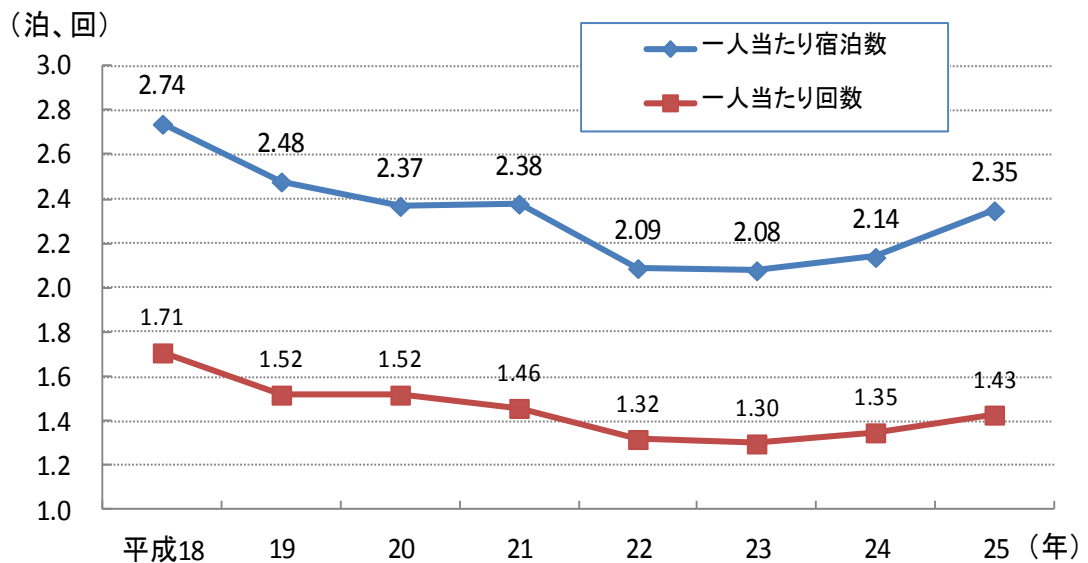
平成 15 年	4 月	ビジット・ジャパン・キャンペーン開始
平成 18 年	12 月	観光立国推進基本法が成立（全会一致）
平成 19 年	6 月	観光立国推進基本計画を閣議決定
平成 20 年	10 月	観光庁設置
平成 21 年	7 月	中国個人観光ビザ発給開始
平成 24 年	3 月	観光立国推進基本計画を閣議決定
平成 25 年	6 月	観光庁 観光立国実現に向けたアクション・プログラムとりまとめ
	12 月	史上初の訪日外国人数 1000 万人達成
平成 26 年	6 月	観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2014 策定

イ 日本における観光の状況

（ア）日本人国内旅行の状況

観光庁の「旅行・観光消費動向調査」によると、平成 25 年度の国民一人当たりの国内宿泊観光旅行回数は 1.43 回（前年比 5.9%増・暫定値）、国内宿泊観光旅行宿泊数は 2.35 泊（同 9.8%増・暫定値）でした。旅行回数、宿泊数ともに、平成 23 年度までは減少していましたが、それ以降は増加しています。（図表Ⅱ-2）。

図表Ⅱ-2 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移



出典：国土交通省「観光白書」（平成 26 年版）

※平成 25 年の数値は暫定値

(イ) 訪日観光の状況

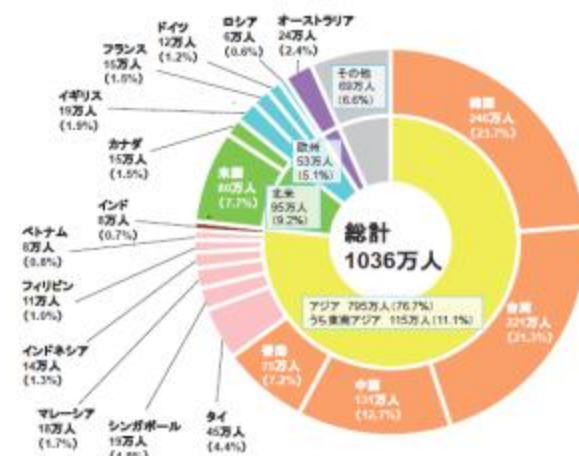
平成 25 年の年間訪日外国人旅行者数は 1,036 万人（対前年比 24.0%増）と、これまでの過去最高であった 861 万人（平成 22 年）を上回り、初めて 1,000 万人を突破しました。国・地域別に見ると、アジア（台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、インド）の 8 か国・地域に豪州、フランスを加えた合計 10 か国・地域で年間訪日旅行者数の最高を記録し、訪日外国人に占めるアジアの割合は 76.7%と高い比率を占めています。（図表Ⅱ-3、Ⅱ-4）

図表Ⅱ-3 東アジア、ASEAN6 か国の
訪日外国人旅行者の推移



出典：国土交通省「観光白書」（平成 26 年版）

図表Ⅱ-4 平成 25 年訪日外国人旅行者の内訳



出典：国土交通省「観光白書」（平成 26 年版）

(ウ) 観光地域づくりの全国的な動向

近年、各地域において、地方自治体や NPO 団体などの様々な主体による観光地域づくりの施策が積極的に進められています。従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行（ニューツーリズム）商品の造成が広がっています。観光庁においても、平成 25 年度に「ニューツーリズム普及促進モデル事業」を実施しました。各地域の特色ある観光資源を活用して造成された旅行商品について、その普及を促進するための方策を検討し、実施事業者向けにプロモーションの手引き書を作成、関係者へ配布するとともに観光庁のホームページで公表するなど、振興を図っています。

(エ) その他の動向

a 国際会議など（MICE）

世界全体の国際会議の開催件数は年々増加しています。地域別の開催件数については、国際機関・学会の本部の多くが設置されている欧州が世界全体の約半数を占めています。アジア・中東や南米地域でも急速な経済成長を背景として、特に開催件数の伸びが高くなっており、過去 10 年間で、アジア・中東地域が約 1.8 倍、南米地域が約 2.4 倍に増加しています。（図表 II-5）

図表 II-5 各国の国際会議開催件数（平成 25 年）

平成25年 世界順位	国名	平成25年 開催件数
1	米国	829
2	ドイツ	722
3	スペイン	562
4	フランス	527
5	英国	525
6	イタリア	447
7	日本	342
8	中国	340
9	ブラジル	315
10	オランダ	302
11	カナダ	290
12	韓国	260
13	ポルトガル	249
14	オーストリア	244
15	スウェーデン	238
16	オーストラリア	231

出典：国土交通省「観光白書」（平成 26 年版）

※国際会議協会による統計に基づいて観光庁が作成

b 災害に強い地域づくり

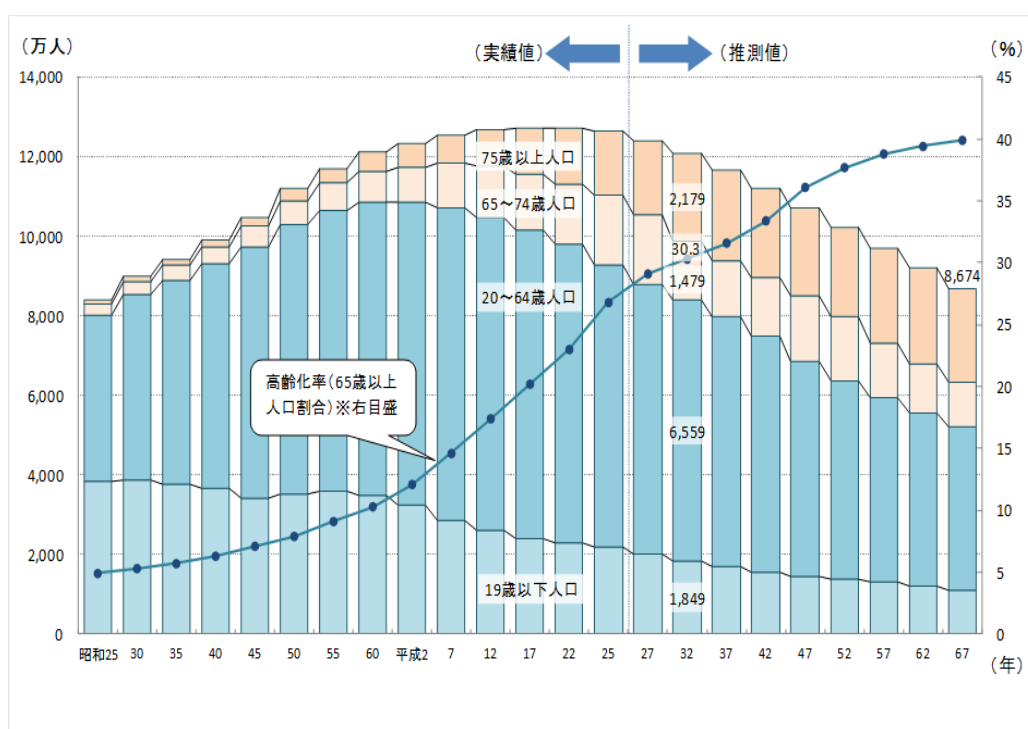
東日本大震災後、観光客の「安心・安全」に対する意識が高まっており、自然災害や人的災害、事故の発生時に、地理に不案内な観光客をすみやかに避難誘導するための体制整備が求められています。災害危機箇所の整備点検をはじめ、避難場所・ルート確保、誘導サインの整備、確実な避難情報・災害情報などの伝達、官民が連携した実践的な防災訓練などの実施が全国各地で推進されています。

また、訪日外国人受入環境整備という側面とあわせ、発災時の外国人避難誘導に対する施策強化（多言語での情報提供、居住外国人との連携など）も重要施策と位置付けられています。

c バリアフリー観光地づくり

日本の総人口は、今後、長期の人口減少過程に入り、内閣府の推計によると、平成 72 年（2060 年）には 9,000 万人を割り込むと推計されています。高齢者人口は今後、「団塊の世代」（昭和 22～24 年に生まれた人）が 65 歳以上となる平成 27 年には 3,000 万人を超え、「団塊の世代」が 75 歳以上となる平成 37 年には 3,500 万人に達すると見込まれています。その後も高齢者人口は増加を続け、平成 54 年に 3,863 万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。今後より一層の高齢化が見込まれるなか、観光客が不安や不便なく訪れることができるユニバーサルツーリズムに対応した観光地づくり（バリアフリー観光地づくり）が全国的に活性化しています。（図表Ⅱ・6）

図表Ⅱ・6 高齢化の推移と将来推計



出典：内閣府「高齢社会白書」（平成 25 年度版）

※2010 年までは総務省「国勢調査」、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

※1950 年～2010 年の総数は年齢不詳を含む

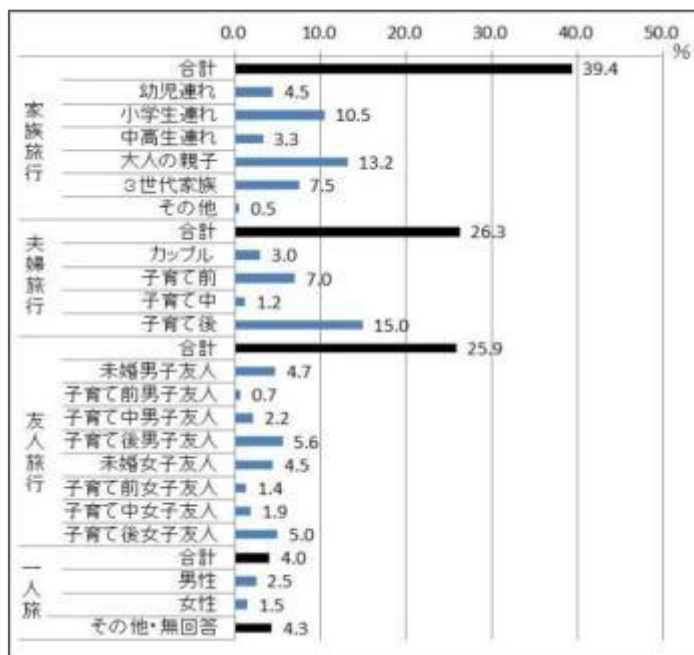
(3) 観光客の志向と実態

ここでは（公財）日本交通公社の「旅行者動向 2013」の調査結果から、国内宿泊観光旅行の傾向について概観します。

ア 旅行同行者（平成 24 年）

国内旅行の同行者は、「家族旅行（39.4%）」が最も多く、次いで「夫婦旅行（26.3%）」「友人旅行（25.9%）」となります。家族旅行の中では大人の親子旅行が 13.2%と最も高く、夫婦旅行では子育て後の夫婦旅行が 15.0%と高くなっています。

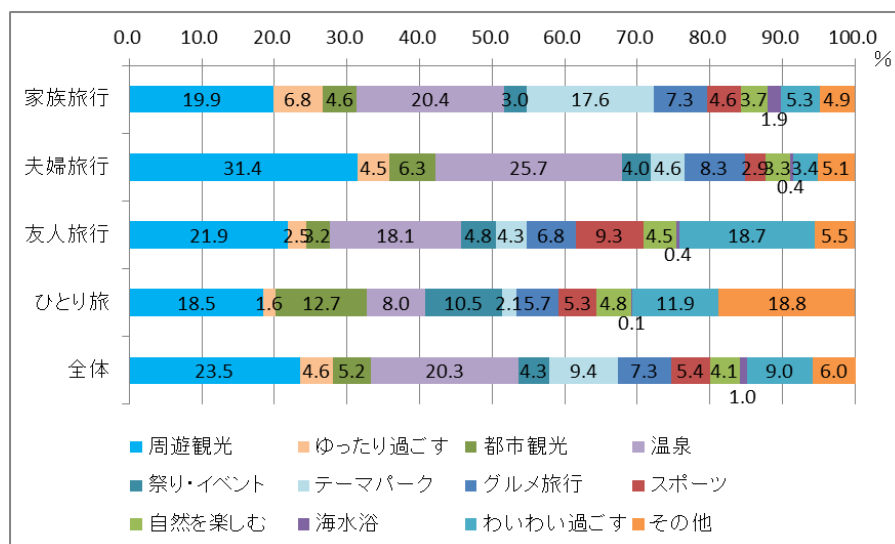
図表Ⅱ-7 旅行同行者



イ 旅行の目的（平成 22～平成 24 年の平均値）

旅行の目的では、全体で「周遊観光（23.5%）」が最も高く、次いで「温泉（20.3%）」が高くなっています。

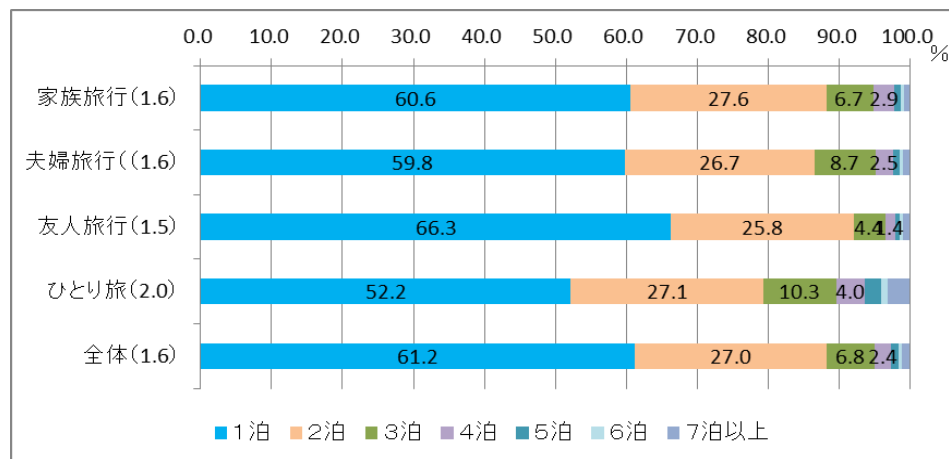
図表Ⅱ-8 旅行目的



ウ 宿泊泊数（2010～2012 年の平均値）

一回当たりの旅行の宿泊泊数では、同行者の形態に関わらず 1 泊 2 日が半数以上を占めています。全体の平均泊数では 1.6 泊です。

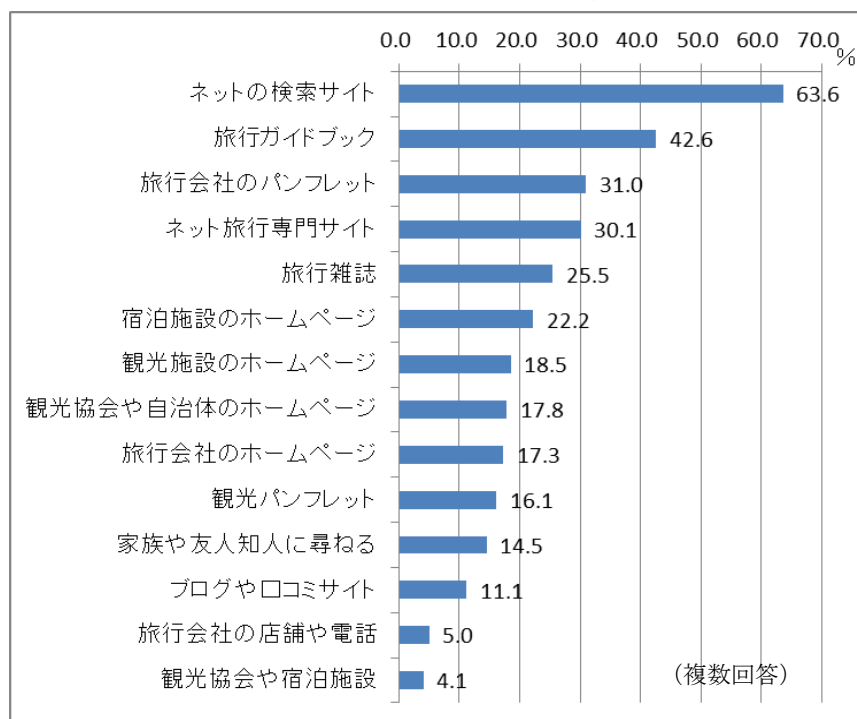
図表Ⅱ-9 宿泊泊数



エ 旅行の情報収集源（2012 年）

旅行の情報収集については、「ネットの検索サイト（63.6%）」が最も高く、およそ 3 分の 2 の人がネットを活用しています。次いで「旅行ガイドブック」が 42.6%と高くなっています。

図表Ⅱ-10 旅行の情報収集源



(4) 沖縄県の観光実態

ア 沖縄県観光客の状況

沖縄県全体の入域観光客数は、1,000 万人を目指し増加を続けています。特に、外国人観光客は近年増加傾向にあり、平成 25 年度には全入域観光客のうちおよそ 10%を外国人観光客が占めています（図表Ⅱ-11）。

県内における観光消費は、平成 25 年度で一人あたり 67,659 円となり、平成 21 年度に 70,000 円を割り込んで以降、6 万円台後半で横ばいとなっています（図表Ⅱ-12）。

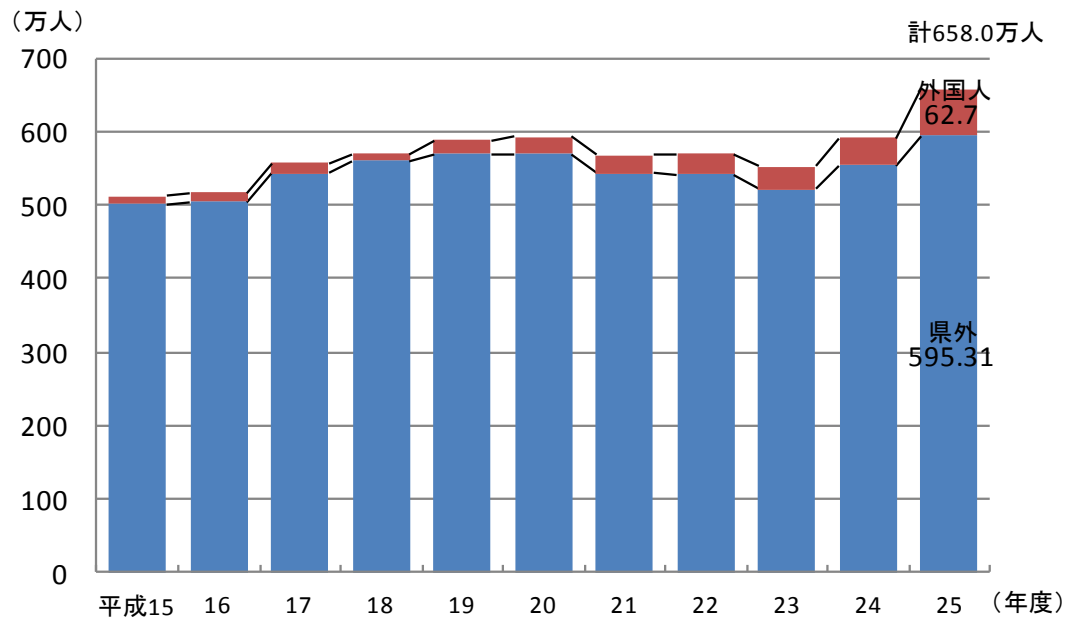
沖縄県及び沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）は、重点市場と位置付ける台湾、韓国、香港及び中国本土のみならず、戦略開拓市場として位置付けている ASEAN 諸国やロシア、ならびに新規市場である北米、欧州、豪州からの誘客促進のため、誘客活動及び航空路線やクルーズ路線の誘致活動などを積極的に展開しています。このほか、国家戦略特区の国際観光拠点に指定されたことにより、外国人受け入れ態勢の強化に関する施策の推進が期待され、外国人観光客数は今後も更なる増加が見込まれます（図表Ⅱ-13）。

また、沖縄県へのリピーター（再訪客）は、年々増加傾向にあり、平成 25 年度では 8 割の水準となっています。推移をみると、昭和 58 年度時点では、リピーターの 2 割に対し初回訪問者は 8 割でしたが、平成 9 年度にリピーターが初回訪問者の割合を超え、平成 22 年度以降はリピーターが 8 割という水準で推移しています（図表Ⅱ-14）。

平成 25 年度における観光客の沖縄訪問回数をみると、62.8%が「3 回目以上」となっており、全体の 2 割以上は、「10 回目以上」のヘビーリピーターとなっています（図表Ⅱ-15）。観光客全体の前回の沖縄訪問時期をみると、3 年以内に来訪したことがあるという層が 52.7%、一方で 5 年より前に来訪している層は 19.4%となります。（図表Ⅱ-16）また、初回訪問者を除き、リピーターのみにおける前回来訪時期をみると、3 年以内に来訪した層は 65.0%、5 年より前に来訪した層は 24.0%となります。（図表Ⅱ-17）

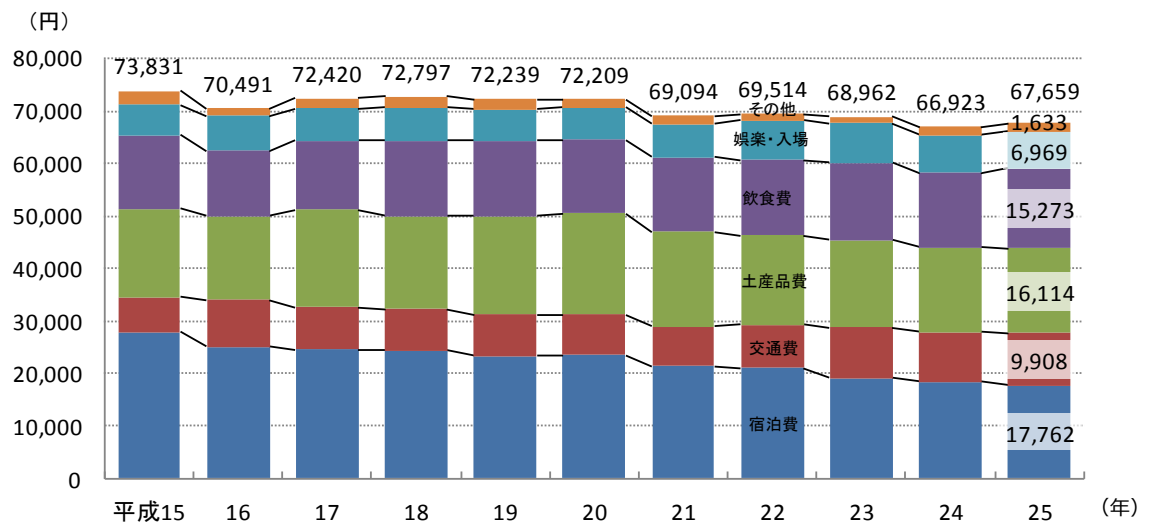
以上のように、一概にリピーターといっても来訪間隔は様々であるため、これら各層の誘致拡大に繋がるプロモーションを行っていく必要があります。

図表Ⅱ-11 沖縄県の入域観光客数の推移



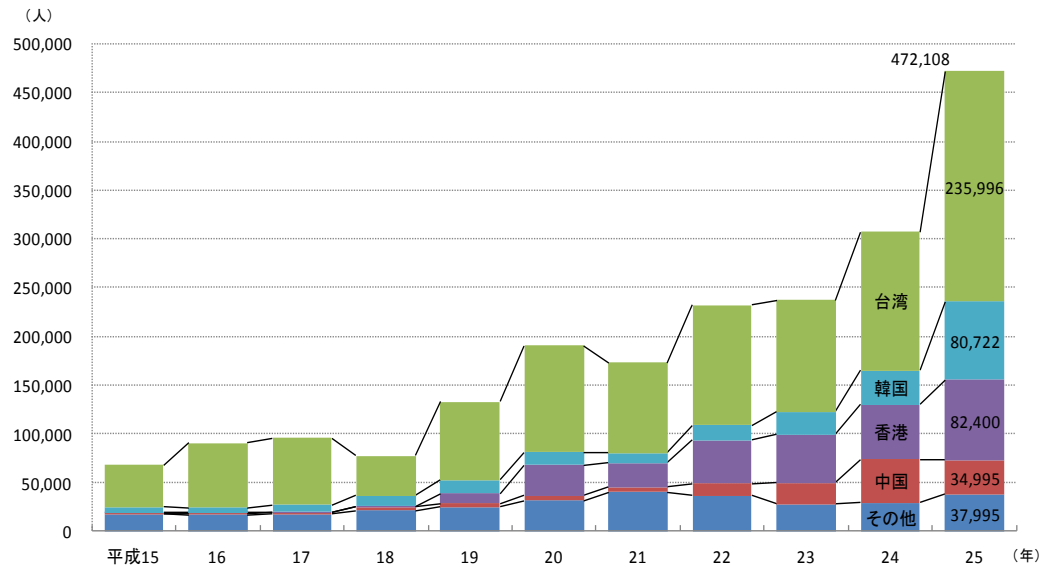
出典：沖縄県「入域観光客数概況（月別・暦年・年度）」を基に作成

図表Ⅱ-12 観光客の一人当たり沖縄県における消費額



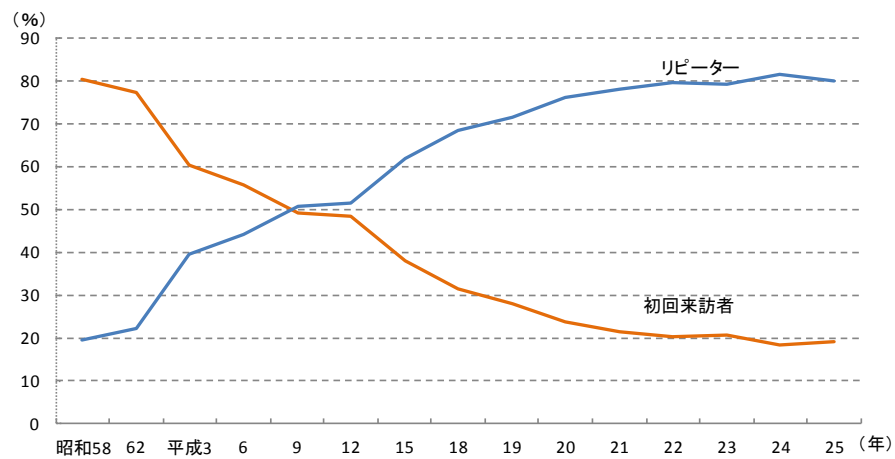
出典：沖縄県 平成25年度観光統計実態調査

図表Ⅱ-13 外国人観光客の国籍別入域観光客数



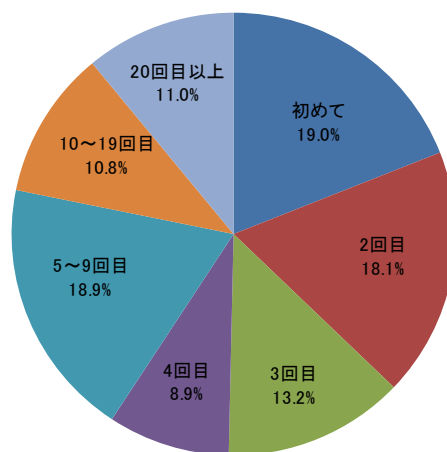
出典：沖縄県「入域観光客数概況（月別・暦年・年度）」を基に作成

図表Ⅱ-14 リピーター率の推移



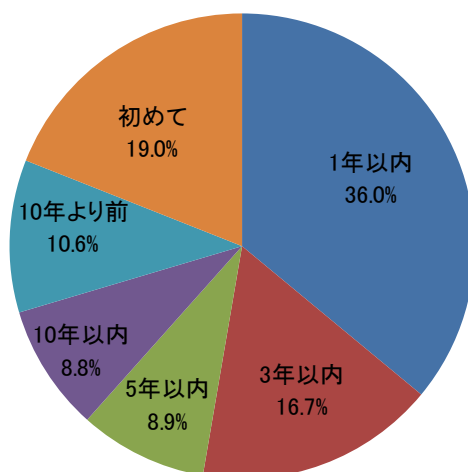
出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-15 沖縄訪問者における沖縄への訪問回数



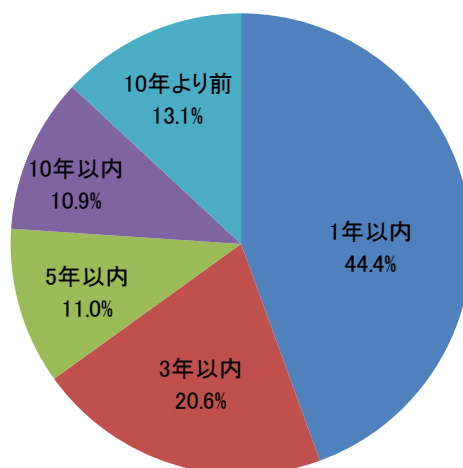
出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-16 沖縄訪問者における前回の沖縄来訪時期



出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-17 リピーターにおける前回の沖縄来訪時期
(初回来訪者を除く)



出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

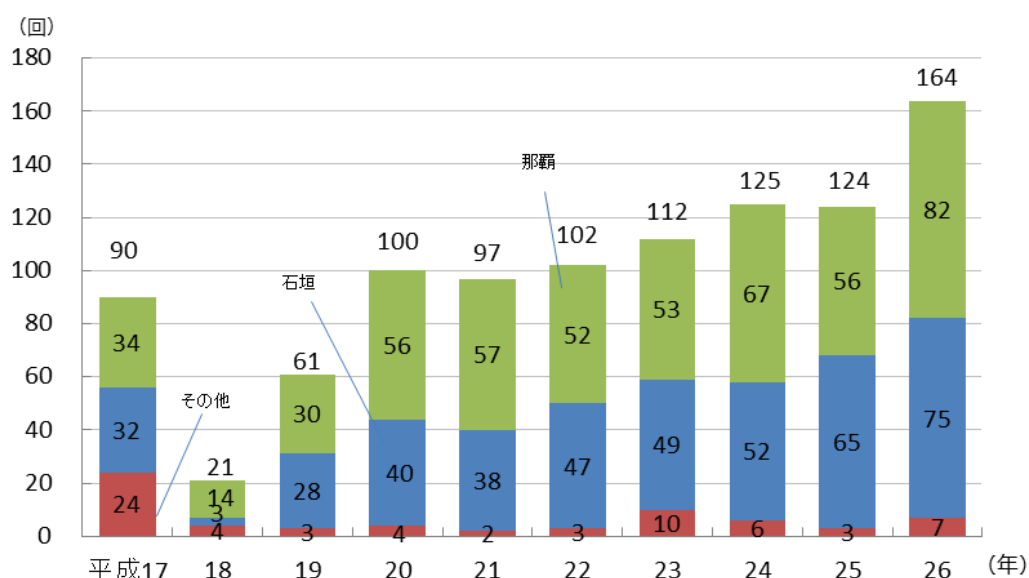
イ 交通網整備による入域者数拡大の可能性

新石垣空港の開設、那覇空港への海外定期路線拡大や LCC の就航などの航空路線の拡充、クルーズ船の寄港頻度の増加など、国内外から沖縄県へ来訪する交通網の整備が進んでいます。

クルーズ船利用者数実績は、平成 25 年に 15.5 万人で過去最高を記録しました。寄港回数も増加傾向にあり、平成 26 年は 164 回で過去最高となる予測です(図表Ⅱ-18、19)。政府による入管手続の簡易化促進などの施策を背景に、今後も引き続きクルーズ船誘致が促進されるとみられます。

また、那覇空港第二滑走路の整備により、航空機の発着回数は約 30%増加するといわれます。これに伴う平成 32 年(2020 年)の需要について、那覇空港の利用者数は、1,575~1,748 万人(平成 24 年度は 1,540 万人)になると予測されています。

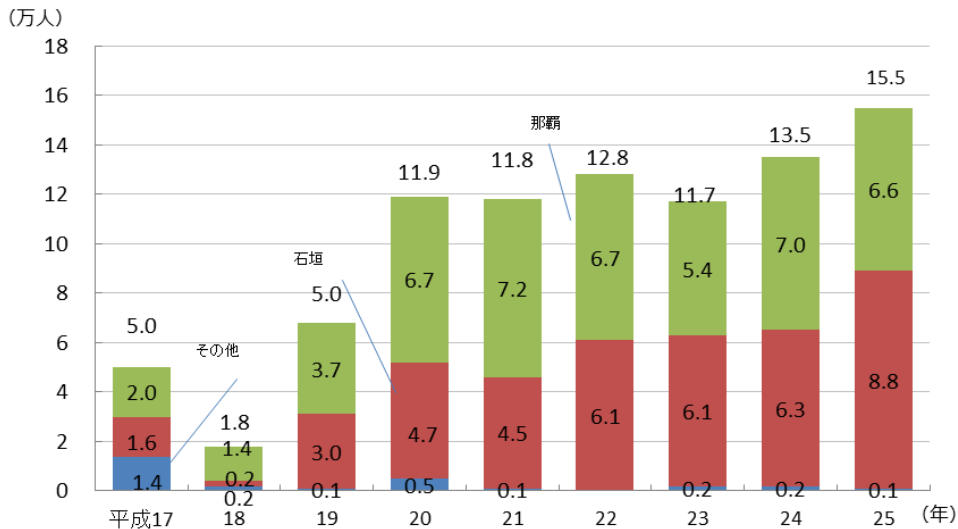
図表Ⅱ-18 沖縄県におけるクルーズ船の寄港回数



出典：内閣府沖縄総合事務局の定例記者会見(平成 25 年 12 月)

平成 26 年については、同局へのヒアリングによる確認(平成 26 年 7 月 25 日)

図表Ⅱ-19 沖縄県におけるクルーズ船による入域観光客数



出典：内閣府沖縄総合事務局の定例記者会見(平成 25 年 12 月)

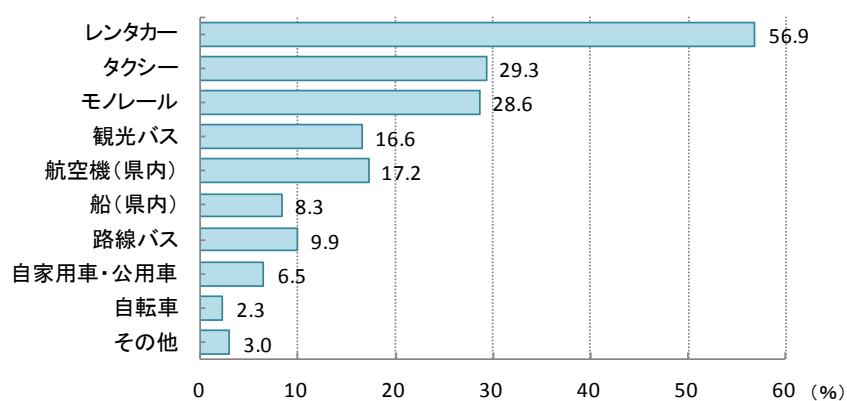
ウ 沖縄観光で利用されている交通手段

沖縄滞在中に利用された交通手段については、レンタカーの利用が最も多く 56.9% となっています(図表Ⅱ-20)。これについては、モノレールが那覇市内のみの運行であることや、観光客視点のバス路線が脆弱であること、観光地の点在性などが理由であるとされています。

経年の推移をみると、レンタカーは常に最も多く利用されており 50~60% の割合で推移しています(図表Ⅱ-21)。タクシー、モノレール、路線バスはここ 2、3 年で増加がみられるものの、観光バスでは旅行形態の個人化などもあり、利用割合は減少しています。

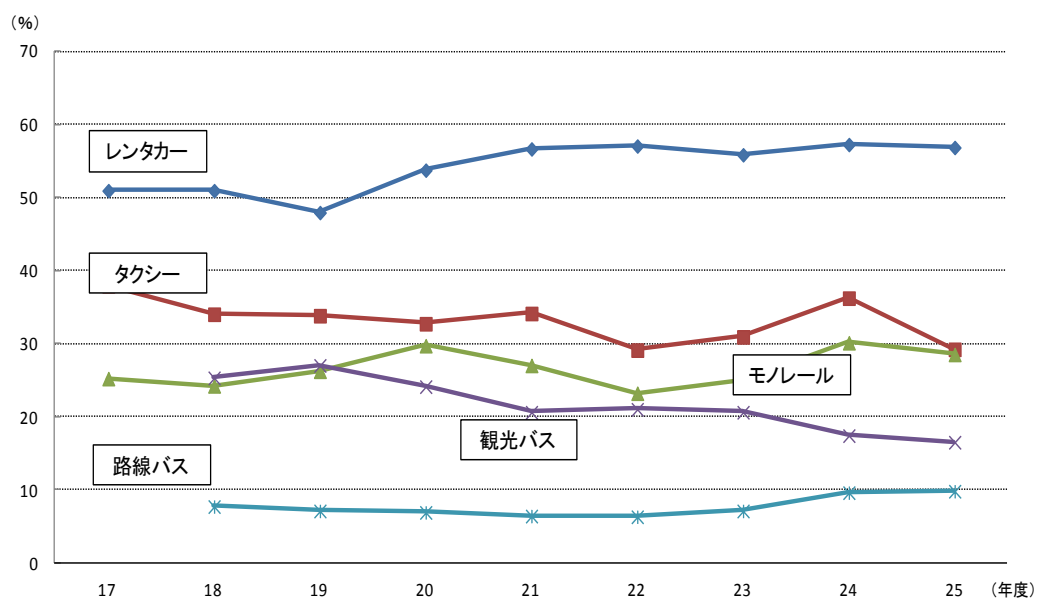
利用交通手段の満足度については、交通手段の利用割合とは比例していません。接客・サービスや安全運転に対し、最も満足度の高い交通手段は観光バスで、およそ 7 割の利用者が大変満足と評価しており、続くモノレールについても大変満足と答えた割合が 62.8% と高くなっています。レンタカーおよび路線バスについては、接客・サービスに対して大変満足と答えた割合が 40% 前後と前述の二つと比較するとやや低くなっています。なお、渋滞状況(「やや不満」「不満」が 36.8%)、交通マナー(同 35.0%)、運転しやすさ(同 24.8%)、道路案内・標識(同 21.3%) など、道路状況に対する不満度は相対的に高くなっています(図表Ⅱ-22)。

図表Ⅱ-20 沖縄県滞在中に利用した交通手段



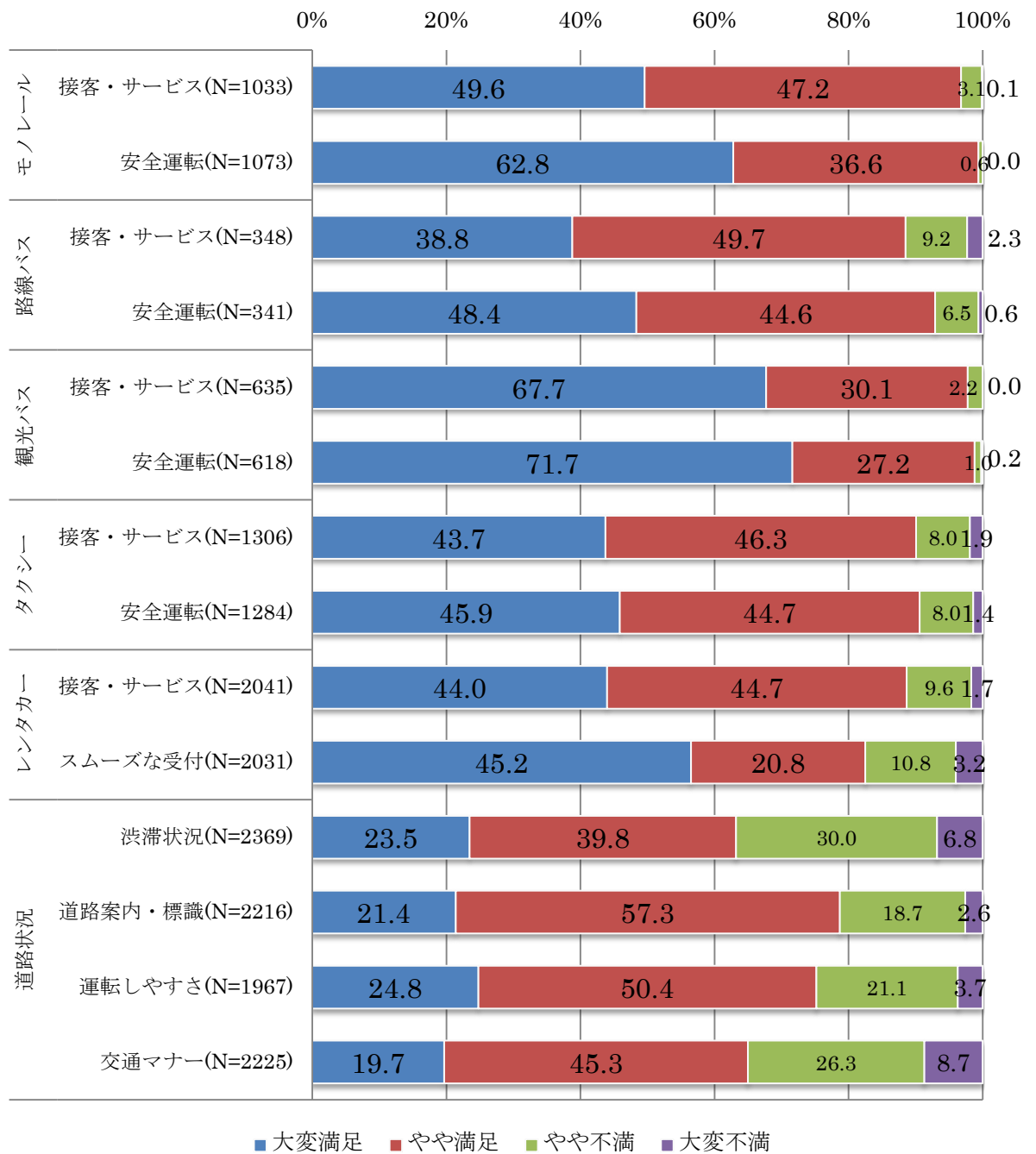
出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-21 沖縄県滞在中に利用した交通手段の推移



出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-22 交通機関や道路状況の満足度



出典：沖縄県「平成 24 年度観光統計実態調査」

(注) 平成 25 年度版では、同様の項目が無いため、平成 24 年度の結果を使用している。

エ 宿泊施設の状況

平成 25 年 12 月 31 日時点の沖縄県における宿泊施設の客室数は 38,905 室となっており、この 10 年間で約 1.5 倍に増加しています。客室数ごとの内訳では、大規模ホテルが増加傾向にあり、中規模ホテルと小規模ホテルについては横ばいとなっています（図表Ⅱ-23）。

※宿泊施設の規模 大規模：300 人以上、中規模：100 人以上 300 人未満、小規模：100 人未満

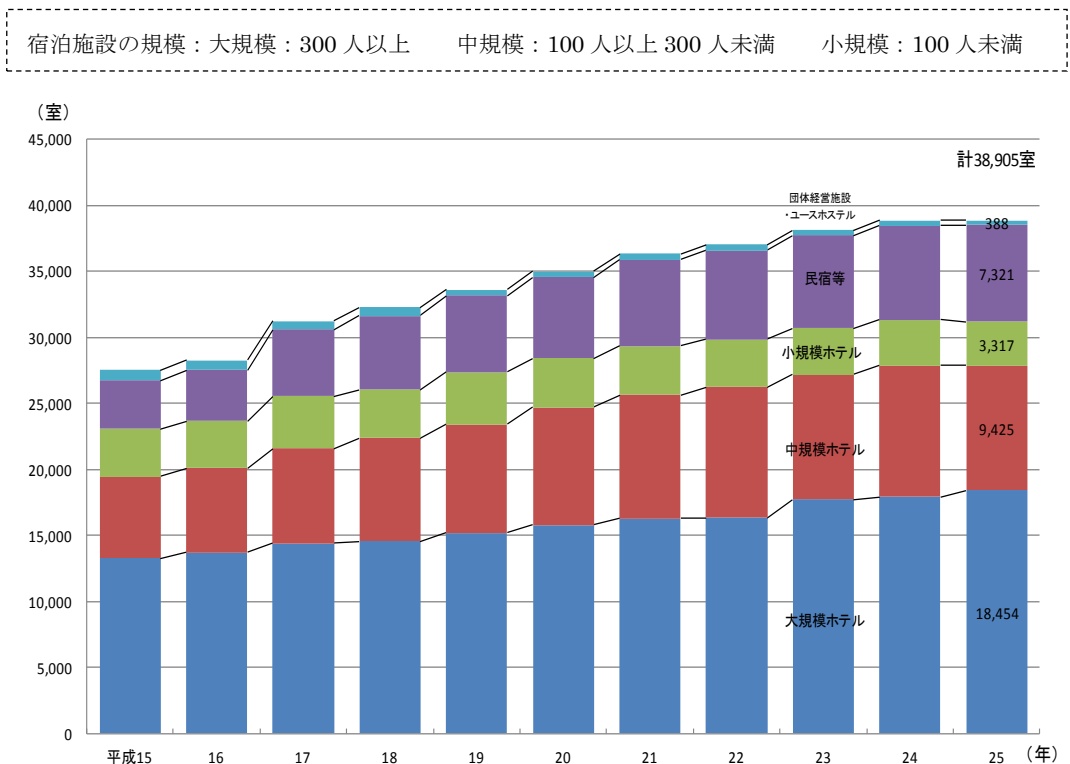
なお、平均客室稼働率の月別波動をみると、7 月から 9 月までの夏期、および卒業旅行などが見込まれる 2～3 月の稼働は高いが、冬期及び 4～6 月のオフ期には低くなる月もあり、ピーク期とオフ期の差が大きくなっています（図Ⅱ-24）。

観光客の県内における平均滞在日数は平成 25 年度で 3.83 日と、概ね 3.7～3.8 日の間で推移しています（図Ⅱ-25）。

※図表は平均宿泊数であり、宿泊数に 1 日を足した数を平均滞在日数としています

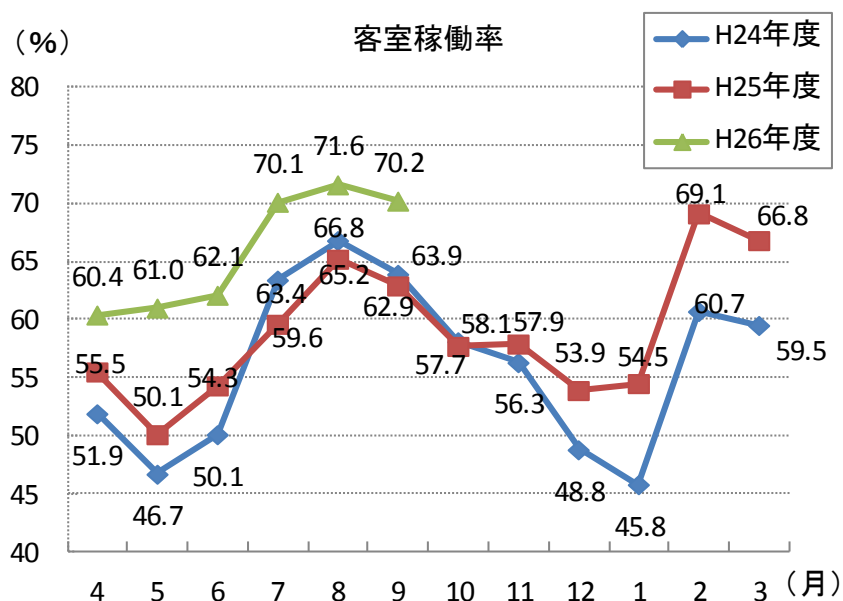
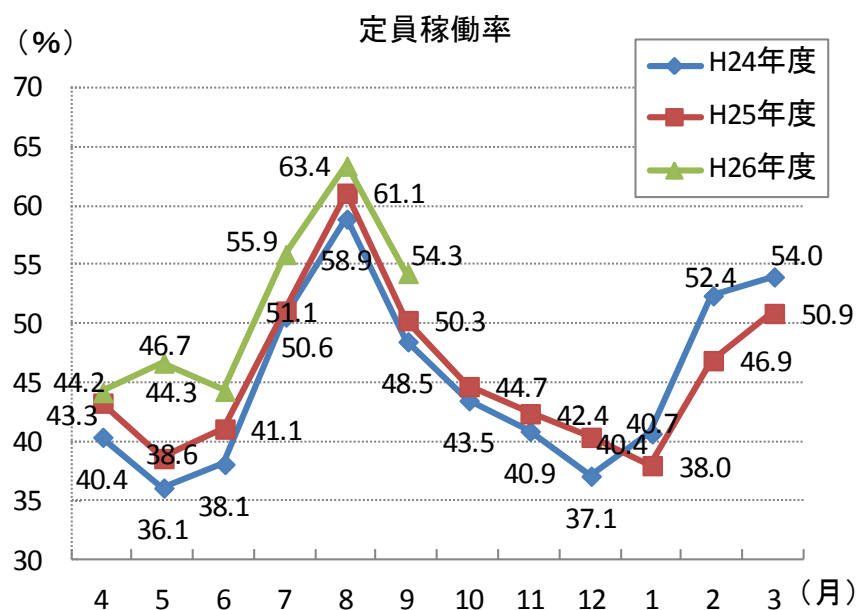
また、観光庁の宿泊旅行統計調査によると、平成 25 年の沖縄県の延べ宿泊者数は、2,078 万 9,590 人泊となっています（図表Ⅱ-26）。

図表Ⅱ-23 沖縄県内の規模別宿泊施設の客室数の推移



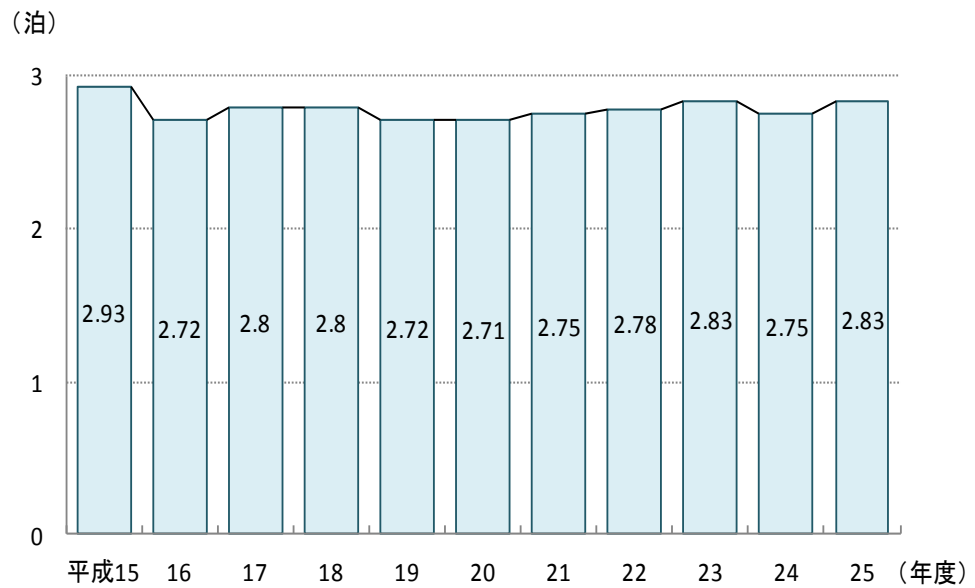
出典： 沖縄県「宿泊施設実態調査」

図表Ⅱ-24 沖縄県内の宿泊施設定員稼働率および客室稼働率の推移



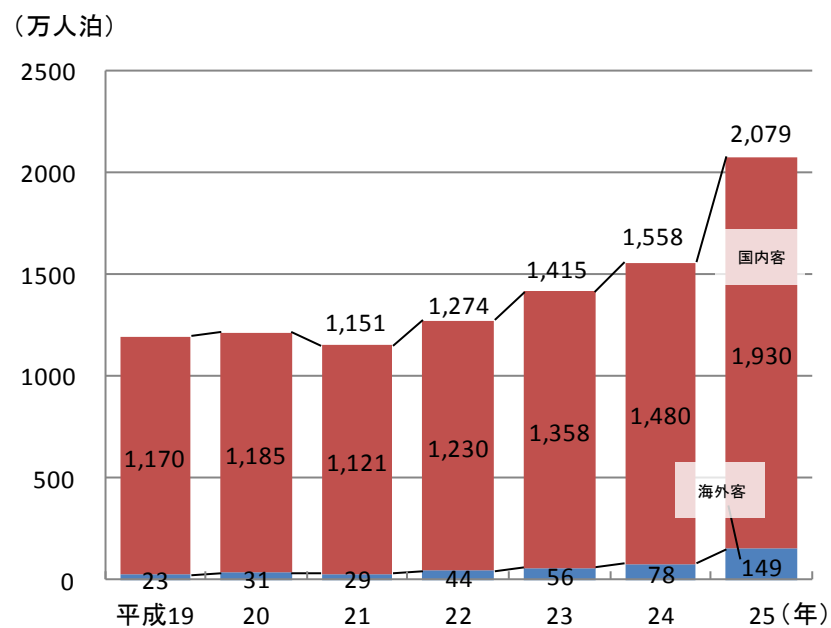
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

図表Ⅱ-25 沖縄県内での平均泊数の推移



出典：沖縄県「平成25年度観光統計実態調査」

図表Ⅱ-26 沖縄県内での年間延べ宿泊者数の推移（暦年）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

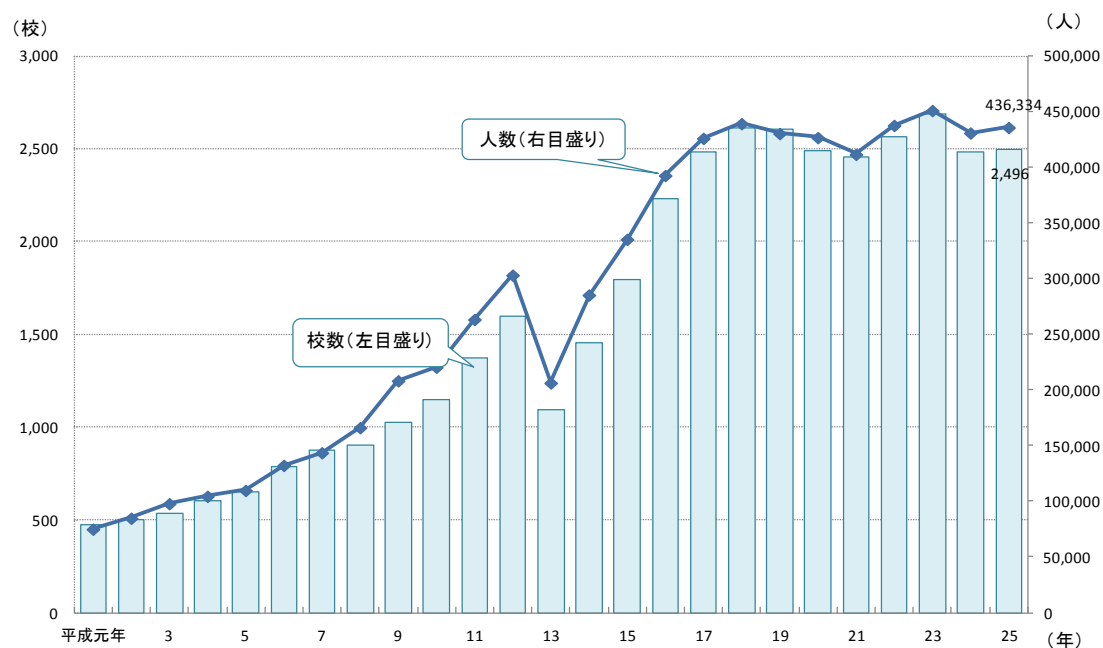
※平成22年4月以降は、従業者数9人以下を含む全宿泊施設も調査対象に加えている

オ 修学旅行団体の入域状況

沖縄県における修学旅行の実施状況について、平成 25 年の実績をみると、2,496 校（43 万 6,334 人）の受け入れがあります。これまでの推移をみると、平成 25 年の受け入れ規模は、平成元年から校数でおよそ 5 倍、人数ではおよそ 6 倍に増加していますが、一方で直近の 10 年間は概ね横ばいの傾向にあります（図表Ⅱ-27）。

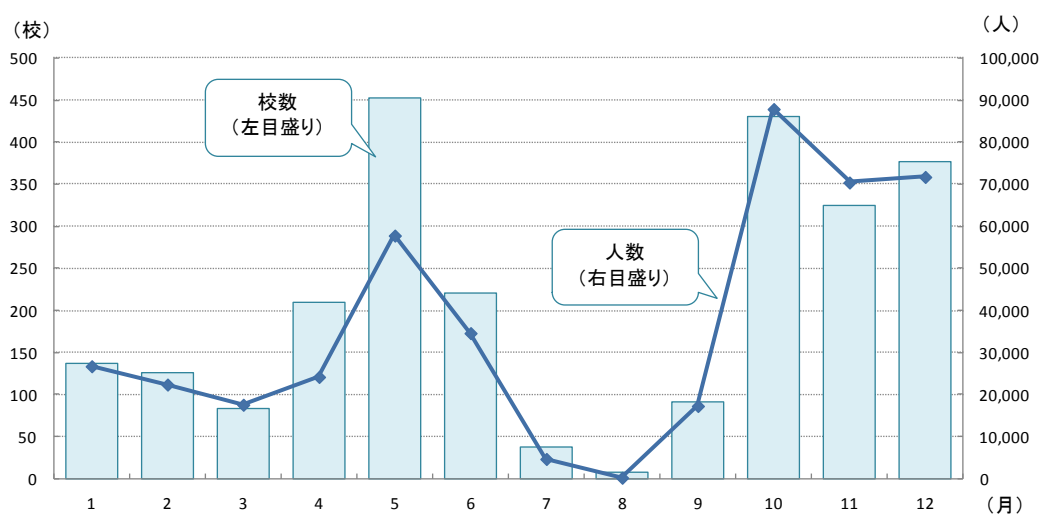
なお、平成 25 年実績における月別入込状況をみると、5 月と 10～12 月に校数、人数とも多くなっており、航空運賃など渡航滞在費が高くなる春休み、夏休みなどの観光シーズンを除く期間が修学旅行の繁忙期となっています（図表Ⅱ-28）。

図表Ⅱ-27 沖縄県内における修学旅行実施の校数および人数の推移(暦年)



出典：沖縄県 修学旅行入込状況調査（平成 26 年度）

図表Ⅱ-28 沖縄県内における修学旅行実施の校数および人数の推移
(平成 25 年実績、月別)



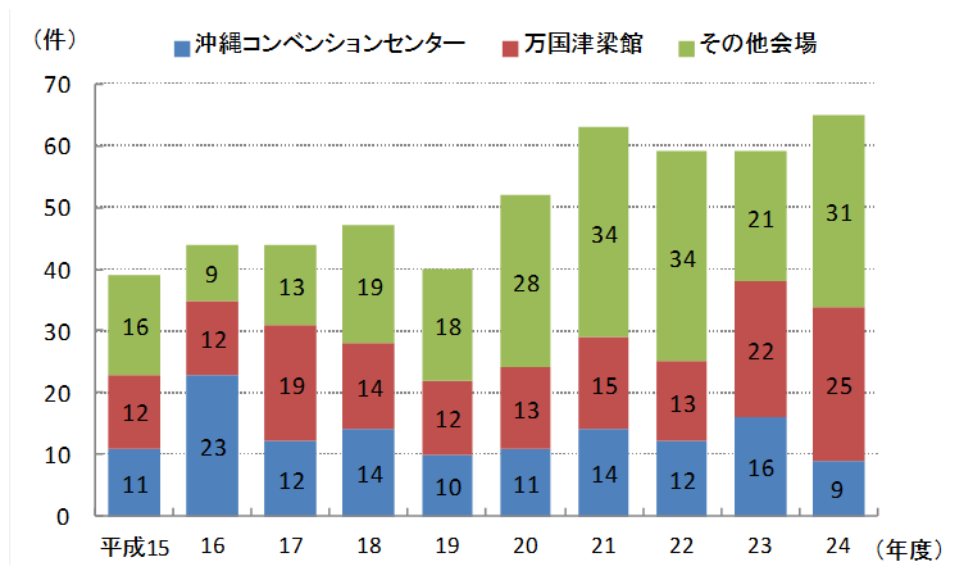
出典：沖縄県 修学旅行入込状況調査（平成 26 年度）

カ MICE 市場の状況

政府の推進する MICE 戦略も後押しとなり、MICE 参加者数は微増傾向にあります。ただし、近年は多くの都道府県において誘致や施設拡充の施策を推進しており、国内競合地は極めて多くなっています。県内の主要な受入施設は、大規模会議施設が限られていることや通訳システムの整備状況などから、大規模な国際会議や展示会などは沖縄コンベンションセンター（宜野湾市）と万国津梁館（名護市）に集中しており、その他の会場では学会などの小規模～中規模の開催が主流です。（図表Ⅱ-29）

県は OCVB と連携し、MICE を重点対策事業と位置付け、誘致活動・受入基盤整備の強化を行っています。これを踏まえ、県は大型 MICE 施設の整備基本構想を打ち出し、最大 2 万人規模のイベントへの対応を想定した施設の建設を検討しています。

図表Ⅱ-29 沖縄県内で開催された主な国際会議



出典：沖縄県 観光要覧（平成 25 年度版）

キ 沖縄県内の観光関連イベント

県内では各月を通じて多くのイベントが行われています。冬場でも比較的温暖な気候を背景に県内各地で開催されるプロ野球キャンプ、自転車ロードレースやマラソン、トライアスロン、ビーチバレーなどのスポーツイベントや、ハーリー、エイサー、大綱挽などの沖縄県に根付く歴史文化を背景としたイベントなどが数多く行われています。

2 那覇市の概要

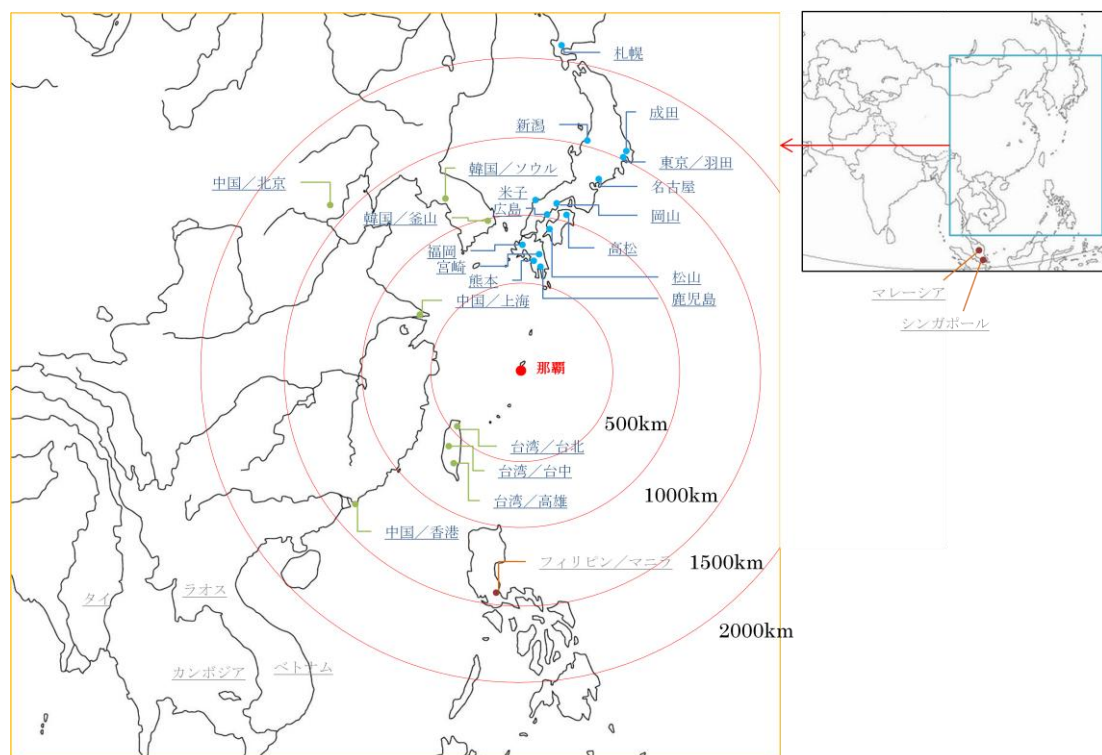
沖縄県は、北緯 24～28 度、東経 122～133 度の海上に弧を描いて連なる島嶼県で、有人島 39 島を含む 160 の島嶼で構成されています。亜熱帯気候であるため温暖であると共に湿度が高く、台風の通過ルート上にあり年間の晴天率が低い特性を持ちます。

那覇市は、沖縄県で最大の島である沖縄本島の南部西海岸に位置し、1,500km の円周域に東京、香港、ソウル、北京、マニラなどの国内外の主要都市を含むため、古くより東南アジアの各都市を結ぶ交通通信の要衝地点であり、アジア諸国との交易拠点として発展しました。現在は、沖縄県の政治・経済・文化の中心かつ人口最大の都市で、都市化に伴い周辺地域のベッドタウン化が進んでいますが、人口は約 30 万人程度で微増を続けています。市域面積は 39.27km²で、人口密度は 8,051 人/km²（平成 22 年国勢調査確報値）と、県庁所在地では東京特別区、大阪市、横浜市に次いで 4 番目に高くなっています。平成 25 年 4 月 1 日をもって全国で 42 番目の中核市に移行しました。

市の西側は東シナ海に面し、南北および東側は他の市町村と隣接しています。中心市街地がある中央部はほぼ平坦な地形で、これを取り囲むように小高い丘陵地帯が展開しています。交通アクセスの面では、空路では那覇空港、海路では那覇港、那覇新港、泊埠頭を有することから「沖縄の玄関口」であり、離島への中継地としても重要な位置づけにあります。県外企業の沖縄支社などの多くが市内にあることから商用客の来訪も多く、近年は地勢を活かし、那覇空港に国際貨物基地（沖縄貨物ハブ）が構築されたことから、アジア周辺国との商業貿易拠点として国内外から注目を集めています。

産業では、第三次産業の事業所数の割合が、市内の全事業所数に対して約 93%と非常に高く、一方で農業・漁業などの第一次産業の事業所数の割合は著しく低くなっています。業種別では小売業（26.2%）、飲食・サービス業・宿泊業（19.4%）、などの観光関連産業が多くの割合を占めています。（平成 24 年経済センサス活動調査による）

図表－Ⅱ-30 那覇市の地理的位置付け



3 那覇市の現状と観光特性

(1) 那覇市の観光資源、地域資源

那覇市には琉球王国に由来する文化や史跡が数多く残されており、平成 12 年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産登録された文化史跡 9 カ所のうちの 4 カ所や、それに関連する歴史的建造物や拝所・霊廟、民俗文化、風習などが存在します。

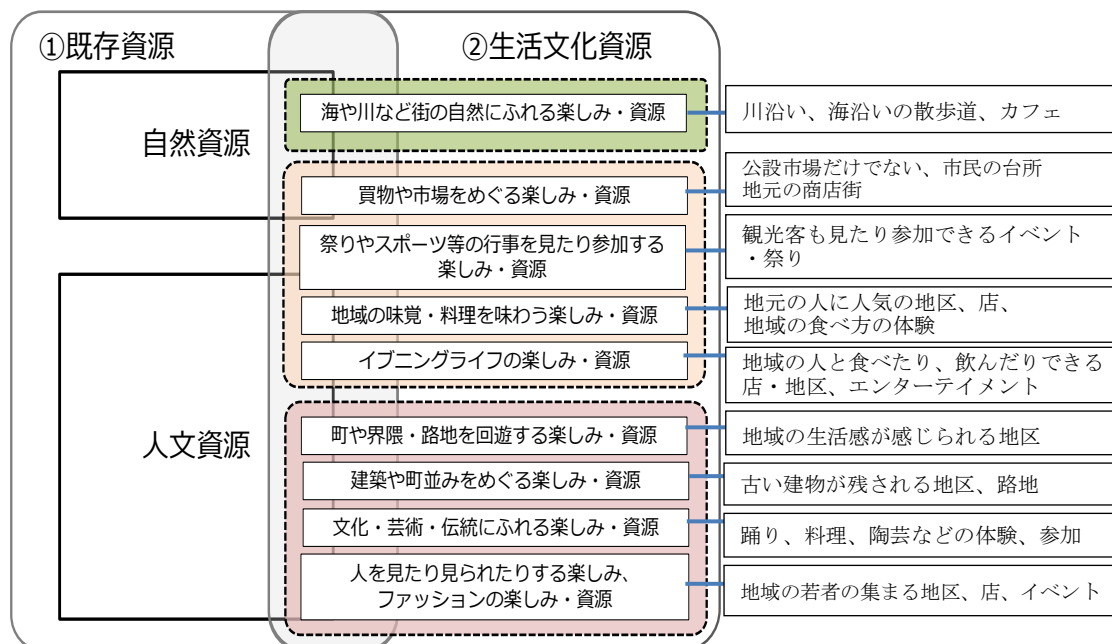
一方、市内中心部の国際通りは第二次大戦後の復興のシンボルとして市民の生活文化の中心であり、現在は県内有数の観光地でもあります。

市内で開催される行事は、那覇三大祭りである那覇ハーリー、那覇大綱挽、琉球王朝祭り首里などの伝統的な祭りの他、国際通りで開催されるエイサー大会や王朝行列、スポーツ大会など参加型のイベントも多くなっています。観光への経済効果も注目され、古の沖縄を体感できる伝統的なもの、参加型のもの、市民が主役となる祭りなどが積極的に開催されています。

また、水鳥などの野鳥が集まる貴重な環境としてラムサール条約に登録された漫湖湿地帯や、海水浴やダイビングが楽しめる波の上ビーチの他、泊埤頭から容易にアクセスが可能な慶良間諸島などの周辺離島もあり、都市部ながら自然体験を主目的とした観光も可能です。

これらの人文資源、自然資源のほかにも、那覇市には歴史や風土に培われた文化・伝統、沖縄の自然と共生しつつ発展してきた都市環境、那覇ならではの伝統工芸や生業、そこに生活する市民のマチグラー文化などの「生活文化資源」が多く存在します。本計画では、既存の人文資源、自然資源に加え、那覇市の有形無形の生活文化資源を観光資源の対象とします。
(図表Ⅱ-31)

図表Ⅱ-31 既存資源と生活文化資源の関係



ア 既存資源の一例

既存の観光資源は、以下の通り自然資源と人文資源とに大別される。

自然資源（山岳、湖沼河川、海浜など秀逸した自然資源）	
植物	末吉公園の自然、首里金城町の大アカギ、ガーナー森、識名園のシマチスジノリ など
岩石/洞窟	仲島の大石
湖沼/湿地	漫湖湿地帯（ラムサール条約登録湿地）
海岸/岬/島	具志干潟、大嶺海岸、波の上ビーチ、慶良間諸島国立公園（慶良間）など

人文資源（歴史や文化の蓄積が有形無形として残され、保存されている資源）	
史跡	玉陵、円覚寺跡、上天妃宮跡の石門、伊江御殿墓、宜野湾御殿の墓及び墓域、読谷山御殿の墓、旧天界寺の井戸金城大樋川、旧御茶屋御殿石造獅子、末吉宮礎道、台湾遭害者之墓、渡嘉敷三良の墓、沢岬親方の墓、泊外人墓地、山下町第一洞穴遺跡、崎樋川貝塚、銘苅古墓群、火立毛、首里城、守礼門、円覚寺総門、真珠道跡、首里金城町石畳道、園比屋武御嶽石門、天女橋、龍淵橋、弁財天堂、真玉橋、ヒジ川橋及び取付道路、新垣家住宅、旧崇元寺第一門及び石牆、壺屋の荒焼のぼり窯など
碑（歴史）	ベッテルハイム記念碑、ペリー提督上陸記念碑、崇元寺下馬碑、劇聖玉城朝薫生誕三百年記念碑、新修美栄橋碑
庭園/公園	伊江殿内庭園、伊江殿内別邸庭園、首里城鎖之間庭園、識名園、福州園、松山公園、旭ヶ丘公園、森口公園など
戦跡/碑	第 32 軍司令部壕跡、大道森（ハーフムーンヒル）戦争遺跡碑、慶良間チーグ（シュガーローフヒル）、南洋群島沖縄県人戦没者並開拓殉難者慰霊碑、海鳴りの像、小桜の塔、与那覇勢頭豊見親逗留旧跡碑など
寺社/拝所/ 樋川	波上宮、末吉宮、内金城嶽、弁ヶ嶽、美連嶽、雨乞嶽、崎山御嶽、佐司笠樋川、アモールシガー、加良川、安谷川、さくの川、寒水川樋川、王川など
博物館/資料館	沖縄県立博物館・美術館、那覇市歴史博物館、対馬丸記念館、那覇市立壺屋焼物博物館、那覇市伝統工芸館、プラネタリウム（牧志駅前ほしぞら公民館）など
伝統芸能/ イベント	琉球古典音楽、琉球舞踊 琉球歌劇、三線、組踊、踊り（安里フェーヌシマ、国場のウズンビーラなど）、旗頭、エイサー、獅子舞（首里汀良町、首里末吉町、字大嶺）路次楽、那覇ハーリー、那覇大綱挽、沖縄の空手・古武術など

イ 生活文化資源の一例

那覇市の生活や産業、文化に根差した「生活文化資源」は、都市の魅力となる9つの楽しみを醸成する有形無形の資源、地区を抽出しました。

(※ア既存資源との重複あり)

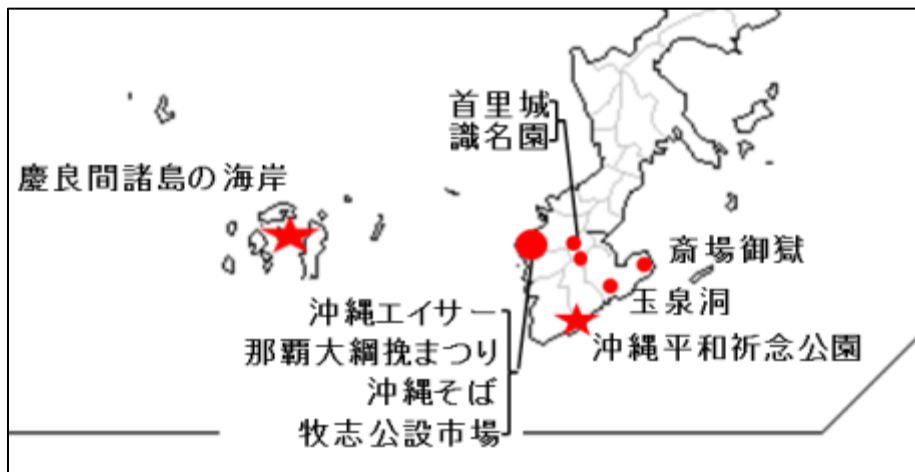
都市型観光の楽しみ・資源	資源の例	具体的資源・地区
まちや界隈・路地を回遊する楽しみ・資源	地域の生活感が感じられる一画	桜坂周辺、国際通り周辺、栄町市場、開南通り周辺、首里城下周辺、壺屋焼物通り周辺、浮島通り周辺、平和通り周辺など
建築やまち並みをめぐる楽しみ・資源	古い建物が残される一画、路地	首里金城町石畳道とその周辺、壺屋焼物通り、龍潭通りとその周辺、真境名スーヅ、玉那覇味噌醤油工場の石垣、神原中学校のトックリキワタ並木 など
海や川などまちの自然にふれる楽しみ・資源	川沿い、海沿いの散歩道、カフェ	漫湖湿地帯、龍潭、末吉公園、識名園、さいおんスクエア周辺、波之上周辺、金城ダムなど
人を見たり見られたりする楽しみ、ファッションの楽しみ・資源	地域の若者の集まる一画、店、イベント	国際通り、パラダイス通り、新都市地区など
買物や市場をめぐる楽しみ・資源	市民の台所、地元の商店街	国際通り、牧志公設市場、中央卸売市場、平和通り商店街、泊いゆまち、農連市場、Tギャラリア(DFS)など
地域の味覚・料理を味わう楽しみ・資源	地元の人に人気の一画、店、地域の食べ方の体験	沖縄そば、てびち・ソーキなどの豚肉料理、ゴーヤー、島らっきょうなどの島野菜料理、マグロ、グルクンなどの魚料理、ステーキ、ポーク缶、ハンバーガーなどのアメリカ文化食など
文化・芸術・伝統にふれる楽しみ・資源	踊り、料理、陶芸などの体験、参加	紅型、壺屋焼、沖縄料理、宮廷料理、旗頭、獅子舞、エイサー、琉球舞踊など
祭り・スポーツなどの行事を見たり参加する楽しみ・資源	観光客も参加できるイベント・祭り	首里城祭、首里城中秋の宴、壺屋やちむん通りまつり、壺屋陶器まつり、漫湖さくらまつり、なはさくらまつり、なは青年祭、那覇大綱挽まつり、那覇ハーリー、琉球王朝祭り首里、一万人のエイサー踊り隊、青年ふるさとエイサー祭り、沖縄の産業祭り、離島フェア、読売巨人軍春季キャンプ、NAHA マラソン、プロ野球観戦、プロバスケットボールbjリーグ観戦など
イブニングライフの楽しみ・資源	地域の人と食べたり、飲んだりできる店、施設、地区	民謡居酒屋、ジャズハウス、ライブハウス、劇場(てんぶす館・桜坂劇場など)、栄町市場、パラダイス通り、国際通り、松山地区、若狭地区、新都心など

ウ 那覇市周辺の観光地・観光資源

那覇市に近接する周辺市町村の主たる観光資源分布を図表Ⅱ-32 に整理しました。観光客は、市内のみを観光するだけでなく、那覇市を拠点として周辺地域を観光することも多く、周辺地域と連携することは観光振興にとって極めて重要です。

また、沖縄本島以外の島嶼部との連携も不可欠です。特に慶良間諸島は、平成 26 年 3 月に我が国で 27 年ぶりに国立公園として新規指定された地域であり、定期航路で 1 時間の時間距離で本市の都市機能と国立公園が結ばれていることは、本市に滞在する重要な魅力となります。

図表Ⅱ-32 那覇市周辺の主たる観光資源リスト(★特 A 級・●A 級)



出典：(公財) 日本交通公社の全国観光資源評価による特 A 級、A 級資源

図表Ⅱ-33【参考】

<参考> 全国観光資源評価とは

(公財) 日本交通公社が昭和46年～48年度に、旧建設省の委託による「観光交通資源調査・観光行動調査」の中で実施した「観光資源台帳」を元に平成25年度に観光資源再評価を実施したもの。全国で特A級は55件、A級は396件が評価され規定された。

観光資源ランクの定義

資源ランク	定義
特A級資源	わが国を代表する資源であり、世界にも誇示しうるもの。日本人の誇り、日本のアイデンティティを強く示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。
A級資源	特A級に準じ、わが国を代表する資源であり、日本人の誇り、日本のアイデンティティを示すもの。人生のうちで一度は訪れたいもの。

『観光資源評価委員会』構成員

<委員>

梅川 智也/ 公益財団法人日本交通公社理事・観光政策研究部長

堀 千里/ 株式会社JTBパブリッシング執行役員

志賀 良人・委員長/ 公益財団法人日本交通公社会長

寺崎 竜雄/ 公益財団法人日本交通公社理事・観光文化研究部長

林 清/ 元・公益財団法人日本交通公社常務理事

日比野 健/ 株式会社ジェイティービー代表取締役専務

溝屋 良隆/ 公益財団法人日本交通公社理事(非常勤)/ 帝京大学教授

<特別顧問>

今井 久吾/ 元・公益財団法人日本交通公社会長

小林 清/ 元・公益財団法人日本交通公社会長

新倉 武一/ 前・公益財団法人日本交通公社会長

観光資源の種類別

自然資源(10種別)	人文資源(14種別)
01 山岳	11 史跡
02 高原・湿原・原野	12 神社・寺院・教会
03 湖沼	13 城跡・城郭・宮殿
04 河川・峡谷	14 集落・街
05 滝	15 郷土景観
06 海岸・岬	16 庭園・公園
07 岩石・洞窟	17 建造物
08 動物	18 年中行事
09 植物	19 動植物園・水族館
10 自然現象	20 博物館・美術館
	21 テーマ公園・テーマ施設
	22 温泉
	23 食
	24 芸能・興行・イベント

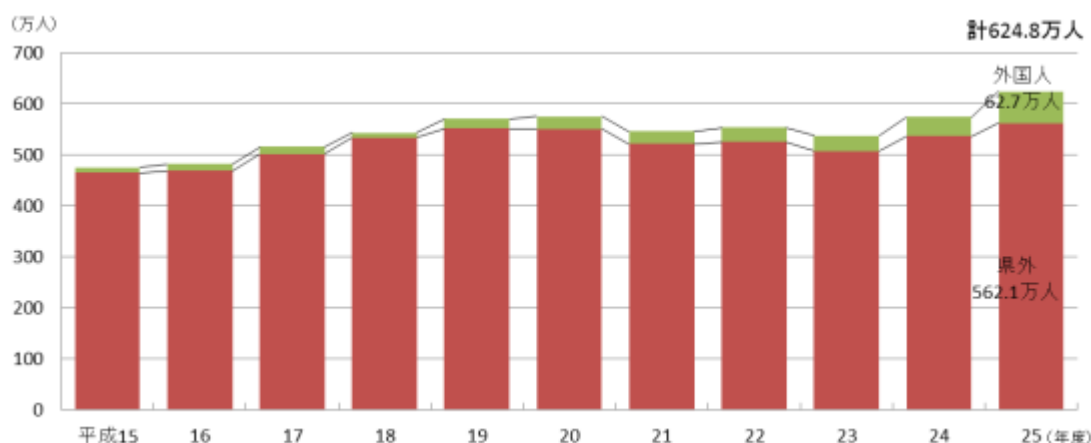
(2) 那覇市観光利用の実態

ア 那覇市への入込客

那覇市への入込客数は、500～600 万人程度で横ばい傾向を続けていましたが、平成 25 年度は推計 624.8 万人と初めて 600 万人を上回りました。入込み客数のうち、外国人観光客はその人数・割合ともに増加傾向にあります（図表Ⅱ-34）。

沖縄県「観光統計実態調査」によると、沖縄を訪れた観光客のうちの約 70%が本市を訪れています（図表Ⅱ-35）。

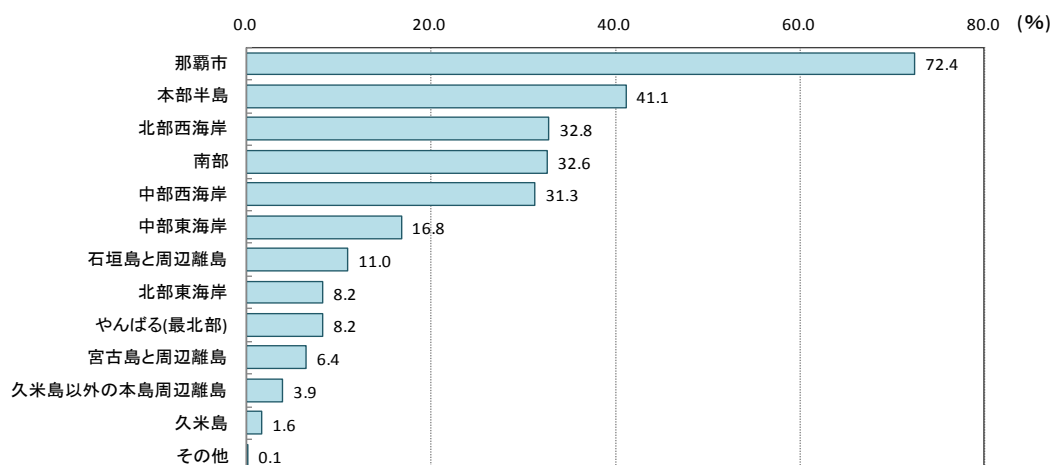
図表Ⅱ-34 那覇市への観光入込客数



出典：那覇市の観光統計（平成 25 年度版）を基に作成

※那覇市への観光入込客数は、沖縄県内の空路や海路の交通機関へ依頼し、その結果を元に独自に算出している数値のため、前章で示した那覇市への入込客数/ 沖縄県の入域観光客数（沖縄全体）の比率とは一致しない。

図表Ⅱ-35 沖縄県訪問者の地域訪問比率

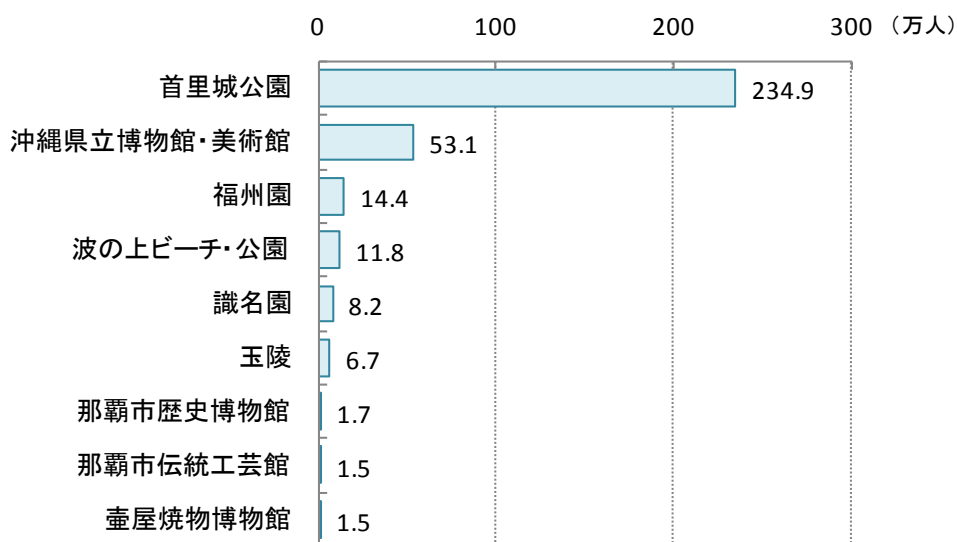


出典：沖縄県「平成 25 年度観光統計実態調査」

市内観光施設への入込数は、「首里城公園」が突出して多く 200 万人を超えています。次いで、「沖縄県立博物館・美術館」が約 50 万人となっています（図表Ⅱ-36）。

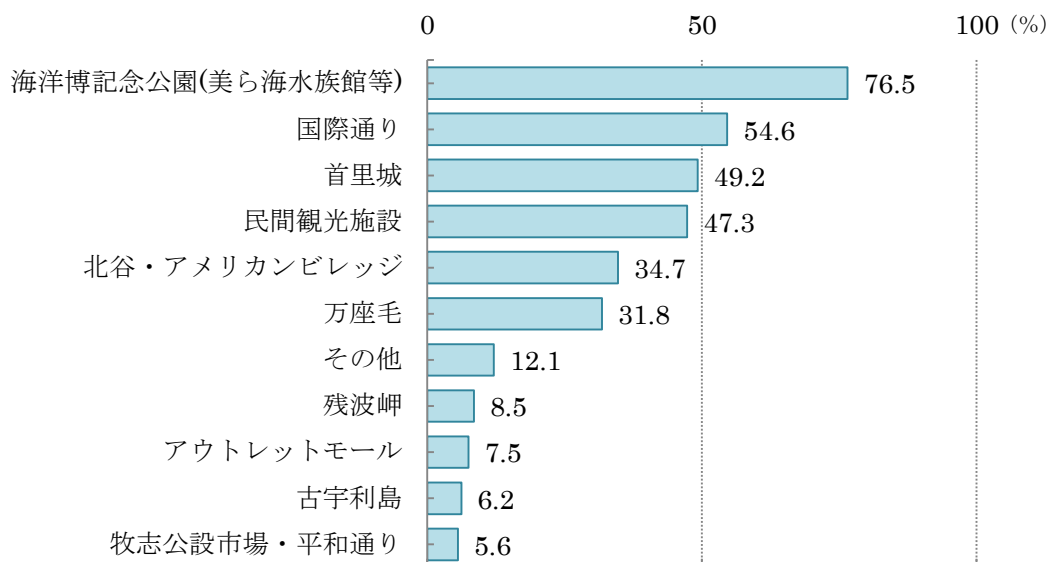
外国人観光客における県内の観光地の訪問率では、国際通りが 54.6%で第2位、「首里城」が 49.2%で第3位となりました（図表Ⅱ-37）。また、外国人が訪れた県内のショッピングエリアについては、「国際通り」が 81.8%で第1位となっています（図表Ⅱ-38）。

図表Ⅱ-36 那覇市の観光施設入込数（平成25年度）



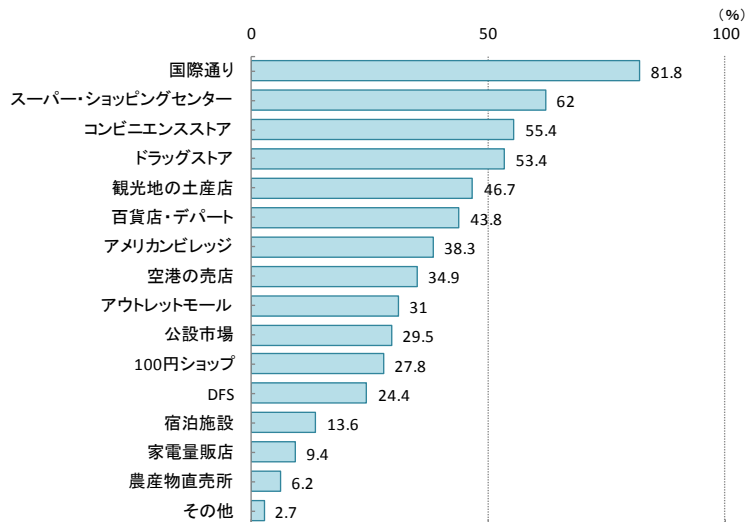
出典：那覇市の調査による

図表Ⅱ-37 外国人観光客が訪れた沖縄県内の観光地（平成25年度）



出典：沖縄県「平成25年度 外国人観光客実態調査報告書」（平成25年度）

図表Ⅱ-38 外国人観光客が訪れたショッピングエリア



出典：沖縄県「外国人観光客実態調査報告書」（平成 25 年度）

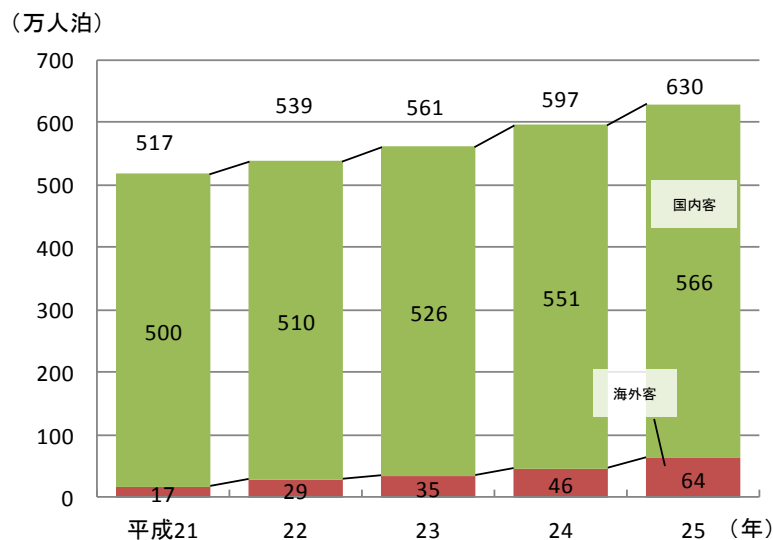
イ 那覇市における宿泊

年間延べ宿泊者数（推計値）について過去 5 年間の推移をみると、国内客、海外客ともに増加傾向にあります。毎年 20 万人泊以上の増加で推移しており、平成 25 年は 630 万人泊となりました。（図表Ⅱ-39）。

平成 25 年 12 月 31 日時点での市内宿泊施設の客室数は、14,433 室となっており、「ホテル・旅館」が 13,021 室で約 90%を占めています（図表Ⅱ-40）。市内宿泊施設 177 軒のうち「ホテル・旅館」は 101 軒で、そのうち過半数を中規模施設が占めていますが、客室数からみると大規模施設が過半数を占めています（図表Ⅱ-41）。なお、市内宿泊施設の収容人員は、28,080 人となっています。

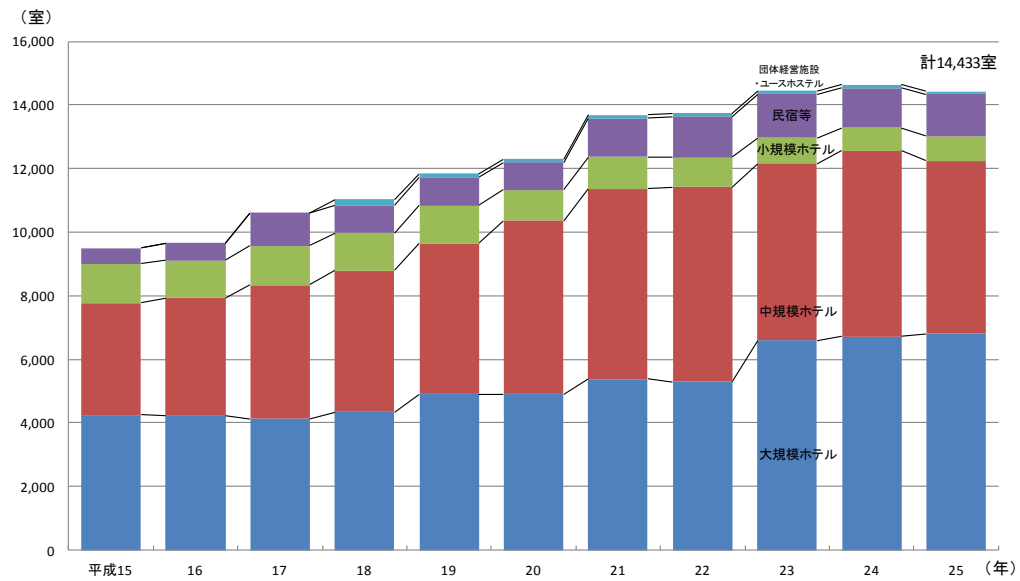
定員稼働率については、夏期及び卒業旅行時期から春休みにかけての時期には高く、4～6 月及び 1 月は比較的低くなっており、繁閑の差がみられます（図表Ⅱ-42）。

図表Ⅱ-39 那覇市内での年間延べ宿泊者数の推移（推計値）



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」の数値をもとに那覇市にて推計

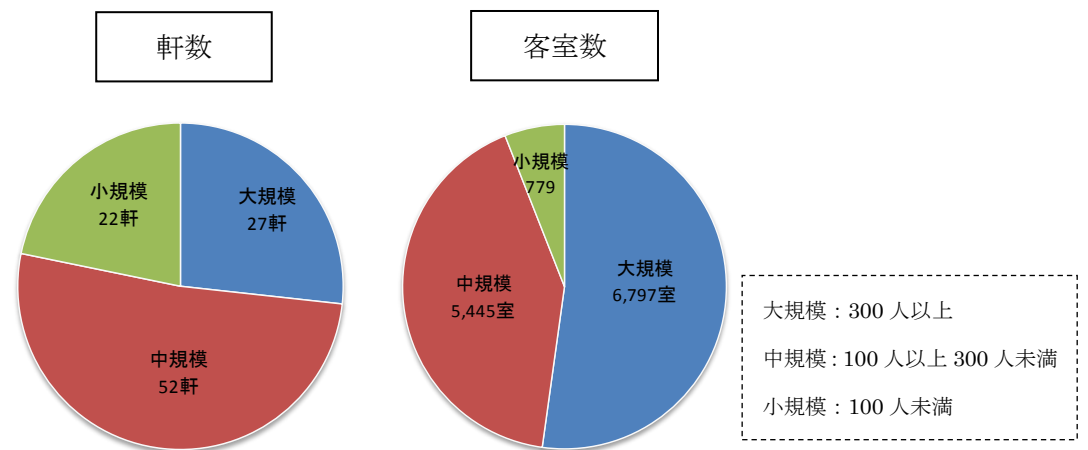
図表Ⅱ-40 那覇市内の客室数の推移（平成25年12月31日現在）



出典： 沖縄県「宿泊施設実態調査」

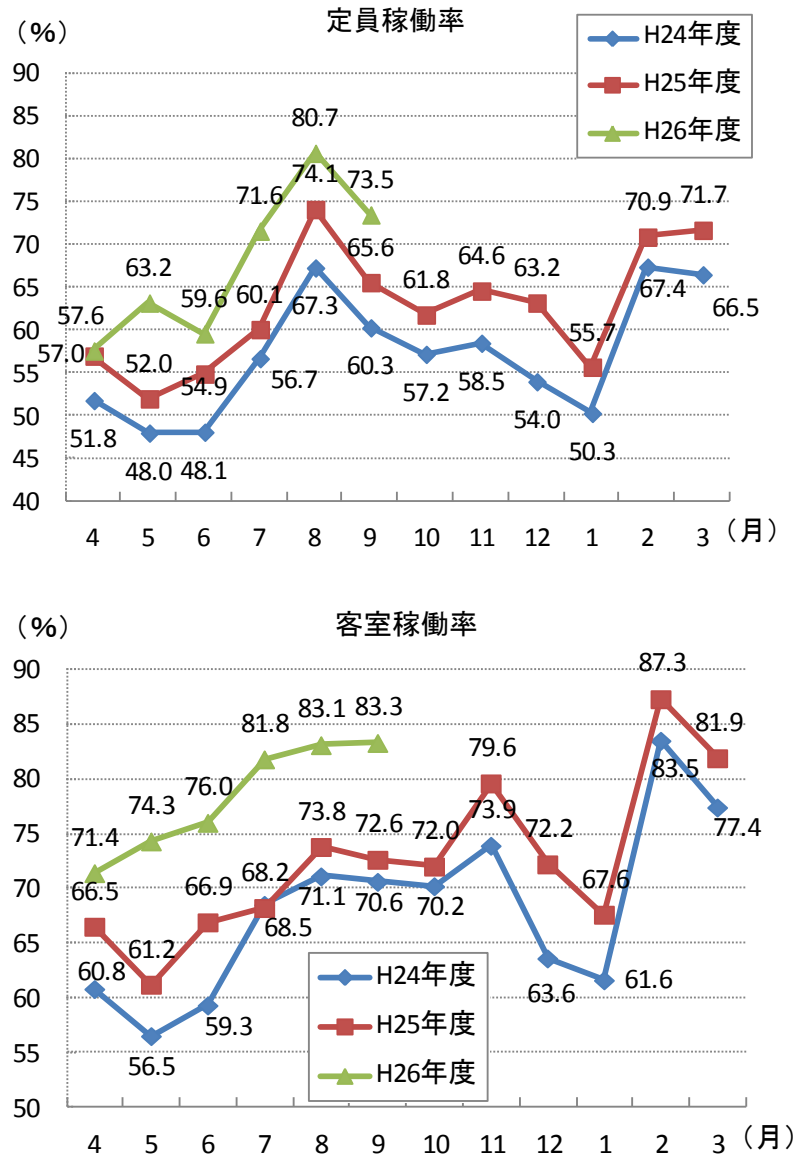
図表Ⅱ-41 那覇市内のホテル・旅館軒数および客室数

（平成25年12月31日時点）



出典：沖縄県「宿泊施設実態調査」（平成25年）

図表Ⅱ-42 那覇市内の宿泊施設定員稼働率および客室稼働率の推移



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

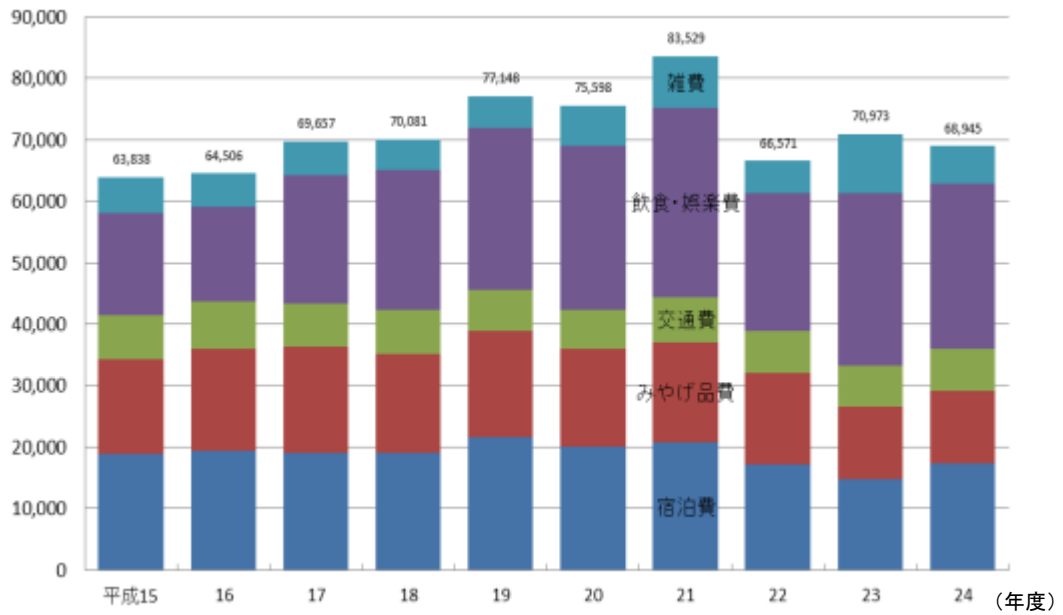
ウ 那覇市における観光消費

観光客の那覇市における1人当たりの消費額は、平成21年度の83,529円が最も高く、平成22年度以降は7万円前後で推移しています。その理由として、観光客におけるリピーターの割合が高いことによる土産品費などの低下や、価格競争に伴う宿泊費などの低廉化などが挙げられます（図表Ⅱ-43）。

那覇市宿泊者の観光収入を1人当たり観光消費額及び観光庁「宿泊旅行統計調査」から推計される実宿泊者数を基に計算すると、平成22年度以降は、宿泊者の増加により、増加傾向にあります。（図表Ⅱ-44）。

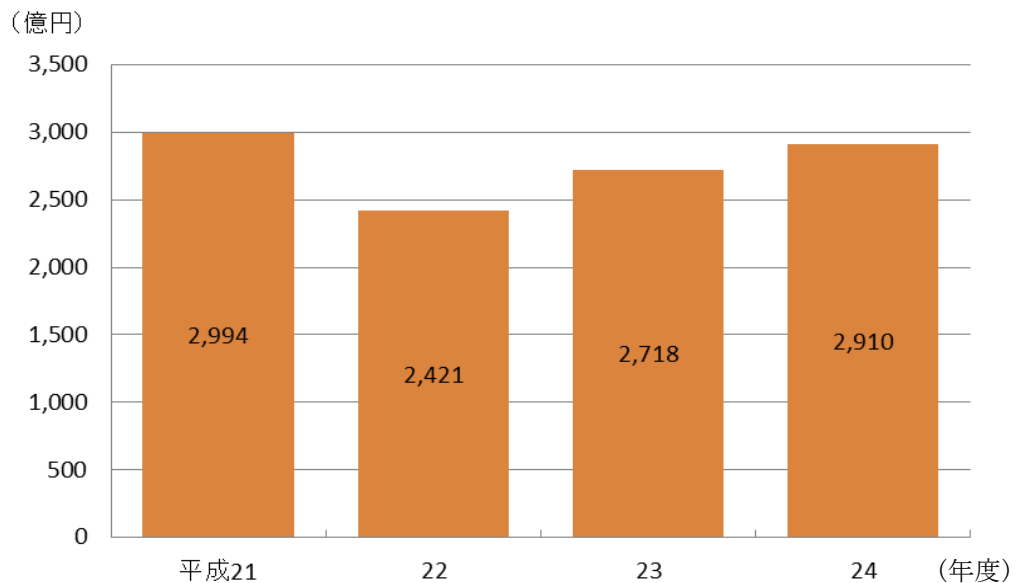
※図表Ⅱ-12（観光客の一人当たり沖縄県における消費額）とⅡ-43はそれぞれ異なる調査（来訪者への無作為抽出によるアンケート調査結果を基にした推計）に基づいた数値であり、それぞれの数値に関連性はない。

図表Ⅱ-43 観光客の一人当たり那覇市における消費額



出典：那覇市の観光統計（平成24年版）

図表Ⅱ-44 年次別 那覇市宿泊者の観光収入の推移



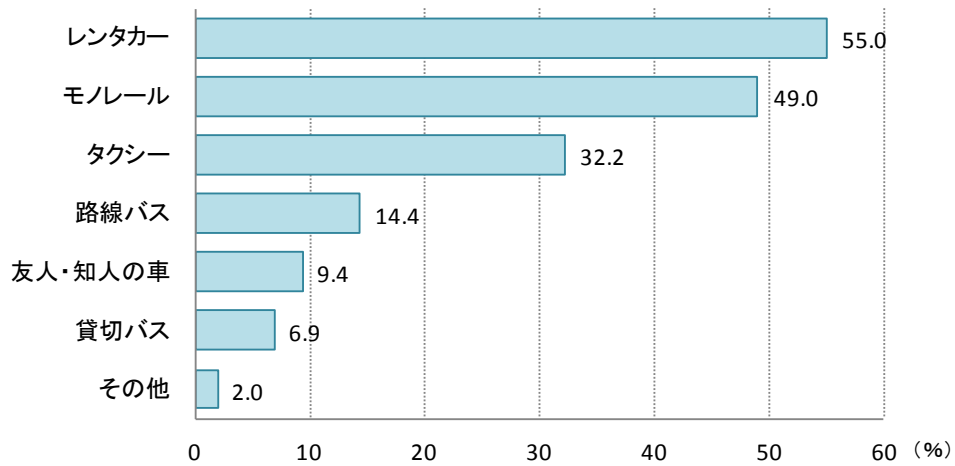
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」の数値をもとに那覇市にて推計

エ 那覇市内における二次交通手段

那覇市に宿泊した観光客における交通手段をみると、最も利用されているのはレンタカーで55.0%となっており、沖縄県全体の観光客におけるレンタカー利用率と同様の割合となっています（図表Ⅱ-45）。

一方で、2位のモノレールみると、49.0%と半数近くで利用されています。沖縄県全体の観光客におけるモノレール利用率が約3割であることを考慮すると、那覇市内においてはモノレールが利便性の高い交通手段であることが伺えます。

図表Ⅱ-45 那覇市における交通手段(平成 24 年度)



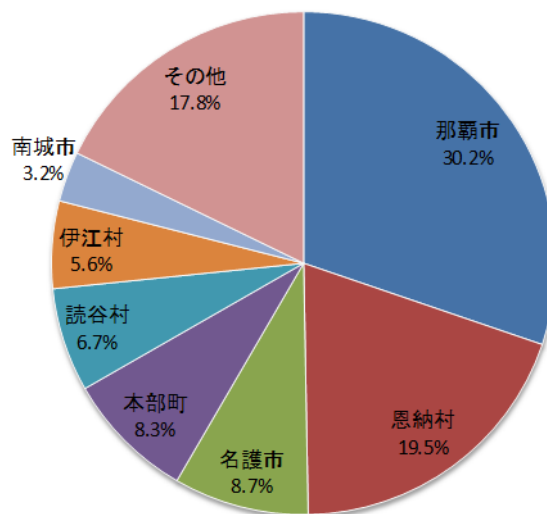
出典：那覇市の観光統計（平成 24 年版）

オ 那覇市における修学旅行受け入れの状況

那覇市は県外からの修学旅行の宿泊先として最も多く利用されており、平成 25 年の実績では、全体の宿泊の 30.2%が市内となっています（図表Ⅱ-46）。

また、平成 25 年度に実施した那覇市観光基本計画基礎調査によると、修学旅行の見学先としても市内の観光地が上位に位置しており、首里城が第 1 位、国際通りが第 4 位にあがっています。なお、修学旅行における移動手段については、県内の交通事情もあり、ほとんどが貸切バスを利用していますが、班別行動などではタクシーを利用する学校もあります。また、帰着日の空港までの行程にモノレールを利用する学校もみられます。

図表Ⅱ-46 修学旅行の宿泊地別入込状況(平成 25 年)



出典：沖縄県「平成 25 年修学旅行入込状況調査」

カ 那覇市内で開催されるイベント

那覇市内では、沖縄独自の伝統文化に関連するイベントが一年を通じて開催されており、最も誘客数が多い那覇大綱挽まつりでは約 74 万人の来場を記録しています。その他、沖縄国際映画祭で約 40 万人（メイン会場の宜野湾市を含む）、那覇ハーリーで約 20 万人、夏祭り in 那覇一万人のエイサー踊り隊や首里城祭で 10 万人前後の来場があります。また、全国的に知名度の高い市民マラソン大会である NAHA マラソンも開催されています（図表Ⅱ-47）。

図表Ⅱ-47 那覇市のイベント入場者数推移

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
那覇ハーリー	210,000	192,000	212,000	204,000
一万人のエイサー踊り隊	120,000	90,000	73,000	93,000
那覇大綱挽まつり	620,000	580,000	740,000	742,000
首里城祭	76,224	86,750	117,158	123,610
琉球王朝祭り首里	50,000	55,000	68,000	80,000
NAHA マラソン	23,402	23,988	24,333	27,697
読売巨人軍那覇春季キャンプ	87,799	73,633	69,556	88,397
沖縄国際映画祭	310,000	410,000	422,000	380,000

※全て主催者発表/単位：人

(3) 県外在住者、那覇市民から見た那覇市のイメージ・評価

本項は、平成 25 年度に那覇市が実施した「那覇市観光基本計画基礎調査」の結果を基に記載しています。本項に抜粋した調査の概要は以下のとおりです。

① 県外在住者から見た那覇市のイメージ・評価

調査対象： 沖縄県を除く全国を対象とする県外在住者、有効回答 2,060 サンプル
調査方法： インターネットアンケート調査
調査実施期間： 平成 26 年 1 月 17 日から 1 月 20 日

② 那覇市民から見た那覇市のイメージ・評価

調査対象： 那覇市在住の住民票登録者より無作為抽出、有効回答 1,409 サンプル
調査方法： 書面による郵送アンケート調査
調査実施期間： 平成 26 年 1 月 6 日から 1 月 31 日

③ 市内観光関連事業者による評価

調査対象： 那覇市商工会議所加盟事業者及び国際通り立地事業所、
有効回答 119 サンプル
調査方法： 書面による郵送アンケート調査
調査実施期間： 平成 26 年 1 月 6 日から 2 月 7 日

ア 県外在住者から見た那覇市のイメージ・評価

(ア) 認知度および訪問経験

アンケートに答えた県外在住者のうち、沖縄県那覇市を「よく知っている」と答えた割合は 40.3%、「知らない」は僅か 1.0%となっています（図表Ⅱ-48）。

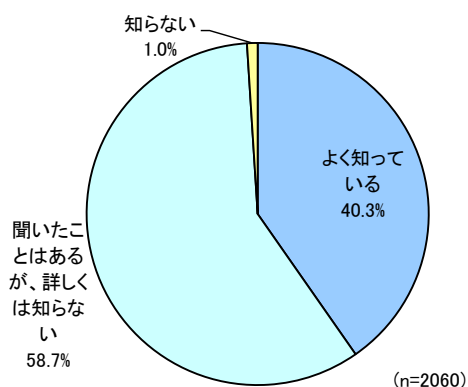
観光資源別にみると、来訪者（沖縄に来たことがある方）では「首里城公園」の認知度が最も高く、「訪れたことがある」が 75.5%、「知っているが訪れたことはない」が 21.1%と、合わせて 96.6%が知っていると答えています。未来訪者（沖縄に来たことがない方）においても、80.8%が「知っているが訪れたことはない」と回答しています（図表Ⅱ-49）。

伝統工芸品の認知度は「琉球ガラス」が最も高く（来訪者 50.6%、未来訪者 45.5%）伝統工芸に関する認知度は全体的に低くなっています。（図表Ⅱ-50）

那覇市の認知度が高いことは、プロモーション施策の幅が広がるという点から非常に好ましい状態であると言えます。“変わらない那覇らしさ”を提供する一方で、従来にない魅力、過去の訪問時には体験できなかった過ごし方など、新鮮・斬新な魅力を継続的に提案・発信していくことが求められます。

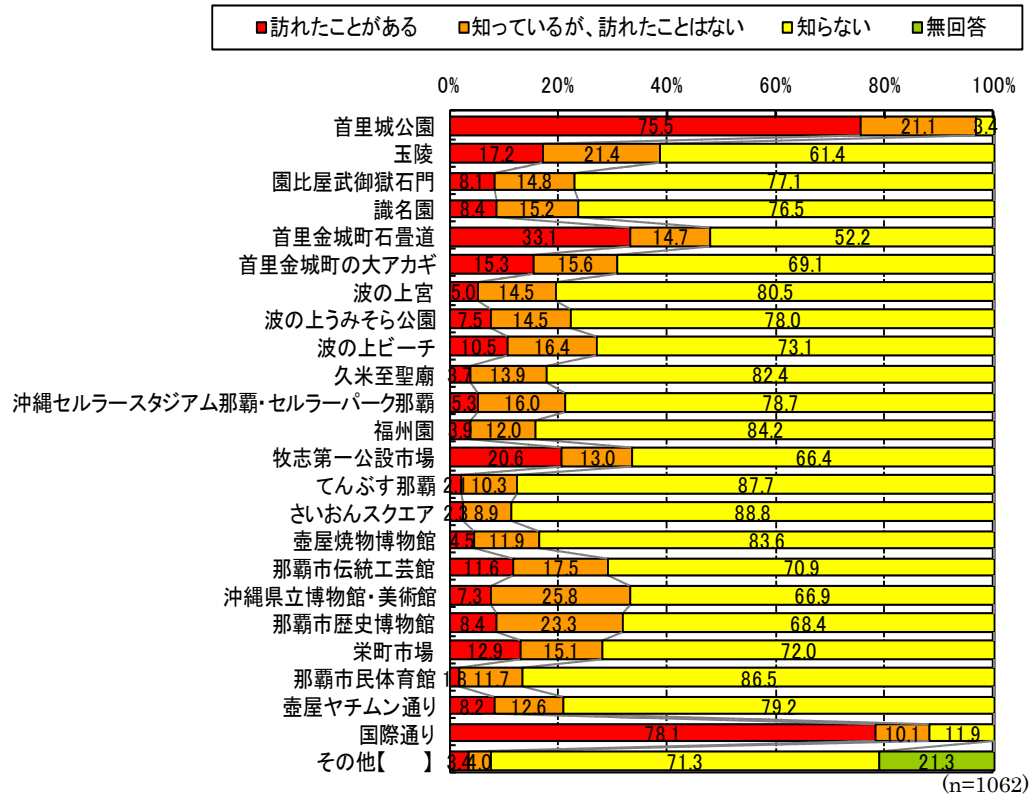
また、認知度の低い伝統工芸品の魅力発信も求められます。

図表Ⅱ-48 那覇市の認知度

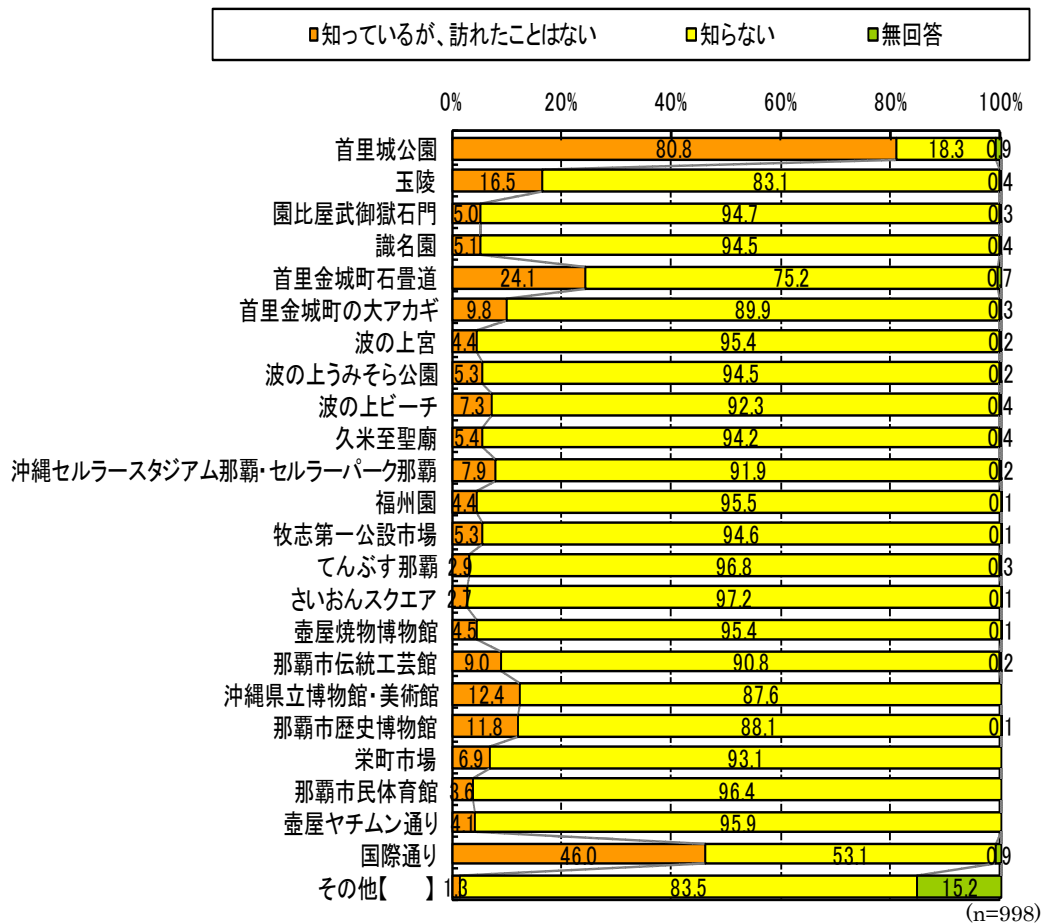


図表Ⅱ-49 那覇市観光資源の認知度及び訪問率

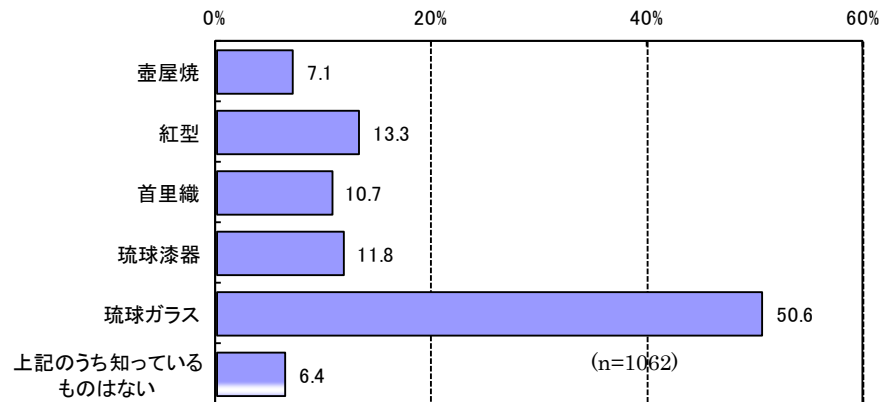
【来訪者（沖縄に来たことがある）】



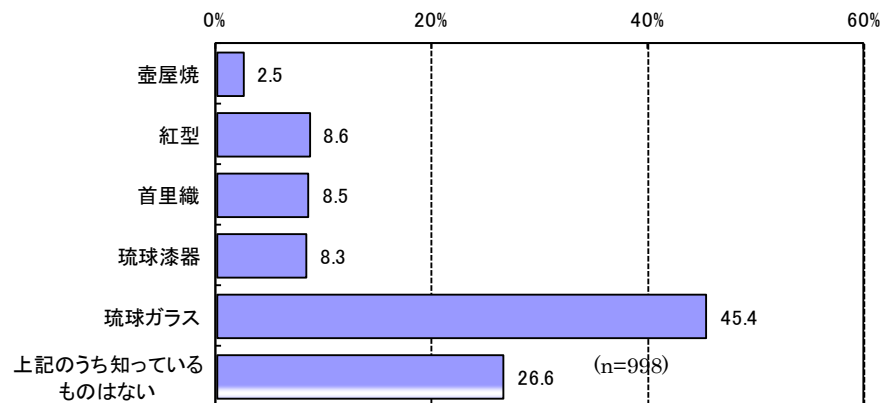
【未来訪者（沖縄に来たことがない）】



図表Ⅱ-50 那覇市における伝統工芸品の認知度
【来訪者(沖縄に来たことがある)】



【未来訪者(沖縄に来たことがない)】



(イ) 那覇市のイメージ

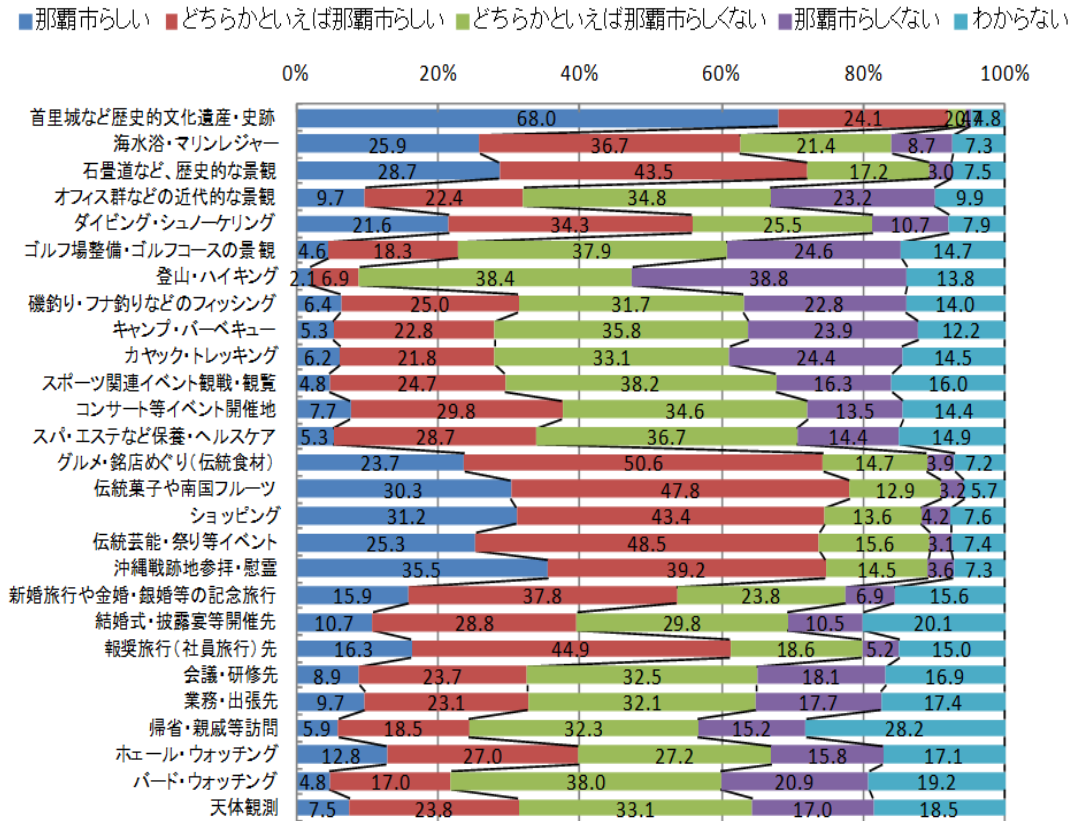
県外在住者が「那覇らしい」と答えたのは、「首里城などの歴史的文化遺産・史跡」が最多(来訪者 68.0%、未来訪者 62.3%)でした。(図表Ⅱ-51)

那覇市のイメージの核にあるものは琉球王国時代からの文化であり、市場に定着しているこのイメージを基盤に、都市イメージを膨らませていくことが望ましいと考えられます。

首里城が世界遺産登録物件のひとつであることによる認知度の高さも、イメージに一定の影響を及ぼしているものと推測されますが、市内には他の世界遺産登録物件もあり、それらとのネットワークは果たされていません。また、「石畳道など、歴史的な景観」や「伝統芸能・祭りなどイベント」などとイメージの差があることから、同時代の他の歴史遺産や伝統文化とのイメージ連動は弱いと考えられます。

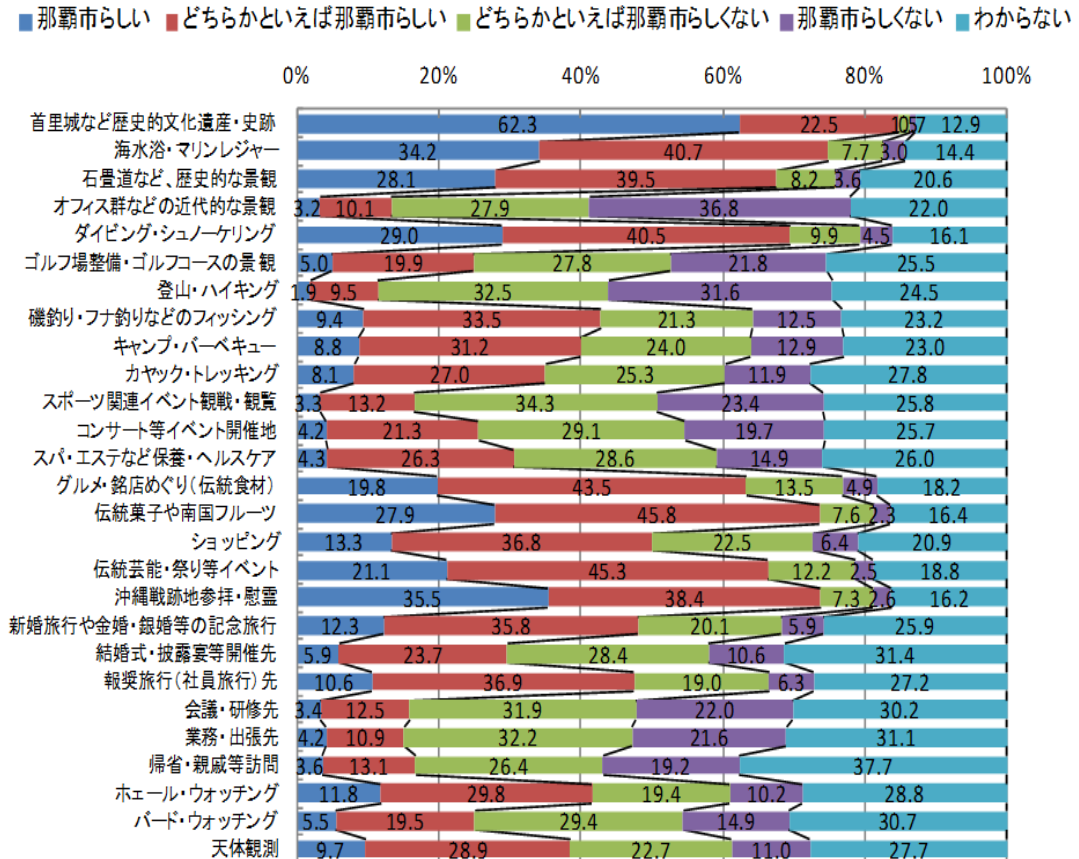
図表Ⅱ-51 那覇市のイメージ

【来訪者(沖縄に来たことがある)】



(n=1062)

【未来訪者(沖縄に来たことがない)】



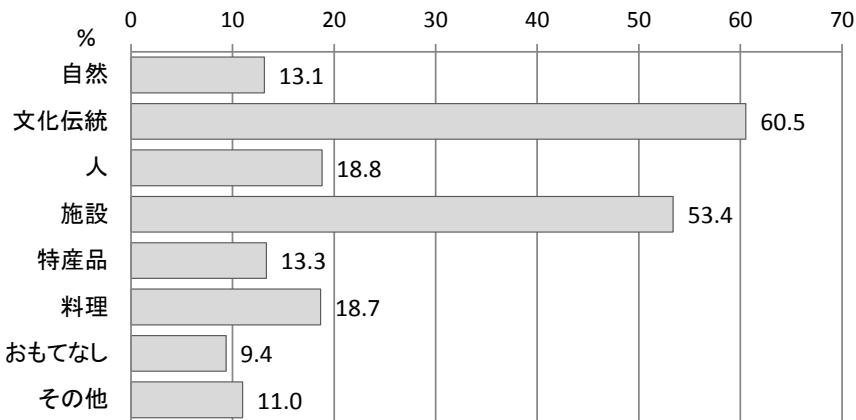
(n=998)

イ 那覇市民から見た那覇市のイメージ・評価

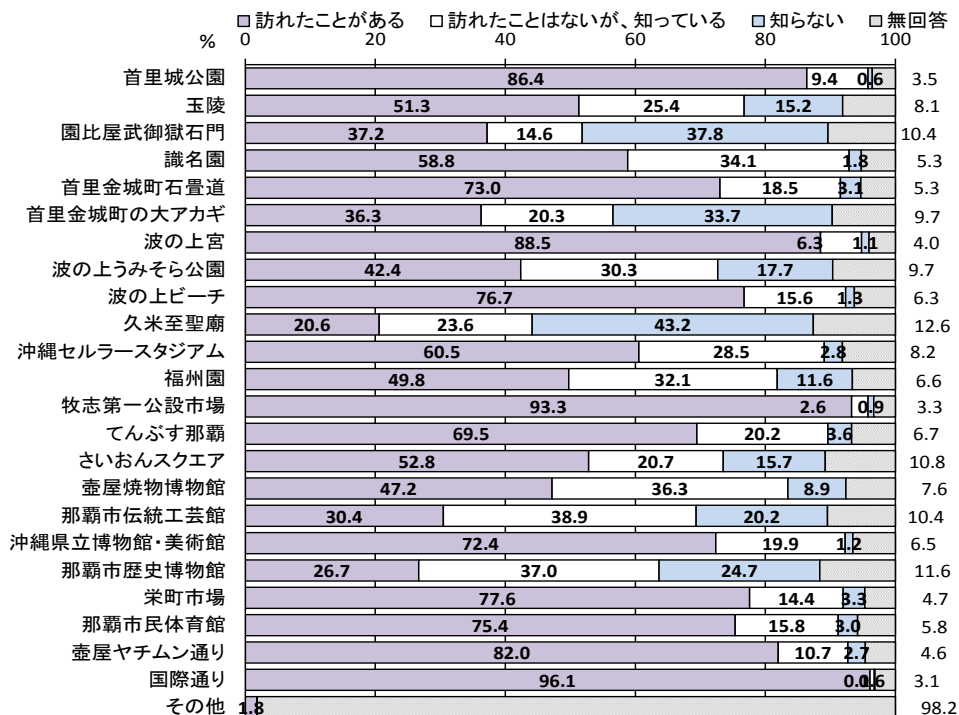
市民が考える那覇市の魅力は、「文化伝統」の60.5%、「施設」の53.4%が高く、「おもてなし」が9.4%と低くなっています（図表Ⅱ-52）。市内観光地の認知度は「国際通り」が99.9%、「首里城公園」が99.4%と極めて高い一方で、「久米至聖廟」は43.2%、「園比屋武御嶽石門」は37.8%の市民が「知らない」と回答しており、認知度の低い資源もあります（図表Ⅱ-53）。伝統工芸の認知度は、「壺屋焼き」の93.7%が最も高く、最も認知度が低い「首里織」でも51.5%と半数を超える市民が認知しており、伝統工芸が一定程度浸透していることが窺えます（図表Ⅱ-54）。

那覇市の魅力の筆頭に「文化伝統」が挙げられており、県外在住者における那覇市のイメージと大きなずれはありません。ただし、前項に見るとおり、県外在住者においては、歴史を感じさせる建築や観光地のイメージが強く、それを底支える文化や伝統芸能、伝統産業など認知、イメージは弱くなっています。

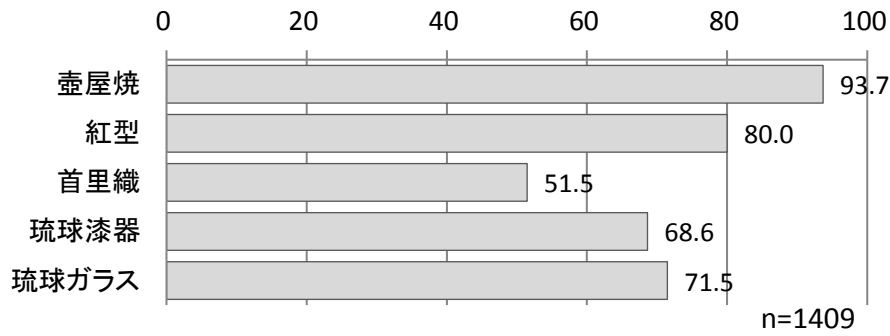
図表Ⅱ-52 那覇市民から見た那覇市の魅力



図表Ⅱ-53 那覇市民から見た那覇市内の観光施設の認知度及び訪問率



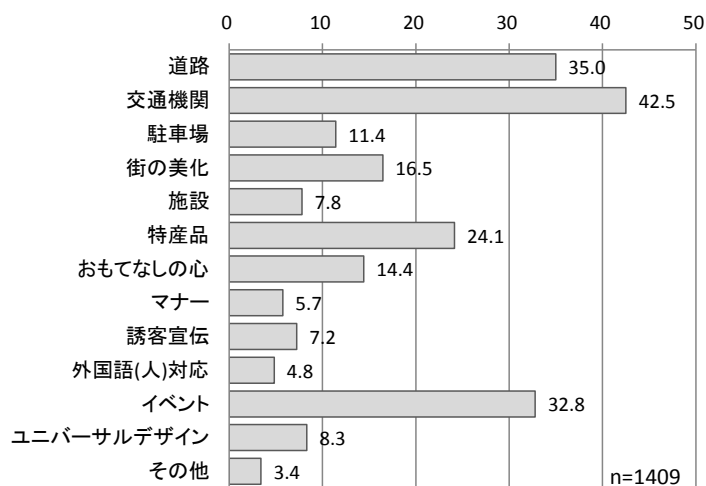
図表Ⅱ-54 那覇市民から見た那覇市の伝統工芸品の認知度



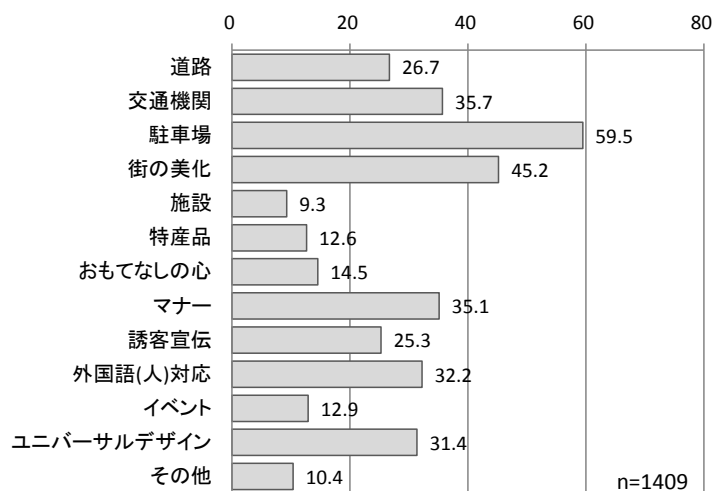
観光インフラなどについては、「交通機関」(42.5%)、「道路」(35.0%)、「イベント」(32.8%)が比較的足りているものと認識されている一方で、不足しているものとして「駐車場」(59.5%)、「街の美化」(45.2%)、「交通機関」(35.7%)が挙げられています(図表Ⅱ-55)。「交通機関」が足りている点、足りていない点ともに上位に入っていますが、その理由として、地域によって交通機関の整備に差が出ていることなどが予想されます。

図表Ⅱ-55 観光地として那覇市に足りている点／足りない点(那覇市民)

【足りている点】



【足りない点】



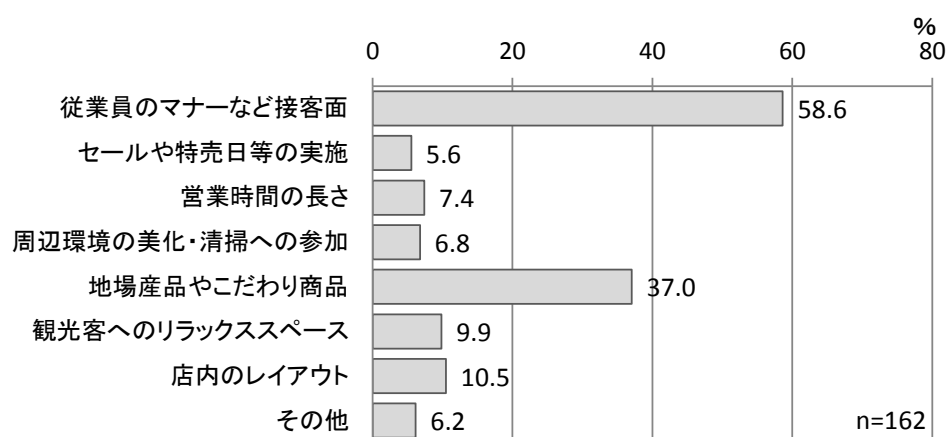
ウ 市内観光関連事業者による評価

市内の観光関連事業者が経営面で注力している分野は、「従業員のマナーなど接客面」が58.6%と半数を超えて高く、次いで「地場産品やこだわり商品」が37.0%となりました（図表Ⅱ-56）。また、観光客を対象とした経営面に関する課題は「外国語・外貨の取り扱い」が28.4%、「従業員の教育・確保」が25.3%と高い割合になっています（図表Ⅱ-57）。

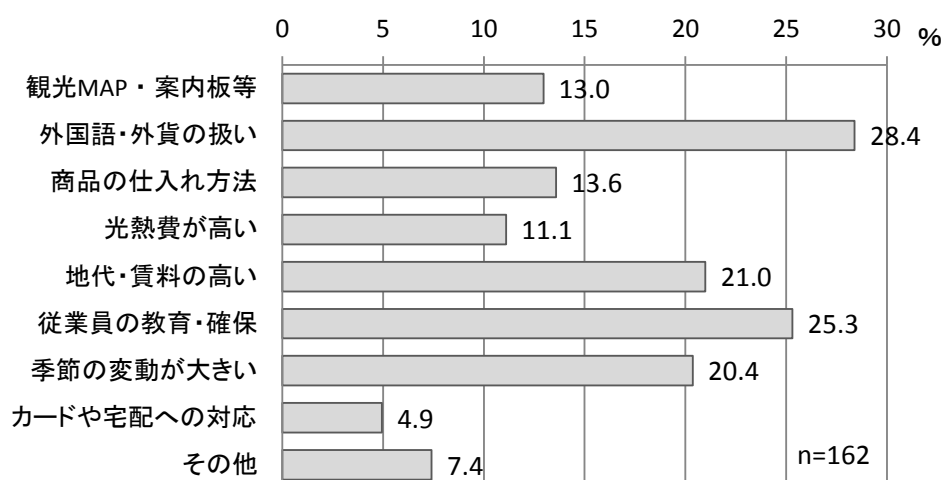
外国人対応力の強化や外国人を対象としたサービスの導入などを含む接客面のスキルアップを課題として挙げる観光事業者が多く、また、“那覇らしさ”や施設の独自性を魅力として付加する商品の開発や提供に対する必要性の認識と、実現に向けた課題が少なくないことも見てとれます。

観光インフラなどについては、「道路」が36.4%、「交通機関」が34.6%と足りているものと認識されている一方、不足しているものとして「駐車場」の54.3%、「街の美化」の36.4%と挙げられており、市民の認識とほぼ同様の結果となりました（図表Ⅱ-58）。

図表Ⅱ-56 経営面で力を入れている分野

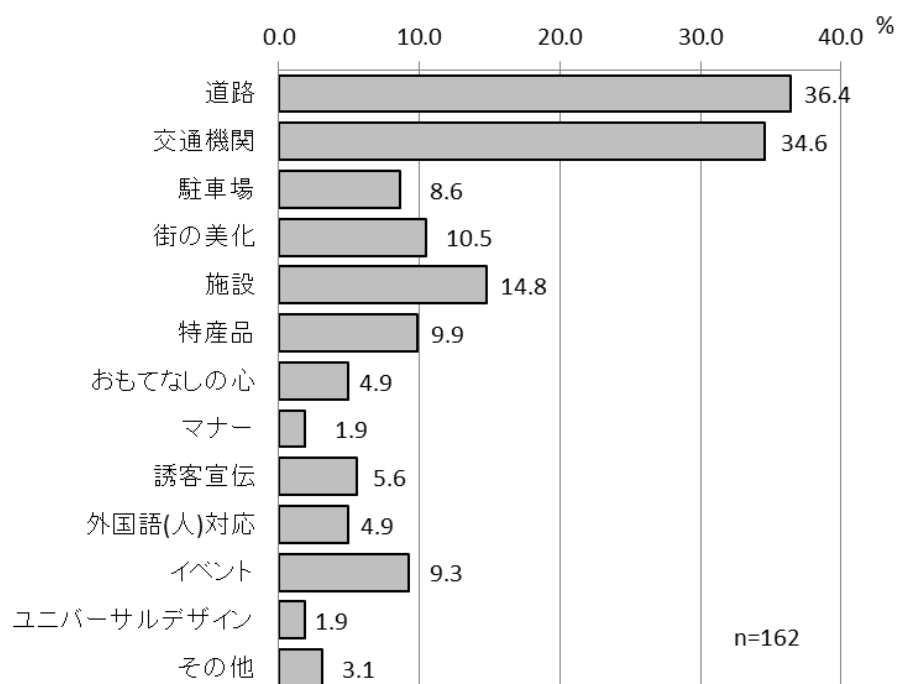


図表Ⅱ-57 観光客を対象とした経営面での課題

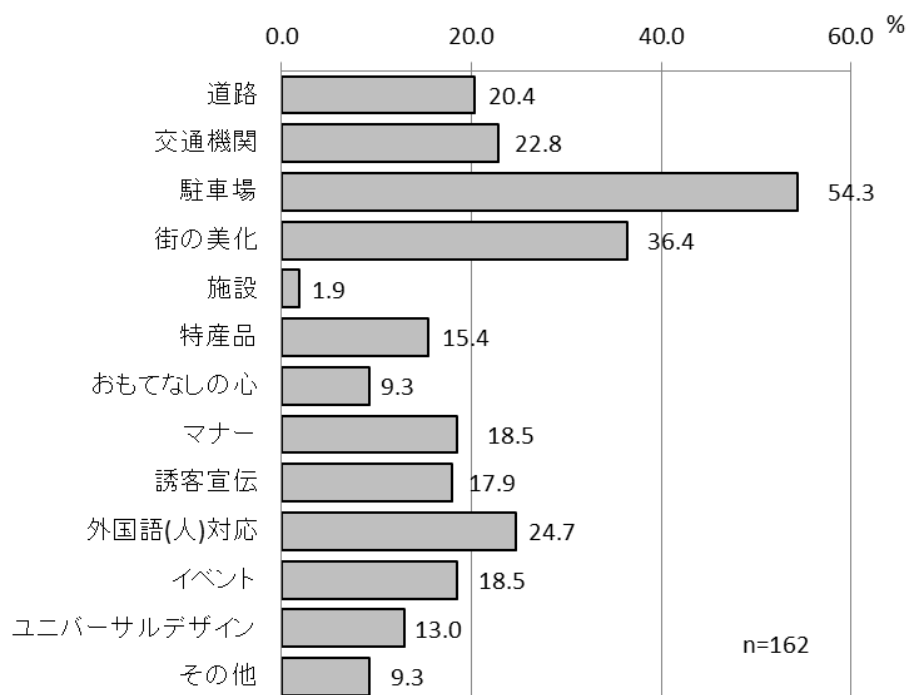


図表Ⅱ-58 観光地として那覇市に足りている点／足りない点(事業社)

【足りている点】



【足りない点】



4 那覇市観光の課題

前項までの那覇市観光の現状を踏まえ、那覇市観光を振興する上での課題を、「那覇ならではの観光魅力向上」、「観光客受け入れ環境の整備・充実」及び「受け入れ体制整備と観光産業の持続的発展・人材育成」に大別しました。

(1) 那覇ならではの観光魅力向上

これまで那覇市は沖縄観光のゲートウェイとして交通、宿泊、飲食・物産等の機能を果たしてきました。課題として、それら観光拠点としての都市機能を充実しつつ、那覇市での観光を目的とした観光スタイルを拡充することが挙げられます。特に宿泊施設稼働率から見える4～6月及び1月のオフ期対策、伸び悩む観光消費額の引上げには、那覇ならではの観光魅力をさらに引き出し、向上させる必要があります。

ア 観光資源の維持、充実、創出

那覇市には首里城をはじめ、歴史文化に裏付けられた観光資源が多数ありますが、これらの資源を維持しつつ、都市としての利便性や那覇市の歴史・文化・伝統を伝える取り組みの工夫など、さらに魅力向上を図る必要があります。

一方、既存の観光資源に加え、那覇らしい文化、生活、景観等の生活文化資源の活用が十分とは言えず、それらを活かした新たな那覇市観光の魅力を創出することが求められます。

	具体的課題
那覇らしい文化資源、生活資源、景観等を活かす必要があります	・ 那覇市の生活文化に根差した地域独自性の活用 ・ 市内の観光資源を活用した商品化、物語化など具体的な可視化策 ・ 隣接する地域や離島と連携した観光魅力、観光商品の訴求力 ・ リゾート地沖縄らしさに加え、那覇らしい景観・街並みの整備
既存観光資源をさらに魅力向上させる必要があります	・ 都市型ウォーターフロントとしての水辺の活用・整備 ・ 文化や伝統、世界遺産の活用 ・ 沖縄らしさ、那覇らしさを活かした店舗や物産 ・ 客層や天候に応じた多様な楽しみ

イ 那覇市の観光に対するプロモーション・観光情報の発信強化

那覇市には生活文化や歴史を背景とした観光資源や伝統工芸品などが存在しますが、県外在住者からみた那覇市のイメージ・評価において、それらの観光資源や伝統工芸品への認知度の低さが認められます。那覇らしい観光資源も、県外在住者に知ってもらわねば来訪や滞在に結び付きません。全国、世界に向け那覇市が持つ魅力を発信することが必要です。

	具体的課題
那覇市らしい魅力の情報発信が必要です	・新たな那覇市のイメージ、魅力発信 ・那覇市の「歴史、文化、芸能、伝統工芸」の認知・イメージ強化 ・観光情報の民間事業者などと連携した発信
テーマや客層に応じた発信が必要です	・リピーターに対する情報発信 ・MICE 等の個別施策に対する情報発信

(2) 観光客受入環境の整備・充実

那覇市の観光魅力を向上させると共に、観光客にとって安全、快適そして利便性の高い都市を目指すことが必要であり、それは限られた観光分野や地区だけでなく、行政、市民、民間事業者を含めた那覇市全体の取り組みとして進める必要があります。

ア 安全・安心・快適で来訪者にやさしい観光地形成

高齢者のみならず、障がいのある方や一般観光客にもやさしい観光地であることが求められています。また台風災害などの自然災害に対しては、その安全対策や緊急時対策及び体制を構築する必要があります。

さらに、恵まれた自然環境の保全のため、環境面に配慮した受け入れ体制が望まれます。

	具体的課題
誰にでもやさしい観光地づくりが必要です	・バリアフリー観光の取り組み ・ユニバーサルデザイン対応
安全・安心・快適な観光地づくりが必要です	・自然災害時の観光客の安全確保と適切な情報提供体制構築 ・自然災害時の具体的観光客対応に関する観光関連事業者の取組促進 ・安全・安心に「まち歩き」ができる都市環境の整備 ・観光施設における耐火等安全対策の向上
環境に配慮した持続可能な観光地づくりが必要です	・環境共生型観光の取組み ・観光産業の環境配慮への取組み

イ 国際化に対応した観光地形成

沖縄県はアジア圏からの外国人観光客が増加しており、今後、ロシアや欧米諸国からの誘客も期待されています。那覇市の外国人観光客の受け入れ体制の充実が問われると共に、国際的なリゾート地と比較しても誇れる都市景観や観光地づくりが求められます。

	具体的課題
受入環境整備が必要です	・外国人観光客への適切な情報提供 ・外国人観光客の決済環境（ATM など）の整備
国際的にも誇れる景観づくりが必要です	・道路、河川、商店街等の景観美化

ウ 観光客にとって移動しやすく快適な交通環境の整備

那覇市の都市交通の問題として慢性的な交通渋滞があげられており、それは観光客の移動利便性や快適性を阻害する要因となっています。さらに観光客のレンタカー利用が渋滞に拍車をかけており、那覇市に到着してからの観光客の二次交通として、路線バスや「ゆいレール」などの公共交通機関の利用を促すことが必要です。あわせて、主要観光施設を経由するなど、観光客のニーズにあった利便性の高い公共交通の整備や市内回遊を促す仕組みが必要です。

	具体的課題
快適かつ利便性の高い二次交通の整備と利用促進・利便性向上が必要です	・路線バスの定時定速性の確保 ・公共交通待合環境の整備 ・乗継利便性の高い交通結節点整備 ・公共交通の運行状況等の情報提供 ・公共交通までの安全で快適な移動環境の整備 ・観光バス乗降場及び待機場対策

(3) 受け入れ体制整備と観光産業の持続的発展・人材育成

那覇市の観光を観光産業のみならず、関連する産業やまちづくりへと波及させるためには、観光業界だけでなく様々な業界・団体と横断的な連携が必要です。また観光産業が持続的な発展を遂げる上では、それを支える人材・組織の育成が重要です。

ア 観光の重要性を認識し、市を挙げたおもてなしの強化

那覇市にとって観光は重要な基幹産業であるだけでなく、まちづくりの活性化や、那覇市の歴史、伝統文化を継承する上でも大切です。そのことを観光産業だけでなく、一般企業や市民に至るまで理解し、市を挙げた観光客へのおもてなしの意識の向上が必要です。

	具体的課題
観光関連業界のおもてなし強化が必要です	・観光関連事業者における「おもてなし」力 ・観光関連事業者の外国人対応力
市を挙げたおもてなし意識向上が必要です	・市の歴史文化、観光に対する市民の認識強化 ・観光客のニーズに合った観光情報提供
観光と他部門との連携強化が必要です	・観光に関わる業種の連携強化

イ 持続的発展のための人材の育成と確保

那覇市にとって観光産業は重要な基幹産業であり、持続、発展させることが重要です。それには観光産業が、将来を担う若手人材にとってより魅力的となる環境整備を図ると共に、観光の専門家を育成する必要があります。

	具体的課題
観光業界の職域環境向上	・国際的にも通用する観光人材の育成 ・観光業の雇用環境と社会的ステイタスの向上

Ⅲ 那覇市観光基本計画

1 将来像と目指す方向性

(1) 将来像

人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市

那覇市が目指す観光は、沖縄 21 世紀ビジョンが謳う世界水準のリゾート地沖縄の形成を担いながら、第 4 次那覇市総合計画に謳われている「観光交流都市」を実現することです。さらに国際化の流れが一層強まる中、観光を通じた交流だけでなく、国際的なビジネス拠点や物流拠点なども視野に入れた観光地づくりを進めていきます。

沖縄県が目指す世界水準の観光リゾート地とは、那覇市や離島を含む沖縄全体を指しており、那覇市はリゾート地域の拠点都市です。那覇市の観光の将来像は、亜熱帯気候のリゾート沖縄の拠点都市としての機能を充実する一方で、世界遺産の首里城をはじめ琉球王朝を今に伝える歴史・文化・生活・産業に培われた独自の観光資源に溢れた『観光交流都市』を目指します。

そして行政、市民、民間事業者がそれら那覇市の魅力や個性を誇りに持ちつつ、さらに磨き上げ内外の観光客誘致に活用することで人も、まちも生き活きとした地域社会を目指します。



(2) 目指す方向性

上記の将来像を達成するために、那覇市の観光が目指す方向性を以下の通りとします。

ア 国際化に対応した那覇市の観光

那覇市は沖縄観光のゲートウェイとしての機能を果たしてきました。今後は世界水準のリゾート地沖縄の拠点都市としての機能と魅力を担いつつ、観光だけでなく物流・ビジネス・情報発信などでも拠点となるようなリゾート都市を目指します。

また、国、県あるいは周辺自治体も含めた連携の下で沖縄県の国家戦略特区の指定を活かした外国人観光客の受入体制や施設の充実を図ります。

イ 沖縄県が持つ固有の歴史・資源・魅力を活かした那覇市の観光

世界遺産として登録されている首里城跡を筆頭に、那覇市には琉球王国の歴史を伝える歴史資源が多数存在します。那覇市に滞在し沖縄の歴史と文化に接する機会を充実させることで、リゾートの魅力に、那覇らしい文化的魅力が加わり、国際的リゾートの中で独自性を持った観光地域となります。

さらに市民の生活や産業、なりわいなどの生活文化自体が観光客にとって魅力となる時代です。生活文化が楽しめる市内観光地は、国際通りや平和通りなどがありますが、それ以外にも那覇市の生活文化資源を発掘し、リゾートや歴史文化の魅力と共に発信します。

また、那覇らしい生活文化の継承には、市民の果たす役割が重要です。市民の観光に対する理解と郷土への誇りを深める取組により、市民を巻き込んだおもてなしの心あふれる観光地を目指します。

ウ 資源、環境に優しい那覇市の観光

那覇市や沖縄県の観光は、世界に誇れる自然資源に依拠しています。また、我が国の中でも独自の歴史背景を持つ歴史資源を持つことから、観光を通じてこれら資源を次世代に受け継ぐことが重要です。

一方で、観光が地域の環境に与える影響は大きく、観光振興は環境問題を踏まえた取り組みが必要となります。事業者によるエコ対策などの取組促進により、環境に優しい観光を目指します。

エ まちづくりと連携した那覇市の観光

那覇市の観光への満足度を高める上で、移動に対する公共交通の利便性や快適性をさらに向上させる必要があります。また、那覇市には多様な客層が訪れており、高齢者や障がい者にも優しい観光地づくりが求められています。さらに沖縄らしい街並みや景観づくりは、国際的リゾートを目指す上で重要な取り組みとなります。

これらは観光客にとってだけでなく、市民にとっても重要なまちづくりの取り組みです。交通事業者、観光事業者などと連携し、市民との協働によるまちづくりを進め、市民も観光客も快適に過ごせる観光地を目指します。

オ リーディング産業に相応しい那覇市の観光

那覇市にとって観光産業がリーディング産業であることはゆるぎありません。一方で観光産業は多くの事業者が脆弱であり、雇用者の環境・待遇も社会的にみて不安定です。

那覇市の観光産業が将来にわたり持続発展できる基盤作りと人材育成に取り組むことで、観光産業の社会的位置付けの向上を目指します。

(3) 将来目標値

本計画の最終年度（平成 36 年度）の目標値として、「観光収入」及びその裏付けとなる「観光客一人あたり市内消費額」、「延べ市内宿泊客数」を設定しました。

この目標値は、現状とこれまでの実績を踏まえると高い目標ではありますが、那覇市の高い潜在能力を活かし、行政、市民、民間事業者が協働して本計画で示す取組を実現することにより達成を目指します。

ア 観光収入：4,500 億円

那覇市の観光収入については、以下に示す宿泊人数 500 万人及び観光客一人あたり市内消費額 90,000 円の目標値を基に目標値を 4,500 億円とします。

この目標値は、那覇市への宿泊客によるものであり、立寄り客による観光収入は含まれません。立寄り客による観光収入（客数やその消費単価）については、今後、観光入込統計の充実を図ることで、補足することを目指します。

イ 観光客一人あたり市内消費額：90,000 円

本計画の取組推進により、外国人観光客も含めた観光客の市内宿泊日数を延ばすことで、宿泊費や飲食費を増加させます。加えて、魅力ある土産品の開発やまち歩きなどの体験メニューの充実に努め、宿泊費以外の消費単価を増加させることで宿泊客一人あたり市内消費額を 90,000 円と設定します。

ウ 延べ市内宿泊客数：1,300 万人泊

本計画の取組推進により、那覇市の拠点性や滞在魅力を高めることで、延べ市内宿泊客数を平成 25 年度の 630 万人から約 2 倍の 1,300 万人泊とすることを目指します。

1,300 万人泊の内訳は、市内宿泊人数が 500 万人及び市内平均宿泊数 2.6 泊を想定しています。

なお、将来目標値については今後、観光客アンケートのサンプル数向上、立ち寄り客数とその動向の把握などにより観光統計の精度を高めていく中で、必要に応じて見直すこととします。

(4) マーケット・ターゲットの想定

観光振興を図るためには、観光客の志向やタイプの多様化を踏まえ、那覇市観光のマーケットやターゲットを想定することが必要です。海外も含めた居住地域だけでなく、観光客の同行者タイプと那覇市及び那覇市を拠点とした観光のスタイルや楽しみ方を整理し、観光客の具体的な姿をイメージして今後の観光振興策に取り組むことが重要です。

ア 居住地域・誘致圏を想定する

沖縄県は国内全域から来訪客のあるリゾート地ですが、今後海外からの観光客の増加が見込まれます。海外からの観光客は、国や圏域ごとに日本、沖縄に対する期待や満足度の違いがあり、また、ハラルなどのようにその国独特の風習や習慣の違いが存在するなど、多様なニーズに対応する必要があります。

一方で県外からの観光客だけでなく、県民も那覇市に来訪することから、近隣の需要も想定しておくことが重要です。

- 外国人客（国別の風習の違いや日本・沖縄への期待の違いなど）
- 国内全域からの来訪
- 県民市民（通勤・通学を含む）の那覇市利用

イ 同行者タイプ別の観光スタイルを想定する

観光旅行の目的や具体的行動は、旅行の同行者により大きく左右されます。旅行者の属性を性別、年齢別だけでなくタイプで想定し、観光の嗜好性に即した楽しみ方を提供する必要があります。

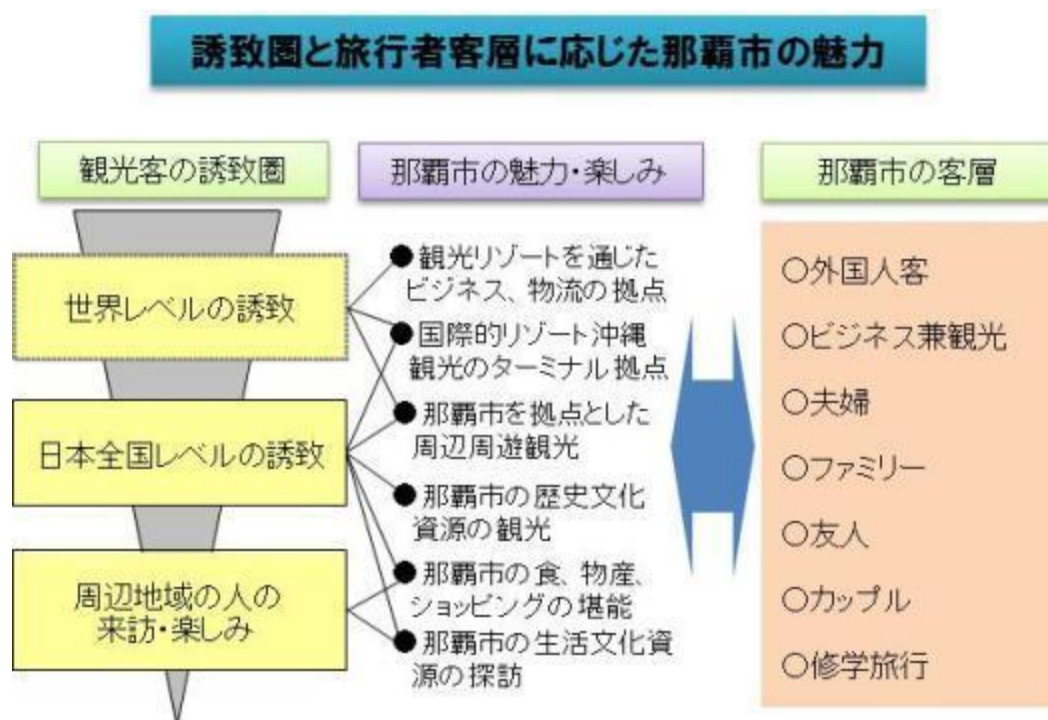
- 外国人客
- ビジネス兼観光
- 夫婦
- ファミリー
- 友人
- カップル
- 修学旅行 など

ウ 滞在スタイル、那覇市の楽しみ方を想定する

前述の観光客のタイプに応じ、那覇市の持つ資源・施設・サービスについて、楽しみ方を利用者の立場で想定し、受け入れ体制を整備することが必要です。

- 観光リゾート機能を持つビジネス、物流拠点としての魅力と快適性
- 国際リゾート沖縄のターミナル拠点での滞在利用
- 那覇市を核とした周辺地域への周遊観光の魅力
- 那覇市の観光資源をじっくり探訪する魅力
- 那覇市の回遊、まちあるきの魅力
- 那覇市の生活文化資源の発見と堪能する楽しみ
- 那覇市ならではの食、ショッピングの楽しみ
- 温暖な気候風土のもとでスポーツを楽しむ など

以上の考え方により、それぞれの取組に際し、那覇市の資源を生かして、具体的にどのような魅力と楽しみ方を提供するかを想定することとします。



(5) 観光ゾーニング

ア 観光ゾーニングの目的と位置付け

観光ゾーニングは、都市計画その他の計画を踏まえながら面としての観光機能や観光利用の方向性を想定するものです。観光ゾーニングは法的に担保性を持つものではありませんが、都市整備や歴史資源・自然資源の保護・保全計画と連携していくものです。

イ 観光ゾーニングの基本的考え方

- 観光ゾーニング区分は観光機能面において重点的に機能を担うエリアを設定していますが、設定されてない他地区においても観光資源の保護充実を図ります。
- 観光交流都市として、独自の歴史資源や自然資源の保全を重視しつつ、それらと共生した観光利用を図ります。
- 従来の観光資源（首里城跡など）や中心市街地（国際通りなど）を核としながら、周辺の市街地への回遊も想定した面としての利活用を図ります。
- ゾーニングは観光機能の方向性と共に、那覇らしい景観・風景の醸出も踏まえたものとしします。
- 各ゾーンを連絡するまち歩きルートを設定し、その途上に生活文化に触れられるスポットへの支線をめぐらせることを想定しています。



中心市街地賑わいゾーン（国際通り）



首里・識名歴史探索ゾーン（金城町石畳道）



おもろまち新都心ゾーン（県立博物館・美術館）



ウォーターフロントゾーン（波の上ビーチ）

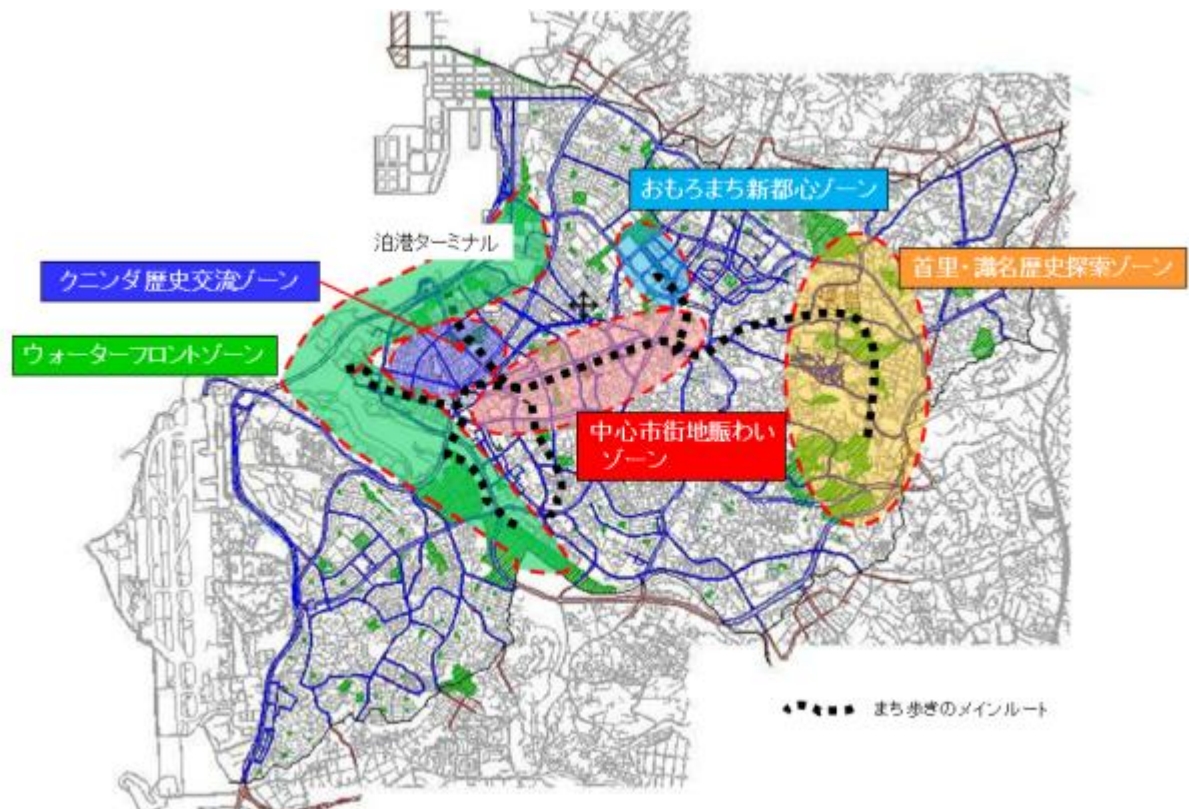


クニダ歴史交流ゾーン（福州園前）

ウ 観光ゾーニング区分

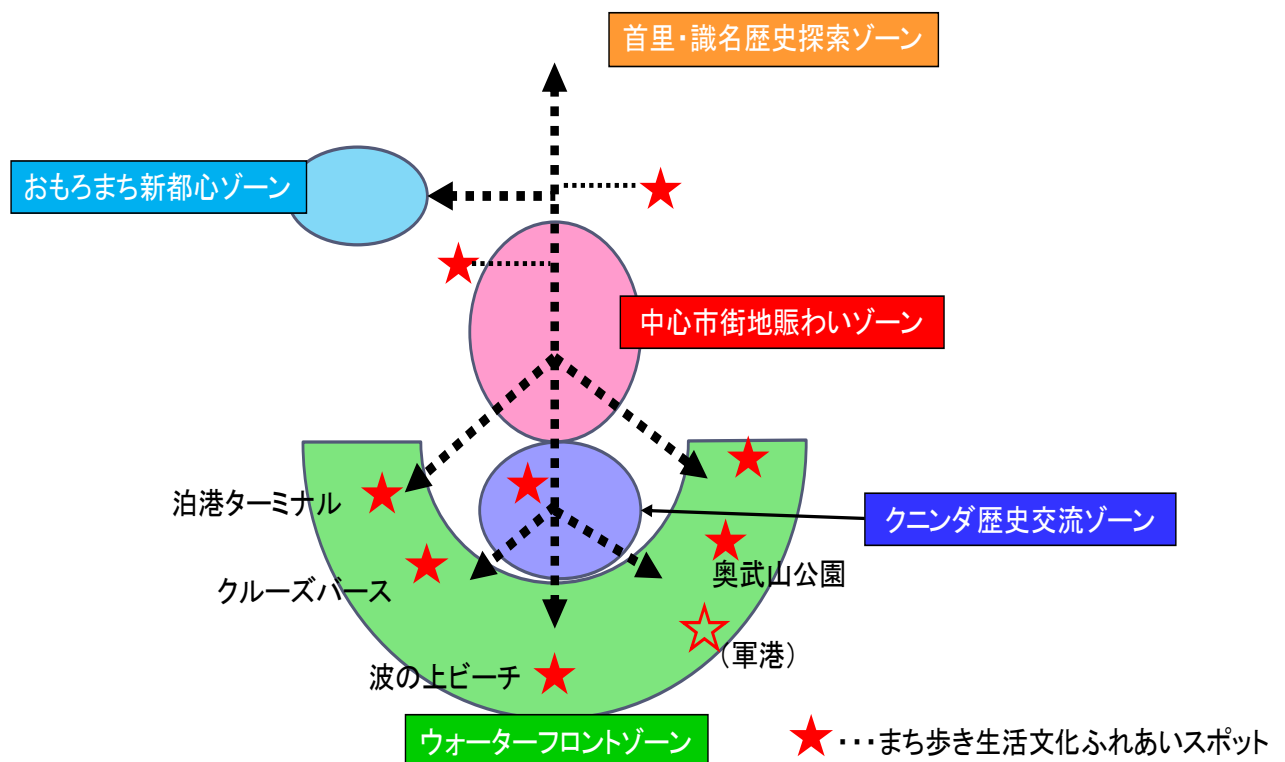
ゾーン区分	観光機能	観光客の楽しみ方
中心市街地賑わいゾーン	国際通りを中心としながら、周辺の街区、店舗を歩いて探索するゾーン。ショッピング、夜の飲食店が楽しめるゾーン。	沖縄物産、土産と地域の逸品探し。地域の隠れた店舗、飲食店の発見。宿泊しまち歩きと食・ショッピングを楽しむ。利便性の良い市街地に泊まる。
首里・識名歴史探索ゾーン	首里城及び識名園を核とし、じっくり沖縄文化の歴史を学び楽しむゾーン。「琉球の散歩道(仮称)」により、散策、サイクリング、ゆいレールを使い分け、他のエリアと行き来しながら那覇のまちを堪能する。	時間や興味に応じた琉球王国の歴史を楽しめるメニューやまち歩きを楽しむ。都市の中で歴史に包まれほっとできる異空間と居心地の良さを感じる。
おもろまち新都心ゾーン	新都心で宿泊し、県立博物館などで学びながら散策し、首里城など周辺観光への拠点となるゾーン。免税店など大型店舗でのショッピングを楽しめるゾーン。	市街地での宿泊とは異なる開放的な宿泊拠点。博物館などで沖縄の歴史を学び、芸術に触れる。ショッピングを楽しむ。
ウォーターフロントゾーン	漫湖湿地帯から奥武山公園、将来的な面的利活用の可能性を残す軍港、波の上ビーチ、クルーズバース、泊港などに至る、那覇らしい水辺沿いをつなぐゾーン。沖縄のウォーターフロントに相応しい開放的な海、川を感じ、市街地との連携を図るゾーン。	市街地から歩いて行けるビーチを堪能する。慶良間諸島の自然性と那覇市の都市機能をセットで楽しむ。出港、入港を眺めながら探索・散歩する。奥武山公園一帯でスポーツ、スポーツ観戦、イベントを楽しむ。国際的なリゾートにふさわしい環境と自然の調和を感じる。
クニンダ歴史交流ゾーン	中心市街地賑わいゾーンとウォーターフロントを繋ぐゾーン。観光客に知られていない歴史地区としてアピールする。	市街地の賑わいから、海辺へいざなう散歩道。かつての旧市街地で歴史を探索する。
まち歩き生活文化ふれあいスポット	各ゾーンを連絡するルートに、歴史・生活文化を感じられるスポットや資源をつなぎ、ネットワーク化する。	知らなかった那覇市の歴史、生活を見つけ、市民とのふれあいを楽しむ。自分だけの那覇を発見する。

◆那覇市観光ゾーニング図



◆歴史と生活文化と水辺のネットワーク

「観光ゾーニング区分」における各ゾーンと、まち歩き生活文化ふれあいスポットとの連携図



那覇市観光基本計画の体系

那覇市観光の将来像

那覇市の観光が目指す方向性

人も、まちも生きいき、
美ら島の観光交流都市

①国際化に対応した那覇市の観光

②沖縄県が持つ固有の歴史・資源・魅力を活かした那覇市の観光

③資源、環境に優しい那覇市の観光

④まちづくりと連携した那覇市の観光

⑤リーディング産業に相応しい那覇市の観光

取組の展開

取組の展開① 国際リゾート沖縄の拠点都市として機能・魅力の充実

- (ア) 国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受け入れ機能の強化
- (イ) 沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実
- (ウ) 離島及び周辺地域と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化
- (エ) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり

取組の展開② 沖縄・那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力向上

- (ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実
- (イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実
- (ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流
- (エ) 那覇市ならではのの地場産品、物産の継承・発掘と魅力向上

取組の展開③ 那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化

- (ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化
- (イ) ユニバーサルツーリズムの推進
- (ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開
- (エ) 安全・安心・快適なまちづくり
- (オ) 観光協会の機能充実

取組の展開④ 市内回遊と交通ネットワークの連携・整備

- (ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上
- (イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり

取組の展開⑤ 那覇市観光の内外への情報発信強化

- (ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信
- (イ) 口コミ・SNS情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開

取組の展開⑥ 外国人観光客への体制整備

- (ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション
- (イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信
- (ウ) 外国語標記、Wi-Fi環境整備など情報発信の整備と利便性向上
- (エ) 観光事業者の語学力向上および外国人向け通訳・ガイドの育成

取組の展開⑦ 観光産業の持続的な発展支援

- (ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上
- (イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上
- (ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進
- (エ) 観光入込統計の充実と観光客および市民の意識調査の定期的実施

(1) 取組の体系

那覇市観光の将来像と目指す方向性に従い、下記7つの取組の展開を軸に具体的取組を推進します。

取組の展開①

国際リゾート沖縄の拠点都市として機能・魅力の充実

沖縄観光は、恵まれた自然資源により、順調な入込客増を果たし、その中で那覇市はゲートウェイとしての機能を果たしてきました。今後、この機能を国際的リゾートの拠点都市に相応しく発揮し、また那覇市自身の観光・滞在魅力を強化していきます。

- (ア) 国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受け入れ機能の強化
- (イ) 沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実
- (ウ) 離島及び周辺地域と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化
- (エ) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり

取組の展開②

沖縄・那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力向上

世界遺産である首里城跡を筆頭に、那覇市には琉球王国の歴史を伝える歴史資源が残されています。これらの見せ方、伝え方の工夫や、ネットワーク化などにより、那覇市での観光・滞在時間の延長を図ります。また市民の生活や生業による文化が継承されており、それらを発掘、アピールすることで従来の観光資源や観光スポットだけでなく、那覇市のまち全体を観光対象とするための魅力づけに取り組みます。

- (ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実
- (イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実
- (ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流
- (エ) 那覇ならではの地場産品、物産の継承、発掘と魅力向上

取組の展開③

那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化

これからの観光振興は、国内からの観光客だけでなく、国外からの観光客にも対応した受入体制の整備が必要です。そのためには観光産業関係者だけでなく、市民も巻き込んで、おもてなしの意識を広げる必要があります。また民間の取り組みを支援する体制・組織の強化に取り組みます。

- (ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化
- (イ) ユニバーサルツーリズムの推進
- (ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開
- (エ) 安全・安心・快適なまちづくり
- (オ) 観光協会の機能充実

取組の展開④**市内回遊と交通ネットワークの連携・整備**

沖縄観光の交通手段はレンタカーが主体となっていますが、環境への配慮などから公共交通への転換を図り、多様な公共交通手段を活用して市内を回遊できる仕組みづくりを行います。

- (ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上
- (イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり

取組の展開⑤**那覇市観光の内外への情報発信強化**

那覇市の滞在・交通情報をはじめ、歴史文化資源や生活文化資源の魅力を、興味関心が高い客層に的確に届けるための情報発信を強化します。

- (ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信
- (イ) ロコミ・SNS 情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開

取組の展開⑥**外国人観光客への体制整備**

海外からの観光客は隣接する台湾、香港を中心に伸びてきましたが、日本への入込客全体の中での沖縄県の訪問比率は低位です。沖縄県が目指す入域観光客 1,000 万人うち外国人観光客 200 万人（第 5 次沖縄県観光振興基本計画）を達成するため、那覇市においても、今後さらに幅広い国からの誘致を図り、その受入体制整備に努めます。

- (ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション
- (イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信
- (ウ) 外国語標記、Wi-Fi 環境整備など情報発信の整備と利便性向上
- (エ) 観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成

取組の展開⑦**観光産業の持続的な発展支援**

観光が那覇市のリーディング産業として持続するために、観光産業の地位や環境向上に取り組めます。また特に次世代を担う若者にとって魅力があり、誇りを持てる観光産業への発展を支援します。

- (ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上
- (イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上
- (ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進
- (エ) 観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施

(2) 取組の内容

① 国際リゾート沖縄の拠点都市として機能・魅力の充実

沖縄観光は、恵まれた自然資源により、順調な入込客増を果たし、その中で那覇市はゲートウェイとしての機能を果たしてきました。今後、この機能を国際的リゾートの拠点都市に相応しく発揮し、また那覇市自身の観光・滞在魅力を強化していきます。

(ア) 国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受け入れ機能の強化

国際線ターミナルが拡張されたこと、また、平成 31 年に供用開始予定である那覇空港第二滑走路の増設工事が着手されたことで、ますます国内外からの観光客が増加することが予想されます。これに対応して那覇市をターミナルとした県内離島との航空、航路アクセスの充実や、空港での観光情報提供、予約手配などソフト面での連携強化が必要です。

一方で、那覇港管理組合と連携し、クルーズ観光の進展に対応したクルーズバースの機能強化、那覇市を拠点とした周辺離島へのアクセス等の機能強化も必要となります。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇空港で沖縄観光、那覇市観光の様々な情報を得る、現地手配ができる。
- ・海から訪れる那覇市の顔、景観を楽しむ。

【取組の内容】

- ・国際線ターミナルでの観光情報の提供充実に取り組む。
- ・沖縄県の玄関として、二次交通全般の利便性、接客サービス向上に取り組む。
- ・クルーズ船の誘致とクルーズバースの増設を図る。
- ・クルーズバースと市街地を結ぶルートを中心とした周辺環境、景観整備に取り組む。
- ・那覇市の玄関に相応しい空・海から見た景観づくりに取り組む。

(イ) 沖縄 MICE 観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実

MICE の誘致促進は、沖縄県全体の課題として取り組むべきものです。その中で、那覇市の役割は宿泊機能、交通ターミナル機能、飲食等の都市サービス集積機能などの中核的存在であり、より一層、県及び周辺市町村と連携し、県全体としての魅力向上と機能分担に取り組む必要があります。

また家族同伴のビジネス利用に対し子供向けのサービスやメニューの充実にも取り組みます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・沖縄の自然・歴史に囲まれた下での MICE 開催の魅力。
- ・那覇市の都市観光と慶良間諸島などへのアフターコンベンションの魅力。

【取組の内容】

- ・沖縄県、OCVB と連携した MICE 誘致促進に取り組む。
- ・那覇市として MICE の誘致、受入体制に関する連絡調整体制の整備に取り組む。
- ・アフターコンベンションのメニュー、ユニークメニューの開発連携に取り組む。
- ・夜の観光エンターテインメントの充実を図る。
- ・全天候型の観光プログラムの充実を図る。
- ・スポーツ施設の整備・充実、スポーツイベント・キャンプの誘致・開催促進に取り組む。

(ウ) 周辺地域及び離島と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化

那覇市は沖縄観光の交通ターミナル拠点であり、宿泊拠点でもあります。市内観光と共に、本市に滞在し、本島南部や中北部の周辺観光地へ足を延ばす、あるいは周辺に滞在しながら本市の都市機能も堪能する観光スタイルを促進します。

さらに本島だけでなく、久米島、粟国島などの本市から航路で繋がる離島とさらなる連携を図る必要があります。特に平成 26 年 3 月に国立公園として認定された慶良間諸島は、那覇市の中心市街地から一時間でアクセスできる離島であり、那覇市の都市集積機能と自然度が高い慶良間諸島との組み合わせの滞在スタイルを、独自のものとしてアピールします。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇市から 1 時間で国立公園を楽しめる、クジラに出会える。
- ・那覇市に滞在し、都市観光を楽しみつつ、自然の中で癒しを堪能する。
- ・那覇市周辺で滞在しながらも、那覇市でショッピング等の都市的サービスを楽しむことができる。

【取組の内容】

- ・久米島、粟国島、渡名喜島、慶良間諸島及び周辺観光地の情報を集約し、那覇市に滞在していても手配できる環境整備に取り組む。
- ・離島及び周辺観光地への交通アクセス情報の一元化と提供に取り組む。
- ・離島及び周辺観光地への小旅行パッケージの開拓を図る。
- ・周辺市町村、観光協会、交通事業者間の連携強化を図る。

(エ) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり

沖縄県が世界水準の観光リゾート地の形成をめざす上で、その拠点都市である那覇市は、それに相応しい花と緑に溢れた都市景観づくりに取り組みます。さらに那覇市は固有の歴史や文化を継承しており、それらを保全しつつ都市の景観づくりを進めていきます。また、沖縄県は海浜リゾートとして知られていますが、那覇市の水辺を美しい都市型ウォーターフロントとして整備することで、新たな那覇市の顔づくりを図ります。

これらは那覇市のまちづくりと緊密に連携し、取り組むこととします。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・まち歩きを通して「沖縄情緒」を楽しむ。
- ・海浜リゾートの自然景観と沖縄の歴史性双方を感じる都市景観を堪能する。

【取組の内容】

- ・国際リゾートにふさわしい景観整備を行い、行政、市民、民間事業者の協働による緑化・植栽の維持管理体制を検討する。
- ・観光ゾーニングの「中心市街地賑わいゾーン」を中核として、首里城・識名ゾーンと那覇市クニンダ歴史交流ゾーン、ウォーターフロントゾーンを結ぶルートを、観光客のまち歩きの軸とし、歩いて楽しい街並み景観の形成を図る。
- ・ウォーターフロントのプロムナードづくりに取り組む。

② 沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上

世界遺産である首里城跡を筆頭に、那覇市には琉球王国の歴史を伝える歴史資源が残されています。これらの見せ方、伝え方の工夫や、ネットワーク化などにより、那覇市での観光・滞在時間の延長を図ります。また市民の生活や生業による文化が継承されており、それらを発掘、アピールすることで従来の観光資源や観光スポットだけでなく、那覇市のまち全体を観光対象とする魅力づけに取り組みます。

(ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実

世界遺産である首里城跡など、琉球王国時代から現代までの独自の歴史文化資源を見学するだけでなく、分かりやすく伝え、体験させることで観光資源の魅力向上を図ります。

また首里城と識名園や市内の歴史資源をネットワーク化し、「那覇市の歴史まち歩き」を一つの観光魅力として育成します。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・じっくり琉球王国の歴史を知る、学び体感する。
- ・市内に点在する歴史資源や博物館めぐりを楽しみ、その途上で那覇市の歴史文化に触れる。

【取組の内容】

- ・首里城、識名園及び福州園などがある松山地区を中心とした市内歴史文化探索コースの設定、商品化を図る。
- ・那覇市を起点とする世界遺産めぐりの定期バスツアー、タクシーツアーの商品化を図る。
- ・琉球王国時代のテーマで絞った観光メニュー、コース開発を行う。(史実、戦国、食、建築、信仰、市民生活等々)

(イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実

那覇市の生活文化を見学するだけでなく、観光客が五感を通じて体験できる仕組みづくりを行います。文化的資源に加え、那覇市の貴重な自然環境を保全しつつ活用する体験メニューを創出します。

また、スポーツイベントや家族で楽しめるメニューの開発にも取り組みます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇市の生活を体験できる。
- ・那覇市の市民と交流できる。
- ・那覇市に住まうように観光する。

【取組の内容】

- ・市民が集う食堂・居酒屋・マチグラー（公設市場とその他の市場）や商店街・スピリチュアルスポット等、生活に根付いたスポットの発掘に取り組む。
- ・ゆいレール、観光周遊バス、路線バス、レンタサイクルなどと連携した多様な廻り方のシステム化を図る。
- ・生活文化を活用した体験プログラムの開発と専任のガイド育成を図る。
- ・宿泊施設とタイアップした「宿泊＋那覇市生活体験メニュー」の商品開発に取り組む。
- ・野鳥観察等、自然体験できるメニューの開発に取り組む。
- ・温暖な気候を活かしたスポーツイベント、スポーツ施設の充実に取り組む。
- ・家族や子供が楽しめるメニューの開発に取り組む。

(ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流

那覇市には琉球王国の時代から様々な伝統文化や伝統工芸が伝えられており、それらは、沖縄独自の文化資源です。

那覇市に継承される組踊、琉球舞踊、琉球音楽などの伝統文化や、紅型、首里織、琉球漆器、壺屋焼などの伝統工芸を鑑賞するだけでなく、観光客も体験し購入できる場の充実に取り組みます。

さらに若者の感性に基づくサブカルチャーやストリートダンス、音楽など、新たな芸術文化にもスポットをあて、アピールする場づくりに取り組みます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・沖縄ならではの伝統文化・工芸にふれる。
- ・伝統文化を踏まえ、これからの那覇市の芸術、アートにふれる。
- ・若者のファッションや感性に接し、コミュニケーションが図れる

【取組の内容】

- ・那覇ハーリー、那覇大綱挽など伝統行事の継承及び発信を図る。
- ・安里のフェースシマ、国場のウズンビーラ、首里汀良町などの獅子舞、安次嶺の村踊りなど、地域に伝わる伝統芸能の継承及び発信を図る。
- ・琉球舞踊、三線、空手など伝統文化の体験促進を図る。
- ・伝統工芸制作工程の公開や体験の促進を図る。
- ・若者の芸術文化、サブカルチャーの発表、交流イベントを実施し情報発信に取り組む。

(エ) 那覇ならではの地場産品、物産の発掘と魅力向上

観光土産品及び那覇市で生産される地場産品や物産を観光客にアピールすると共に、魅力的な土産品、物産開発に取り組みます。また伝統的物産と共に、新たなデザインや感性の物産なども発掘し紹介していきます。

さらに沖縄の素材を活かした那覇ならではの食の開発・強化に取り組みます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇市らしい食材、土産品、生活用品が手に入る。
- ・他県にはない逸品の発見。
- ・那覇市の名物を味わえる。

【取組の内容】

- ・那覇ならではの魅力的な土産品、物産の開発に取り組む。
- ・「那覇市の逸品ブランド（仮称）」の認定制度の導入を検討する。
- ・マグロや鏡水大根（島野菜）など、特産物の魅力を発信する。
- ・沖縄の食材を活かした新たな食の開発に取り組む。

③ 那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化

これからの観光振興は、国内からの観光客だけでなく、国外からの観光客にも対応した受入体制の整備が必要です。そのためには観光産業関係者だけでなく、市民も巻き込んで、おもてなしの意識を広げる必要があります。また民間の取り組みを支援する体制・組織の強化に取り組みます。

(ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化

国内外の観光客が満足する質の高いサービスを提供するため、人材の育成に取り組めます。また、これらの観光人材を組織化し、迅速かつ効果的な活用が可能な体制を整備します。

【取組の内容】

- ・まち歩きや那覇市の歴史・文化・生活を伝えるガイド人材の育成と活用体制の整備に取り組む。
- ・観光産業の持続的な発展を支える、観光関連事業の中核人材、経営人材の育成を図る。
- ・県内の大学や専門学校、高等学校等と連携した観光人材育成支援と雇用の促進を図る。

(イ) ユニバーサルツーリズムの推進

誰もが安心して旅行を楽しむことができる環境を整備することで、高齢者、障がい者、乳幼児連れ、持病のある人（以下、「要支援観光客」という。）の受入体制の強化を図ります。また、要支援観光客のための旅行商品の造成・普及を図ります。

【取組の内容】

- ・事業者と連携した、市内の観光施設、交通、公園、飲食関連施設等のユニバーサルデザイン化の促進を図る。（手すりやスロープ、エレベーター等の設置促進や、点字や音声による観光関連情報の提供等）
- ・要支援観光客を対象とした旅行商品の開発促進を図る。
- ・要支援観光客の受入体制強化を目的とした観光関連事業者への啓発活動に取り組む。
- ・要支援観光客に対応した医院、飲食店などを含む市内のバリアフリー情報を観光客も手軽に入手・活用できる仕組みづくりに取り組む。

(ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開

那覇市における滞在満足度を向上させ、市民と観光客とが交流する活気あるまちづくりを行うために、行政、観光関連事業者、地域住民が一体となったおもてなしを提供するための体制づくりとおもてなし力向上に取り組めます。

【取組の内容】

- ・観光関連事業者のおもてなし力向上のための研修実施等に取り組む。
- ・観光関連事業者、並びに市民に対する「那覇ならではの観光おもてなし力・設備」等に関する評価登録制度の検討、構築に取り組む。（ライセンス等の付与）
- ・市民の観光産業への理解度及びおもてなし力を向上させることを目的としたセミナー等を通じ、おもてなし意識の醸成を図る。
- ・市民による観光客への「ハイサイ、ハイタイあいさつ運動（仮称）」などに取り組む。

(エ) 安全・安心・快適なまちづくり

災害や事故の発生時、並びに観光客が病気や怪我等に見舞われた場合に、適切な対応を行う体制を整備します。また、観光客が快適に観光できるよう、まちの環境整備、美化を進めます。

【取組の内容】

- ・那覇市観光危機管理計画の策定と、これに伴う観光危機管理体制の整備を行う。
- ・建築物の耐火・耐震化の促進及び支援に取り組む。
- ・一定の防火基準に適合した宿泊施設に与えられる表示制度の普及促進に取り組む。
- ・災害時に観光客を最寄りの避難場所へ案内・誘導する避難情報システムの導入を図る。
- ・国内外の観光客を対象とした、医療機関、医療サービス（AED ステーションなど）の情報提供を図る。
- ・外灯の整備など、安全なまちづくりに取り組む。
- ・観光客の防犯対策や客引き等の迷惑行為の防止に取り組む。
- ・観光関連事業者のモラル、マナーの向上に向けた啓発活動に取り組む。
- ・公衆トイレの整備及びメンテナンスの充実など、衛生面の環境整備を図る。
- ・ゴミのポイ捨て防止等、街の美化に対する市民意識の向上を図る。
- ・簡易な宿泊滞在施設も含めた安全、安心機能整備の浸透を図る。

(オ) 観光協会の機能充実

那覇市の観光振興を行政、市民、民間事業者が一体となって推し進めるにあたり、地域の観光プラットフォーム機能が不可欠であり、この役割を観光協会が担うことが必要となります。観光行政や観光関連事業者との密な連携と観光振興に資する様々な事業の実施を通じて財務基盤強化を図るとともに、観光客や市場に対するプロモーション窓口機能の充実に取り組みます。

【取組の内容】

- ・広報活動や、市内の観光関連事業者との連携事業の実施等を通じて那覇市観光協会の会員増加に繋げ、観光協会の横断的ネットワーク強化に取り組む。
- ・沖縄県並びに他市町村、観光関連団体等と連携し、国内外の観光市場に対して観光情報の集約、発信などプロモーション活動に取り組む。
- ・地域で活動する農業や商工業などの各種団体や、観光に関わる多様な人材との相互連携を図る。
- ・観光の専門的ノウハウを持った職員の登用と育成を図る。
- ・着地型観光商品や物産の開発・販売を強化し、自立的な財務基盤形成に取り組む。

④ 市内回遊と交通ネットワークの連携・整備

沖縄観光の交通手段はレンタカーが主体となっていますが、環境への配慮などから公共交通への転換を図り、多様な公共交通手段を活用して市内を回遊できる仕組みづくりを行います。

(ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上

「那覇市交通基本計画」（平成 22 年 3 月策定）の基本理念では、「車中心のまちから人中心のまちへの転換」が謳われ、基本目標として「誰もが移動しやすいまちをつくる」ことを掲げています。市民は勿論のこと、観光客にとって移動しやすく快適な交通環境の実現に、交通基本計画の施策と連携して取り組みます。

車利用から公共交通利用への転換を図り、那覇市の歴史資源と生活文化資源を公共交通機関と徒歩、自転車で回遊するため、交通結節点の整備と二次交通ネットワーク化を進めます。

また、公共交通機関と徒歩、自転車で回遊することにより、環境に優しい観光地を目指します。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・渋滞に悩まされず、那覇のまちと資源を堪能出来る。
- ・歩いて廻ると地元の人とコミュニケーションの機会ができる。
- ・移動に必要な情報が容易に取得できるため、旅行計画が立てやすい。
- ・自転車だからこそ沖縄の風の心地よさを感じる。

【取組の内容】

- ・レンタカーから公共交通への乗り換えを促す施設の整備を図る。
- ・パーク＆ライド促進のため、ゆいレール駅周辺の駐車場情報の発信・提供に取り組む。
- ・路線バスの運行情報やゆいレールから路線バスへの乗り継ぎ情報の提供に取り組む。
- ・雨や日差しを遮り、快適に路線バスを利用するためのバス停上屋の整備を行う。
- ・観光客の回遊性を考慮した観光バス乗降場所、待機場の整備を行う。
- ・環境に優しい次世代型の新交通システムの導入に取り組む。
- ・主要観光資源やスポットを通る公共交通ルートの分かりやすい情報提供及びゆいレールとバス路線を活用した観光ルートの推奨に取り組む。
- ・主要な観光資源だけでなく、周辺にある隠れた観光資源をルート化し、情報発信に取り組む。
- ・安全で快適な自転車走行空間と駐輪場の整備を進め、レンタサイクルの利用促進を図る。

(イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり

取組の展開①「国際リゾート沖縄の拠点都市として機能・魅力の充実」と連動し、那覇市の観光資源を結ぶまち歩きルート上の沿道植栽、維持管理、統一した那覇らしさを感じさせる公共サインなどの整備に取り組みます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・安全で快適にまち歩きできることで、のんびり探索できる。
- ・沖縄の花木や素材を活用することで沖縄らしさを感じる。

【取組の内容】

- ・都市環境整備と連携し、まち歩きルート上の街角スポットの植栽化促進を図る。
- ・観光客や歩行者が、楽しく安全に歩ける道づくりに取り組む。
- ・年間を通じて花のまち歩きを実現するため、行政、市民、民間事業者の協働により魅力ある植栽、維持管理、景観づくりに取り組む。
- ・那覇市の景観に調和した誰もが安全・安心に移動できる公共サインの整備に取り組む。
- ・観光ゾーニングの「中心市街地賑わいゾーン」は、歩行者優先の交通対策を検討し、安心して快適に歩ける街の実現に取り組む。

⑤ 那覇市観光の内外への情報発信強化

那覇市の滞在・交通情報をはじめ、歴史文化資源や生活文化資源の魅力を、興味関心が高い客層に的確に届けるための情報発信を強化します。

(ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信

那覇市への来訪需要を拡大し、来訪者の再訪意向を喚起するためには、観光客が那覇市を「より多く／深く知りたい」と感じる事が不可欠です。観光客のニーズに応じて、生活文化資源を含む多様な観光資源に関する新鮮な“今だけの魅力”をタイムリーに集約・発信することができる体制を整備し、情報発信に取り組みます。

また、細分化されたニーズに対応した魅力ある情報を、様々な情報発信ツールや情報伝達経路を用いて多層的に発信します。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・発掘し磨き上げた観光資源に関する「新鮮な」情報を収集できる。
- ・過ごし方のニーズに応じた、那覇市滞在の楽しみ方の選択肢が拡大する。
- ・従来の観光地を訪れるだけでなく、自分だけの体験、特別な体験をする機会が増加する。
- ・旅行会社のパンフレットやウェブサイト、ソーシャルメディアなど、多層的な情報ツールから簡便に、充実した情報を入手できる。

【取組の内容】
・ 季節・時間帯に応じたコンテンツやイベント等の内容及び魅力・楽しみ方に関する情報をタイムリーに集約・発信できるネットワークの整備に取り組む。 ・ 観光客のニーズに応じた、那覇市の旬な魅力に関する情報発信に取り組む。 ・ 観光客が欲しい情報を簡便に手に入れられる情報体制の整備に取り組む。 ・ 市場（潜在観光客）にとって利便性の高い那覇市観光情報ポータルサイトやパンフレット、画像・動画コンテンツ集等の観光情報ツールの構築を図る。 ・ フィルムコミッション、アニメ等を通じた那覇市のプロモーション推進に取り組む。

(イ) ロコミ・SNS 情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開

観光客自身が発信するロコミが旅行行動や購買に与える影響力は極めて大きいものとなっています。地域の情報発信及び情報共有の手段のひとつとして、ツイッターやフェイスブックといった Web 上のソーシャルメディアを活用し、市民や観光客の感動やお気に入りの場所を発信する仕組みを充実します。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・ ガイドブック等に記載していない、通な情報を得られる。
- ・ 自身が見たり体験した驚きや感動を発信（シェア）することができる。

【取組の内容】
・ 市民や観光客による情報発信が容易に可能なソーシャルメディアの環境を充実させ、その普及と活用促進を図る。

⑥ 外国人観光客への体制整備

海外からの観光客は、隣接する台湾、香港などを中心に伸びてきましたが、日本への入込客全体の中での沖縄県の訪問比率は低位です。沖縄県が目指す入域観光客 1,000 万人、うち外国人観光客 200 万人（第 5 次沖縄県観光振興基本計画）を達成するため、那覇市においても今後さらに幅広い国からの誘致を図り、その受入体制整備に努めます。

(ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション

外国人観光客の誘客、海外に向けたプロモーションは、沖縄県全体として取り組むべきものです。今後増加が予想される海外からの観光客に対しては、それぞれの国や地域の旅行志向や日本及び沖縄に対する期待、慣習などを踏まえ、沖縄県と連携して誘客戦略やプロモーションを展開します。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・ 安心して那覇市を観光できる。
- ・ 自国の慣習に配慮した日本及び沖縄のおもてなしを感じる。

【取組の内容】
・各国の日本旅行への期待と満足度に配慮した商談会、情報提供等のプロモーション実施に取り組む。 ・JNTO（日本政府観光局）、県、OCVBの国内、海外事務所との連携強化を図る。 ・ムスリムなどの国の信仰、信条や慣習に配慮した接客ハンドブック、パンフレットなどの制作配布や研修会開催に取り組む。 ・県外・海外の旅行会社に対する説明会や商談会、情報提供等のプロモーション活動の実施に取り組む。 ・外国人の目から見た那覇市の魅力情報発信サイトの立ち上げの検証に取り組む。

(イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信

日本の「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されたように、沖縄の食、物産、伝統なども世界からみて魅力や価値が高いものと捉え、体験メニューの開発とアピールに取り組めます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・日本の中でも沖縄文化の違いに関心、感動する。
- ・外国人にも分かりやすく体験できる。

【取組の内容】
・外国人向け体験メニューの開発に取り組む。 ・外国向けのネットサイト開発、外国語標記パンフレットに取り組む。

(ウ) 外国語標記、Wi-Fi 環境整備など情報発信の整備と利便性向上

現在は国際通りと主要ターミナルを中心に整備されている Wi-Fi 環境を首里城一帯、まち歩きルートなどに拡大し、快適な Wi-Fi 環境の実現を目指します。

また市内の主要観光施設、ターミナルなどでの外国語標記案内を充実させます。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇市を歩いて観光しても随時情報が得られるため、安心である。

【取組の内容】
・Wi-Fi スポット、サービスの拡大を図り、そのサービス情報の提供に取り組む。 ・携帯電話、スマートフォンに対応した観光情報、サービスの提供に取り組む。 ・公共交通機関の案内の多言語化を図る。 ・QR コードやアプリを活用した観光案内を行う。 ・外国人向け ATM の設置及び決済環境の整備を促進し、その設置情報の発信に取り組む。 ・消費税免税店の拡大と制度の情報発信。

(エ) 観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成

宿泊施設や観光施設では一定の外国語対応が進んでいますが、一般商店や飲食店でも、国際的な観光リゾートの拠点都市に相応しい対応がとれるよう、語学力の向上を推進します。

また那覇市の歴史資源や生活文化資源の魅力を外国人観光客に伝える通訳ガイドの育成を図ります。特に若者の国際感覚育成も兼ねて学生のボランティアガイドの育成を図ります。

【想定される観光客の楽しみ方、時間の過ごし方】

- ・那覇市を歩いて観光すると、一般商店や飲食店でも、おもてなしの心が感じられる。
- ・那覇市のまちの生活を伝えてくれるガイドがいる。

【取組の内容】

- ・事業者向け国・言語別の簡便な言葉のガイドブック作成、配布に取り組む。
- ・一般商店や飲食店なども含んだ事業者向け語学講座の開設に取り組む。
- ・那覇市内の外国語学校、大学などと連携し、「ボランティアガイド体験講座」の実施に取り組む。
- ・通訳案内士、医療通訳、ビジネス通訳などの育成を図る。

⑦ 観光産業の持続的な発展支援

観光が那覇市のリーディング産業として持続するために、観光産業の地位や環境向上に取り組めます。また特に次世代を担う若者にとって魅力があり誇りの持てる観光産業への発展を支援します。

(ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上

那覇市の観光産業がリーディング産業として認知され、観光産業従事者が、安心して誇りを持って就業できる産業となるため、労働環境・条件の向上を図ります。また、観光産業従事者のスキルアップに取り組めます。

【取組の内容】

- ・長時間労働の抑制や休日休暇取得、給与水準の向上、女性管理職の登用など、観光産業の労働環境改善に業界として取り組む。
- ・大学と連携した語学研修、観光学 MBA など、スキルアップ講座の開設に取り組む。

(イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上

那覇市の経済振興に対する観光産業の果たす役割と効果の大きさを、子供から高齢者まで市民にも理解してもらい、観光産業に対する社会的認知向上と市民の観光客に対するおもてなしの機運形成を図ります。

【取組の内容】
・那覇市の観光の波及効果を分かりやすく数値化、ビジュアル化した冊子の作成及び公表に取り組む。 ・小・中・高校での「那覇市の観光」の特別授業の実施の検討を行う。 ・小・中・高校での職場訪問及び就労体験などで観光産業に触れる機会の創出を図る。

(ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進

地球環境の保護が重視される中で、那覇市の宿泊施設、観光産業の環境に対する意識を向上させ、環境保護の取り組みを促進させます。

【取組の内容】
・生ごみ、廃油、廃熱などのリサイクルへの取り組みに対する支援を行う。 ・エコ・環境配慮などに取り組む施設、事業者に対する表彰制度の検討を行う。

(エ) 観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施

那覇市の観光客の量的変化と内容の傾向の把握を、今まで以上に精査し、今後の観光振興の取組に役立てます。一方で多様化する観光客の志向や動向を把握する調査手法を検討します。また観光客だけでなく、市民の観光に対する意識を定期的に測ることで、観光産業の浸透を図るものとします。

【取組の内容】
・外国人客も含めた既存観光入込統計調査の精度向上を図る。 (サンプル数向上、宿泊客数推計手法検討、定性調査、満足度調査の検討など) ・市民意識調査や県外在住者のイメージ調査などを定期的に行う。 ・インターネットを活用した簡便な調査手法の検討を行う。

3 推進体制

(1) 計画の推進体制

本計画は、行政、市民、民間事業者が那覇市観光の将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で連携、協働して取り組むものです。

本計画の推進のために、市の横断的な推進体制を確立します。また、他産業や環境、まちづくりなど、他の分野の取り組みとの連携、及び市民との協働による推進体制作りに取り組みます。

市、市民、民間事業者の基本的役割、推進機関は以下のとおりです。

ア 市

市は、本計画の取り組みについて、国・県などとの調整・連携を図り、庁内関係部課との横断的連携により総合的に推進します。そのため、推進体制として、庁内横断的組織である「那覇市観光推進本部（仮称）」を設置します。

また、市民や民間事業者の取り組み支援の充実を図ります。

イ 市民

市民は、那覇市の観光に関する理解及び関心を深め、観光客を温かく迎え入れる意識の醸成に市と協働して取り組みます。また、地域の伝統文化の継承や、地域の緑化などに取り組みます。

ウ 民間事業者

民間事業者は、本計画の趣旨を理解し、観光客の満足度向上のために様々な事業に取り組みます。

民間における推進体制では、那覇市観光協会が中心となり観光分野以外も含めた民間団体・企業との連携を深めることが重要です。那覇市観光協会には、特に民間同士が連携すべき取り組みに対するプラットフォームとしての機能を充実させることが求められます。

エ 推進機関

本計画の推進のため、観光事業者だけでなく、NPO やボランティア団体、まちづくり関係者なども含む広い分野からの参加者で構成される推進機関の設置に取り組みます。

(2) 行政、市民、民間事業者の役割分担

本計画の取組は行政、市民、民間事業者が各々の役割を踏まえて取り組むものです。また那覇市が実施主体となるべき取組については、観光課が主体となるだけでなく、他の部課の取組でありながら観光面での配慮や調整が必要なものについては観光課が調整役として関わっていくことが求められます。一方の民間主導となるべき取組は観光協会が積極的に関与し、コーディネート役として取り組む必要があります。

図表Ⅲ-1 取組推進の役割分担

取組展開	取組	国・県	那覇市	協会団体	民間	市民
拠点① 国際都市としての魅力の充実 （沖縄・那覇・糸島の観光機能の強化）	(ア) 国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受け入れ機能の強化	○	○	○		
	(イ) 沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実	○	○	○	○	
	(ウ) 離島及び周辺地域と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化		○	○		
	(エ) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり	○	○	○	○	○
発掘② 沖縄・那覇・糸島の観光資源の活用 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実		○	○	○	○
	(イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実		○	○	○	○
	(ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流		○	○	○	
	(エ) 那覇ならではの地場産品、物産の継承、発掘と魅力向上		○	○	○	
投入③ 那覇市・那覇市観光協会の体制強化 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化		○	○	○	○
	(イ) ユニバーサルツーリズムの推進	○	○	○	○	○
	(ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開		○		○	○
	(エ) 安全・安心・快適なまちづくり	○	○	○	○	
	(オ) 観光協会の機能充実		○	○	○	
連携④ 交通・観光・観光協会の連携 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上	○	○			
	(イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり	○	○		○	○
発信⑤ 那覇市・那覇市観光協会への観光情報発信 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信		○	○	○	
	(イ) 口コミ・SNS情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開		○	○	○	○
外国人観光客への体制整備 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション	○	○	○	○	
	(イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信		○	○	○	
	(ウ) 外国語標記、Wi-Fi環境整備など情報発信の整備と利便性向上	○	○		○	
	(エ) 観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成	○	○	○	○	○
観光産業の発展支援 （観光・文化・歴史・自然・産業・生活文化の活用）	(ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上	○	○	○	○	
	(イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上		○		○	○
	(ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進	○	○	○	○	
	(エ) 観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施		○	○		

(3) 取組のスケジュール

取組の実施スケジュールについては、目標である平成36年度までの10年間を短期（3年間）、中期（5年間）、長期（10年間）の3つの段階に分けました。

短期に実施すべき取組は、以下の観点に当てはまるものを位置づけましたが、これらは早急に具体化への体制づくりと実行が求められます。

- 那覇市の観光にとって緊急性が高く、すぐに着手すべきもの
- 民間主体の取組で、投資等のリスクが少なく観光メニューの充実が図りやすいもの
- 既に個々の民間関係者で取り組みが始まっているものの、横断的連携体制を確立することで、より推進力が広がり加速されるもの

ただし、このスケジュールの意味は取組に着手し、この期間に一定の成果を目指す目安となります。したがって、短期でも取組自体は3年で終わるわけではなく、さらに継続・充実を図るべきものと位置づけます。また「おもてなしの展開」のように取組内容によっては達成に時間を要するものや継続して取り組むべきものなどがあります。これらを中期あるいは長期取組として位置づけました。

図表Ⅲ・2 取組の成果を目指すスケジュール

*表中スケジュールの白抜き部分は取組を行わない意味でなく、継続するものである。

取組 展開	取組	実施スケジュール		
		短期3年	中期5年	長期10年
実 施 の と し て 充 実 す べ き 取 組	(ア) 国内外からの交通ターミナル機能とクルーズ船受け入れ機能の強化			
	(イ) 沖縄MICE観光誘致と機能強化、アフター・ビジネス兼観光の充実			
	(ウ) 離島及び周辺地域と連携した那覇市としてのリゾート機能の強化			
	(エ) 国際リゾートの拠点都市に相応しい都市景観づくり			
発 見 し の 取 組	(ア) 首里城を筆頭とした琉球王国の歴史の学び・体験メニューの充実			
	(イ) 五感を楽しませる生活文化体験メニューの充実			
	(ウ) 伝統的な文化の継承・発信と新たな若者文化の発信・交流			
	(エ) 那覇市ならではの地場産品、物産の継承、発掘と魅力向上			
け 入 の 取 組	(ア) 観光サポーター・ガイドとなる担い手の育成と組織化			
	(イ) ユニバーサルツーリズムの推進			
	(ウ) 地域ぐるみでのおもてなしの展開			
	(エ) 安全・安心・快適なまちづくり			
	(オ) 観光協会の機能充実			
連 携 の 取 組	(ア) 交通結節点整備と回遊できる仕組みづくり、二次交通の利便性向上			
	(イ) 巡って楽しめる魅力的な道づくり・景観づくり			
報 告 の 取 組	(ア) 世界へ向けた旬の魅力の情報発信			
	(イ) 口コミ・SNS情報の展開～市民と観光客によるシティセールスの展開			
の 外 国 人 の 取 組	(ア) 国別のニーズ、特徴を見据えた誘客戦略・プロモーション			
	(イ) 沖縄文化を通じた日本の魅力、那覇ブランドの発信			
	(ウ) 外国語標記、Wi-Fi環境整備など情報発信の整備と利便性			
	(エ) 観光事業者の語学力向上及び外国人向け通訳・ガイドの育成			
的 観 光 産 業 の 取 組	(ア) 雇用の確保、労働環境の改善による観光産業の社会的地位の向上			
	(イ) 子供から高齢者まで、那覇市観光に対する市民理解の向上			
	(ウ) エコ、環境保護に対応した観光産業の取り組みの推進			
	(エ) 観光入込統計の充実および観光客と市民の意識調査の定期的実施			

(4) 計画進捗評価と進捗管理手法

本計画は 10 年後の平成 36 年度を目標としていますが、その間に内外の情勢や環境が変化することが予想されるため、必要に応じて計画の見直しを行います。また取組の推進は行政、市民、民間事業者の幅広い主体が連携して行うため、その連携や進捗状況を俯瞰し客観的に評価することが問われてきます。いわゆる PDCA サイクルに基づく、観光基本計画の進捗評価及び進捗管理の仕組みを確立し継続します。



PDCA によるスパイラルアップ

ア 計画進捗評価

計画の進捗評価は行政の個別事業毎の進捗評価ではなく、行政・民間・市民の取組み全体に対して、取組の展開①～⑦毎に那覇市観光の視点から進捗を評価するものです。

進捗評価にあたっては下記の視点で評価します。

(ア) 取組が計画スケジュールに沿って動き出しているか

取組の動き出しが当初の計画スケジュールに沿って進められているか、進んでいない場合の課題は何かを検証する。

(イ) 取り組み内容が計画の趣旨、狙いに沿っているか

実施中の取組の方向、内容が計画の趣旨に沿っているかを検証する。

(ウ) 推進主体と関係者との連携体制が出来ているか

推進体制として実施主体だけでなく、横断的な連携が出来ているか検証する。

(エ) 実行した取組の効果はどうか

実行した取組について、その効果を検証する。

(オ) 計画目標数値の途中経過はどうか

10 年後の計画目標数値達成のプロセスとして、その進捗を検証する。

イ 観光基本計画へのフィードバックと修正

計画進捗評価と環境変化などを踏まえて、取組の一部修正や進め方への方策を検討します。

ウ 計画進捗管理体制

那覇市観光基本計画の進捗管理を持続的に遂行するために、観光課を所管とし、学識経験者、民間有識者などで構成する『那覇市観光審議会』において、進捗管理及び評価を行うこととします。

【参考資料】

1 目標値の設定について

将来目標値を定めるにあたり、想定した宿泊人数及び平均泊数については以下のとおりである。

(1) 宿泊人数

観光庁の宿泊旅行統計調査を基に那覇市の平成 25 年度の宿泊人数を推計すると、約 446 万人である。那覇市の拠点性や宿泊魅力の増加により、那覇市への宿泊率を高めることで、平成 36 年度の宿泊人数を 500 万人と想定する。

(2) 平均泊数

宿泊旅行統計調査の延べ宿泊者数と宿泊人数を基に那覇市の平成 25 年度の平均泊数を推計すると、1.4 泊である。MICE の大型施設の建設計画や新たな観光コンテンツの開発等の沖縄県全体の取組による相乗効果を踏まえるとともに、那覇市の滞在観光魅力の向上を図ることで宿泊数を伸ばし、平成 36 年度の平均泊数を 2.6 泊と想定する。

2 用語説明

用語後の（ ）内の数字は、用語が記載されているページです。

【ア行】

ASEAN（アセアン）（ 5, 10 ）

東南アジア諸国連合（Association of South - East Asian Nations）のことで、東南アジア 10 か国から成り、域内における経済成長、社会・文化的発展の促進、政治・経済的安定の確保、域内諸問題に関する協力を目的としている。

アプリ（ 69 ）

アプリケーション・ソフトウェアの略で、利用者の目的を直接実現するために作られた機能を持つソフトウェアを指す。スマートフォンが普及し、情報検索やゲームなども含むソフトウェア全般を指す呼称として使われるようになった。

入込客（ 28, 57, 58, 59, 68 ）

日常生活圏以外の場所へ旅行し、そこでの滞在が報酬を得ることを目的としない者のこと。

那覇市の観光統計では、県外及び外国より那覇空港着で入域した客数に、県外・海外在住者の割合を乗じ、さらに、那覇港から入域した客数を加えて推計している。

ATM（ 46, 69 ）

現金自動預け払い機のことで、通常、紙幣（及び硬貨）、通帳、磁気カード等の受入口、支払口を備え、金融機関や貸金業者、現金出納を行う業者の提供するサービスが、顧客自身の操作によって取引できる機械を指す。

SNS（ 56, 58, 68, 73, 74 ）

ソーシャルネットワークサービスの略で、個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援する、インターネットを利用したサービスのこと。趣味、職業、居住地域などを同じくする個人同士のコミュニティを容易に構築できる場を提供している。

LCC（Low Cost Carrier）（ 14 ）

格安航空会社のこと。特定区間の運航に限定、使用機材の統一、機内サービスの軽減等により運航経費を軽減したり、航空券の予約・販売を電話やインターネットで直接行うことにより、旅行会社手数料等の流通経費を軽減したりするなど、あらゆる経費を抑えることで、航空運賃の大幅な低廉化を実現した。

沖縄21世紀ビジョン（ 1, 48 ）

県民の参画と協働のもとに、将来（概ね2030年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにする基本構想。沖縄県として初めて策定した長期構想で、沖縄の将来像の実現を図る県民一体となった取り組みや、これからの県政運営の基本的な指針となる。

【カ行】

QRコード（ 69 ）

デンソーウェーブ社が開発した一定の量のデータを図形のパターンで表すことができる二次元コード。従来のバーコードに比べ格納できる情報量が多く、数字だけでなく英字や漢字など多言語のデータも格納できる。日本では、販売されているカメラ付き携帯電話のほとんどがQRコードの読み取りに対応しており、インターネットを利用した情報表示などに利用されている。

ゲートウェイ（ 1, 44, 48, 57, 59 ）

広義には「玄関口」の意味で、本計画では、ある地域から他の複数の地域へ移動するための交通ネットワーク（航空路・航路、道路網、公共交通網等）同士をつなぐ場所、並びにその機能を指す。

交通結節点（ 46, 56, 58, 66, 73, 74 ）

複数、あるいは異なる交通手段の乗継ぎを担う役割や機能を担っていること、またはその場所。

【サ行】

サブカルチャー（ 62 ）

主流の文化に対する、少数派に支持されている娯楽・趣味文化のこと。観光においては、日本のアニメ、まんがなど、他国にはないコンテンツとして訪日観光の集客コンテンツとなっている。

宿泊施設稼働率（ 18, 19, 30, 32, 44 ）

ホテルや旅館などの宿泊施設において、実際に顧客が宿泊している部屋数、または人数の割合。

客室稼働率は、全客室数のうち実際に顧客が宿泊している客室数の割合であり、定員稼働率は、定員のうち実際に宿泊している人数の割合のことである。

スピリチュアルスポット（ 62 ）

本計画において使用される「スピリチュアルスポット」は、その地域や場所での住民意識や、歴史的なつながりを背景とした、信仰的な意味合いを持つ場所をいう。

ソーシャルメディア（ 67, 68 ）

誰もが参加できるインターネット上の情報発信技術などを用いて設計された情報媒体。利用者の発信した情報や利用者間のつながりによってコンテンツを作り出す要素を持った Web サイトやインターネットサービスなどを総称し、近年では SNS、動画共有サイト、動画配信サービス、などが含まれる。

【タ行】

ツイッター（ 68 ）

140 文字以内の「ツイート」と称される短文を投稿できる情報サービスで、Twitter 社によって提供されている。サービス名の「twitter」は英語で「さえずり・興奮」「無駄話」、または「なじる人・嘲る人」の意味で日本では「つぶやき」と意識され定着している。

【ハ行】

ハラール（ 51 ）

イスラム教で合法とされる事や物を意味するアラビア語。ハラールの反対は「ノン・ハラール」あるいは「ハラム」と呼ばれ、これらイスラム教徒にとっては有害な物、中毒性のある物を意味する。直接又は間接的にムスリムが利用するものは全てハラール認証の対象となり、飲食物のみならず、医薬品、化粧品、それらの中間原料等を含む。

ビジット・ジャパン・キャンペーン（ 4 ）

国土交通省が中心となって行っている、外国人旅行者の訪日促進活動。このキャンペーン実施本部が海外諸国での日本旅行の広報や、国内における外国人旅行者向きインフラの整備などを行っている。

フェイスブック（ 68 ）

フェイスブック株式会社が提供するインターネット上のコミュニティサイトで、日記や考察、つぶやきのような個人的な投稿から、企業の公式ニュースリリースのような投稿まで、世界中で幅広く利用されている。「FB」と略されることもある。

プラットフォーム（ 65, 72 ）

「壇上」や「（高い）足場」といった意味を持つ英語であり、言及する対象によってプラットフォームが指し示す対象は異なる。観光においては、サービスの提供者と市場（旅行会社、旅行者）をつなぐワンストップ窓口としての機能を担う事業体・機能などを指す。

【マ行】

MICE（マイス）（ 3, 6, 22, 45, 56, 57, 59, 73, 74, 76 ）

Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一形態を指す。一度に大人数が動くだけでなく、一般の観光旅行に比べ参加者の消費額が大きいといわれている。

ムスリム（ 69 ）

イスラム教徒を意味するアラビア語。本来は「（神への）帰依者」の意味。

【ヤ行】

UNWTO（ 3 ）

国連世界観光機関の略称で、昭和 45（1970 年）に採択された UNWTO 憲章に基づき設立された、観光分野における世界最大の国際機関。この憲章は、国際間の理解、平和及び繁栄に寄与するため、並びに性、言語又は宗教による差別なく、すべての者のために人権及び基本的自由を普遍的に尊重し遵守することに寄与するため、観光を振興し発展させることを根本目的としており、国際会議やセミナー等の開催、観光開発支援、観光の持続的発展の促進、市場調査及び観光統計などを行っています。

ユニバーサルデザイン（ 41, 43, 45, 64 ）

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。

ユニバーサルツーリズム（ 7, 56, 57, 64, 73, 74 ）

すべての人が楽しめるよう作られた旅行を指して使われる。高齢者や障害者も参加できる旅行のことを「バリアフリーツーリズム（バリアフリー観光）」と呼ぶが、ユニバーサルツーリズム（ユニバーサル観光）は一歩進んで、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できることを目指している。

【ラ行】

ラムサール条約（ 24, 25 ）

正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約。」昭和 46(1971)年に条約が採択されたイランの都市であるラムサールにちなんでラムサール条約と呼ばれる。国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的としている。

【ワ】

Wi-Fi（ワイファイ）（ 56, 58, 69, 73, 74 ）

無線 LAN 機器の標準規格のひとつであり、また、無線 LAN 自体のことをいう。無線 LAN は、電波を数 m～数十 m 程度の範囲内で高速なデータ通信を行う通信技術で、複数のコンピュータや電子機器を相互に接続してインターネット通信をすることができる。

那覇市観光基本計画

〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号

那覇市 経済観光部 観光課

TEL : 098-862-3276 FAX : 098-862-1580

E-mail : k-kan001@neo.city.naha.okinawa.jp